

病胸廓ノ畸形縮小、頰骨下平扁、肺勞略、血氣管支炎、呼吸短息、聲音嘶啞、慢性咳嗽、其他肺結核ノ諸兆

十一 腹部ノ腫脹若クハ膨脹非常、腎ノ肥滿、肝脾腎ノ疾病、脫腸、腹輪ノ弛緩、癩病、尿道狹窄、小便失禁、或ハ尿道ノ瘻孔症

十三 片罌若クハ兩罌ノ下降セサル者、精系靜脈、怒張、罌丸炎、腫脹、罌丸病

十四 痔瘻、肛門罅裂、痔疾、脫肛、或ハコンヂロ、タ

十五 四肢ノ痲痺、薄弱、收縮、關節運轉ノ不全、動脈瘤、靜脈怒張、手足若クハ指趾ノ畸形、醜形、體性結節

十六 脊梁骨胸廓諸骨々盤ノ負傷、或ハ全身病ニ起因スル歪形

在郷海軍々人心得

(一) 現役ヨリ豫備役ニ入りタル下士卒ハ十四日以内ニ在籍鎮守府ニ歸スル海兵團所在地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ鈔カチサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出スヘシ滞在若クハ旅行ノ爲メ前述ノ日數間ニ歸郷シ難キトキハ召集通報人ヲ定メ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ

(二) 豫備役後備役下士卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ

(三) 豫備役後備役下士卒ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ平時ニ在テハ簡閱點呼又ハ演

習ノ爲メ召集スルコトアリ

(四) 豫備後備ノ下士卒已ムテ得サル事故アリ演習召集ノ猶豫又ハ簡閱點呼召集ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ願書ヲ作り其願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ在籍鎮守府ノ司令長官ニ差出スヘシ此場合ニ於テハ鎮守府司令長官ハ審査ノ上其許否ヲ決ス

(五) 豫備後備ノ下士卒外國ニ在リ召集ノ通報ヲ受ケ又ハ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ歸著後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ツヘシ

(六) 豫備後備ノ下士卒ニシテ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル文官并ニ市町村長助役收入役及ヒ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務

ヲ奉スル其ノ他ノ公吏タルトキ及ヒ外國ニ在ルトキハ演習及ヒ簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員タルトキ其ノ開會中亦同シ

(七) 豫備後備ノ下士卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ并ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出スヘシ

(八) 豫備後備ノ下士卒ニシテ死亡シ又ハ所在不明トナリタル者アルトキ及ヒ所在不明中戸籍ヲ轉換シタルトキハ十四日以内ニ其ノ戶主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ所在不明者

ノ歸郷シタルトキ考クハ其ノ所在ヲ知得シタルトキ亦同シ

(九) 豫備後備ノ下士卒重、輕罪、罰金ヲ除クノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及ヒ刑期ヲ記シ其ノ戶主(本人戶主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出ツヘシ

(一〇) 豫備後備ノ下士卒正當ノ事由ナク召集ニ應セサルトキ又ハ召集中逃亡シ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ犯罪ノ爲メ召集ヲ缺キタルトキハ其ノ年ヲ服役年期ニ算入セス

(一一) 豫備後備ノ軍人ハ其本籍地ニ於テ召集ニ應スルヲ例トス但シ本邦ニ在テハ寄留地ニ在テハ外國留留ノ者ニ在テハ其ノ所在地ニ於

テ、海員タル者ニ在テハ本人ノ屬スル船舶ノ船籍港若クハ平常運航ノ一港ニ於テ召集ニ應スルコトヲ得

前項但書ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ但外國在留ノ者ハ本文ノ手續ヲ爲スト同時ニ在留國ノ領事官貿易事務官ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ

(一二) 豫備後備役軍人十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集通報人ヲ定メ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府兵事官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ准

士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ兵事官ニ届出ツヘシ但シ外國へ航海又ハ在留セントスルトキハ其ノ事由ヲ記シ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ其ノ歸朝シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ兵事官ニ届出ツヘシ

(一三) 充員召集ノ時被召集ニ代リ召集狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其旨ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ本人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

(一四) 准士官以上召集狀ヲ受領シタルトキハ旅費ヲ受領シ速ニ指定ノ場所ニ到着スヘシ下士卒召集狀ヲ受領シタルトキハ旅費及ヒ旅費證票ヲ受領シ其ノ令狀ニ指定シタル期日ニ

於テ海兵團ニ到着スヘシ

(一五) 召集地ニ到ルノ途中ニ於テ已ムヲ得サル事故ノ爲メ到着ヲ遅延スル場合ニ在テハ其ノ事故傷痍疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ、其ノ他ノ事故ナルトキハ其ノ事故ノ生シタル地ノ市町村長、警察官吏、船長若クハ驛長ニ就キ證明書ヲ受領シ到着ノ上准士官以上ニ在テハ到着地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ差出スヘシ

(一六) 召集令狀ノ交付ヲ受クルモ已ムヲ得サル事故ノ爲メ速ニ出發シ雖キカ或ハ豫定期日迄ニ指定ノ場所ニ到着スルコト能ハサル場合ニ在テハ其ノ事故傷痍疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添へ本人ヨリ旅行犯罪失踪等ナルトキハ召集令狀ヲ受領シタル者ヨリ事由屆書ヲ

二十四時間以内ニ准工官以上ニ在テハ海軍大臣ニ宛テ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府兵事官ニ宛テ市町村長ニ差出スヘシ

市町村長其届書ヲ受領スルトキハ准士官以上ノモノニ付テハ本人ノ到着スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ進達シ下士卒ノモノニ付テハ鎮守府兵事官ニ送付スルモノトス

(一七) 事由届書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ事故止ミタルトキハ准士官以上ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待チ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若クハ町村長ヨリ召集令狀ヲ受取り其指示ニ從ヘシ

(一八) 召集シタル下士卒ハ海兵團ニ於テ身體検査ヲ行フ身體検査ニ於テ服役ニ堪ヘスト認ムルトキハ召集ヲ解キ旅費ヲ給シテ歸郷セシ

△ (一九) 演習召集令狀ノ交付ヲ受ケタル者其ノ父母重症ニ罹リ若クハ死亡シタルトキハ親戚又ハ近隣戸主二人以上ノ連署ノ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書若クハ死亡證ヲ添ヘ准士官以上ニ在テハ到着スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ鎮守府司令長官ニ二十四日以内ノ延期ヲ願出ルコトヲ得

(二〇) 簡閱點呼ノ場合ニ於テ被點呼者傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ參會スルコト能ハサルトキハ市町村長ヲ經テ事由届書ヲ點呼執行日時ニ簡閱點呼執行官ニ差出スヘシ但傷痍疾病ノ者ニ在テハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘキモノトス

(二一) 上述セル(一)(二)(五)(七)(八)(九)(二二)ニ違犯スル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ(二三)ニ違犯スル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ(二六)(一七)(二〇)ニ違犯スル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處セラレナリ

在郷海軍々人願届書式

○歸郷届  
海軍下士卒服役條例第二十七條 私儀

明治何年何月何日現役滿期解隊相成候ニ付同年同月何日何地出發同年何月何日歸郷致候依テ此段御届申上候也

本籍住所

年月日 豫(後)備海軍下士卒 何 某印  
鎮守府兵事官宛

○兵籍異動届  
海軍下士卒服役條例第二十九條  
父(母)又ハ妻、兄、弟) 何 某  
右ハ明治何年何月何日死亡(又ハ何家ニ養子縁組或ハ婚姻等)致シ候ニ付此段御届申上候也

本籍住所  
年月日 豫(後)備海軍下士卒 何 某印  
何鎮守府兵事官宛

○演習召集ノ猶豫願  
海軍下士卒服役條例第三十二條 私儀

何年何月何日大演習ノ爲メ(又ハ小演習召集

ノ爲メ)何鎮守府海軍團ニ到着スヘキ召集令  
狀ニ接シタルモ何々ニ付(已ムテ得サル事故  
ヲ掲ク)該演習召集猶豫被成下度此段奉願候  
也

年月日

本籍住所

豫(後)備海軍下士卒 何 某印

何鎮守府司令長官何某殿

○簡閱点呼召集ノ免除願

海軍下士卒服役條例第三十二條

私儀

何年何月何日簡閱点呼ノ爲メ何處ニ參會候様  
召集相成候處何々ニ付(已ムテ得サル事故ヲ  
掲ク)該簡閱点呼召集免除被成下度此段奉願  
候也

年月日

本籍住所

豫(後)備海軍下士卒 何 某印

何鎮守府司令長官何某殿

○歸朝 届

海軍下士卒服役條例第三十三條

私儀

豫テ何國へ渡航罷在候處今般充員召集ノ舉  
ルコトヲ確知シ早速歸朝ノ途ニ就キ本日午前  
(午后)何時歸着候ニ付此段御届申上候也

年月日

本籍住所

豫(後)備海軍下士卒 何 某印

何鎮守府兵事官殿

○就職 届

海軍下士卒服役條例第三十五條

私儀

何年何月何日何府縣郡何市(町又ハ村)長(若  
クハ助役、收入役、法律ヲ以テ設立シタル議  
會ノ議員)ニ就職候ニ付此段御届申上候也

年月日

本籍住所

豫(後)備海軍下士卒 何 某印

何鎮守府兵事官宛

○罷職 届

海軍下士卒服役條例第三十五條

私儀

何年何月何日何府縣郡何市(町又ハ村)長(若  
クハ助役、收入役、法律ヲ以テ設立シタル議  
會ノ議員)辭職(滿期退任)致候ニ付此段御届

申上候也

年月日

本籍住所

豫(後)備海軍下士卒 何 某印

何鎮守府兵事官宛

○死亡(失踪) 届

海軍下士卒服役條例第三十六條

本籍住所

戶主某男兄、弟(戶主ノ續柄)

豫(後)備海軍下士卒 何 某

右ハ何年何月何日何地ニ於テ死亡(又ハ何月  
何日逃亡)致シ候ニ付此段御届申上候也

年月日

右戶主(本人戶主ナルトキ家族  
中家事ヲ擔當スル者)

何鎮守府兵事官殿

何 某印

○失踪者歸郷届

海軍下士卒服役條例第三十六條  
本籍住所

戸主某男、兄、弟(戸主トノ續柄)  
豫(後)備海軍下士卒 何 某

右ハ何年何月何日所在不明ノ旨御届致置キ候  
處去ル何日歸郷致候間此段御届申上候也  
年月日

右戸主(家事擔當者)

何 某印

何鎮守府兵事官殿

○處刑届

海軍下士卒服役條例第三十七條

本籍住所

戸主某男、兄、弟(戸主トノ續柄)  
豫(後)備海軍下士卒 何 某

右ハ何罪ニ因リ(重罪又ハ輕罪)何裁判所ニ於  
テ何年何月何日左記ノ通り刑ノ宣告ヲ受ケ已  
ニ確定候ニ付此段御届申上候也

一刑名 何(有期徒刑、流重、輕懲)

一刑期 何年何月

附加刑ヲモ記スヘシ

右戸主(家事擔當者)

何 某印

年月日  
何鎮守府兵事官殿

○寄留地應召届

海軍召集條例第二十二條

今般左記肩書ノ地ニ寄留致候ニ付テハ同地ニ  
於テ應召致度此段御届申上候也  
年月日

私儀

本籍

寄留地

豫(後)備海軍職官(下士卒)何某印

海軍大臣宛

又ハ

鎮守府兵事官宛

○船籍港(運航港)應召届

海軍召集條例第二十三條  
私儀

何年何月何日ヨリ何會社(帆)船何丸ニ乗組  
ニ何港何港間ノ航海ニ從事致居候ニ付船籍港

(運航港)何地ニ於テ應召致度此段御届申上候  
也  
年月日

本籍住所

豫(後)備海軍職官(下士卒)何某印

海軍大臣宛

又ハ

鎮守府兵事官宛

○旅行届

海軍召集條例第二十三條  
私儀

何年何月何日ヨリ何地ニ向ケ十四日以上旅行  
致度ニ付召集通報人相定メ連署ヲ以此段御届  
申上候也

本籍住所

年月日

豫(後)備海軍官職(下士卒)何某印

本籍住所

召集通報人

何某印

海軍大臣宛

又ハ

鎮守府兵事官宛

○寄留ニ付召集通報人選定届

海軍召集條例第二十三條

私儀

別紙寄留地應召届ノ通何寄留地ニ於テ應召候

ニ付テハ召集通報人相定メ候間連署ヲ以テ此

段御届申上候也

本籍住所

年月日 豫(後)備海軍官職(下士卒)何某印

何府縣何郡市何町村何番地

召集通報人

何某印

海軍大臣宛

又ハ

鎮守府兵事官宛

○旅行中ノ處歸郷届

海軍召集條例第二十三條

私儀

何年何月何日ヨリ何地ニ旅行中ノ處去ル何日

歸郷致候ニ付此段御届申上候也

本籍住所

年月日 豫(後)備海軍官職(下士卒)何某印

海軍大臣宛

又ハ

鎮守府兵事官宛

○事由届

海軍召集條例第三十三條

私儀

本日午前(午后)何時充員召集ノ令狀ヲ受ケ候

處何々ニ付(傷痍疾病其他ノ事故)俄ニ出發シ

雖ノ(又ハ豫定期日迄ニ指定ノ場所ニ到著シ

能ハサルコトヲ記ス)候間別紙診斷書相添此

段御届申上候也

本籍住所

年月日 豫(後)備海軍官職(下士卒)何某印

海軍大臣宛

又ハ

鎮守府兵事官宛

(注意)此届書ハ二十四時間以内ニ市町村長ニ

差出スヘシ

○父母死亡(重症)ニ付召集延期願

海軍召集條例第四十八條

父(母) 何 某

右ハ何年何月何日死亡(重症)候ニ付テハ演習

召集何日間延期被成下度死亡證(診斷書)相添

ハ親戚戸主(又ハ近隣戸主)ノ連署ヲ以テ此段

奉願候也

本籍住所

年月日 豫(後)備海軍官職(下士卒)何某印

何府縣何郡市何町村何番地

戸主

親 戚 何 某印

戸主

何 某印

海軍大臣宛

又ハ

鎮守府司令長官宛

○傷疾(疾病)ニ付不參屆

海軍召集條例第六十三條

私儀

簡閱點呼ノ爲メ何年何月何日何處ニ參會可致ノ處何々ノ傷疾(疾病)ニテ臥床治療中ニ付該點呼ニ參會兼致候間診斷書相添ハ此段御届申上候也

年月日

本籍住所

豫(後)備海軍官職(下士卒)何某印

簡閱點呼執行官宛

### 海軍諸學校

#### 海軍大學校

- (一) 海軍大學校ハ海軍將校及ヒ機關官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所ニシテ其教學ヲ受ケル海軍將校、機關官ヲ海軍大學校學生ト稱ス
- (二) 海軍大學校ニ校長ノ外左ノ職員ヲ置ク
  - 一 副官
  - 二 教頭
  - 三 教官
  - 四 主計長
- (三) 校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ校務ヲ總理ス
- (四) 海軍大學校學生ヲ左ノ五種ニ區別ス
  - 一 將校科甲種學生
  - 二 將校科乙種學生

機關科甲種學生

機關科乙種學生

選科學生

將校科甲種學生ニハ樞要ノ職員若クハ高級指揮官ノ素養ヲナス爲メ高等ノ兵學及ヒ其ノ他ノ學術ヲ教授シ將校科乙種學生ニハ砲術水雷術又ハ航海術ニ關スル高等ノ學術ヲ教授シ機關科甲種學生ニハ機關計畫ニ關スル高等ノ學術ヲ教授シ機關科乙種學生ニハ將來要職ニ充ツル素養ヲ與フル爲メ高等ノ機關學及其他ノ學術ヲ教授シ選科學生ニハ各自ノ撰擇スル學術ヲ修メシム

(四) 將校科甲種學生ハ海上勤務二箇年以上ヲ經タル海軍大尉ニシテ所管長官ノ推薦ヲ受ケ左ノ諸號ニ適合スル者ニ就キ海軍大學校學生

銓衡委員ノ檢定ヲ經テ海軍大臣之ヲ命ス

- 一 身體強健實務ノ成績優等ニシテ氣節アリ且判斷力ニ富ミ將來充分發達スヘキ才學識量ヲ有スト認メタル者
- 二 入學試験ニ合格シタル者
- (五) 將校科乙種學生ハ海軍大尉ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ス
  - 一 身體強健ニシテ砲術、水雷術又ハ航海術ニ關スル高等ノ學術ヲ專修セシムルニ適當ト認メタル者
  - 二 入學試験ニ合格シタル者
- (六) 機關科甲種學生ハ海軍大機關士又ハ中機關士ニシテ左ノ諸號ニ適合スル志願者中ヨリ選拔シテ海軍大臣之ヲ命ス
  - 一 機關計畫ニ關スル高等ノ學術ヲ修メシム

ルニ適當ト認めスル者

二 機關科乙種學生中良好ナル成績ヲ以テ卒業シタル者

(七) 機關科乙種學生ハ海軍大機關士又ハ海上勤務一箇年以上ヲ經タル中機關士ニシテ左ノ諸號ニ適合スル志願者中ヨリ選抜シテ海軍大臣之ヲ命ス

一 身體強健實務ノ成績優等ニシテ將來充分發達スヘキ才學識量ヲ有スト認めタル者

二 入學試験ニ合格シタル者

(八) 撰科學生ハ海軍佐官機關監若クハ實役停年三ヶ年以上ヲ經タル海軍大尉大機關士ニシテ其ノ學生タラシコトヲ志願スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ス

海軍軍醫學校

(一) 海軍軍醫學校ハ海軍軍醫官ニ高等ノ學術ヲ教授シ兼テ新ニ採用シタル海軍軍醫、海軍少軍醫候補生及海軍少藥劑士候補生ヲシテ海軍軍醫官及海軍藥劑官タルニ必要ナル學科及職務ヲ練習セシムル所トス

(二) 海軍軍醫學校ニ於テ教授シ又ハ練習セシムル海軍軍醫官、海軍少軍醫候補生及海軍少藥劑士候補生ヲ海軍軍醫學校學生ト稱ス

(三) 海軍軍醫學校學生ヲ左ノ三種ニ區別ス

一 軍醫學生

二 選科學生

三 練習學生

(四) 軍醫學生ハ海軍軍醫中ヨリ選科學生ハ海軍軍醫及ハ實役停年三箇年以上ヲ經タル海軍大軍醫ニシテ學生タラシムコトヲ志願スル者

ノ中ヨリ海軍大臣之ヲ命ス

練習學生ハ新ニ採用シタル海軍軍醫、海軍少軍醫候補生及海軍少藥劑士候補生ニ海軍大臣之ヲ命ス

選科學生ニハ各自ノ選擇スル學科ヲ修メシム

海軍機關學校

(一) 海軍機關學校ハ海軍機關官ト爲スヘキ生徒ヲ教育スル所ニシテ其教授ノ學科ハ機關術水雷術及ヒ普通學トス校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

(二) 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十一年以下ニシテ海軍機關官タルコトヲ志願スル者ニ就キ檢査ヲ行ヒ所要人員ヲ採用セララルハナリ

(三) 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若クハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復讐ヲ得サル家資分散者、破産者若クハ其ノ相續人

四 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

五 品行又ハ家庭不長ナルカ爲メ將來機關官タル體面ヲ保ツ能ハスト認ムル者

(四) 生徒ノ召募及ヒ檢査格例ハ海軍大臣ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ告示ス

(五) 生徒ハ入學ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

(六) 生徒ノ學年ハ三年四ヶ月トス但職時若クハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

(七) 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ退校セシメラル

一 海軍機關官タルヘキ器量ニ乏シキ者

二 品行不長或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

三 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者



四傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途勤務ニ堪ハ  
難シト認ムル者

海軍兵學校

(一) 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲スヘキ生徒ヲ  
教育スル所ニシテ其教授ノ學科砲術水雷術運  
用術航海術機關術及ヒ普通學トス  
校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持  
シ校務ヲ總理ス

(二) 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十年以下ニ  
シテ海軍將校タラント志願スル者ニ就キ  
檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用セラル、ナリ

(三) 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス  
一有妻ノ者  
一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若クハ賭博  
犯ノ處分ヲ受ケタル者

三復讐ヲ得サル家資分散者破産者若クハ其ノ  
相續人  
四身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル

者若クハ其ノ相續人  
五品行又ハ家庭不良ナルカ爲メ將來將校タル  
ノ體面ヲ保ツ能ハスト認ムル者

(四) 生徒ノ召募及ヒ檢査格例ハ毎年海軍大臣  
ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ告示ス

(五) 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス  
生徒ノ入學ハ三ヶ年トス但戰時若クハ事變ニ  
際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

(六) 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ退校セシ  
メラル  
一將校タルヘキ器量ニ乏シキ者  
二品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改  
檢セサル者

三試驗ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者  
四傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途勤務ニ堪ヘ  
難シト認ムル者

(七) 志願書式左ノ如シ  
○海軍兵學校生徒願

某儀

海軍出身志願ニ付御檢査ノ上兵學校生徒ニ御  
採用被下度御許可入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相  
守可申ハ勿論拙者身上ノ儀ハ何事ニ限ラズ身  
元保證人ニ於テ引受可申候依テ保證人連署此  
段奉願候也

但シ東京(長野)(金澤)(京都)(青森)(仙臺)  
(山口)(廣島)(鶴岡)(松江)(高知)(熊本)  
(鹿兒島)(新潟)(名古屋)(岡山)(大分)(佐  
賀)ニ於テ御檢査相成度此段申添候也

年月日

族籍

月主(月主ニ非サレハ其續柄)

氏名印

明治何年何月  
何年何ヶ月

保證人

本籍

現住所

族稱職業

保證人

本籍

現住所

族稱職業

海軍兵學校長氏名殿

○履歷書

族稱

氏名

一本籍(何府縣何郡市何町村何番地)月主又ハ  
戶主何某男兄弟等

一現住所(何府縣何郡市何町村何番地)寄留等

但履歷書進達ノ後現任地ヲ變更シタルト  
キハ新市區町村長ノ與書證印ヲ受ケ其ノ  
旨海軍兵學校長ニ届出ヘシ

一 生長ノ地名(同上)

一 祖父母、父母、兄弟、姉妹名 (養子ハ養實共ニ之ヲ記ス亡  
ナレハ亡ト記シ父兄位動ソレハ存亡共ニ之  
ヲ記スヘシ)

一 教育ヲ受ケタル學科年月校塾名等

一 職業技藝等

一 官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事  
一 賞 罰

右之通相違無之候也

年月日

保證人

氏 名 印

保證人

民 名 印

○學力品行證明書

族 籍

氏 名

一 在學年月

一 教授科目及ヒ其ノ程度

一 各科試驗成績

一 修學進歩上ノ意見

一 品行

右證明候也

年月日

何府(縣)何都市(區)何町(村)

何番地

何學校々長(校主)

氏 名 印

海軍兵學校長氏名殿

海軍機關練習所

(一) 海軍機關練習所ハ之ヲ横須賀軍港ニ置キ  
機關術ノ教授ヲ掌リ且機關ニ關スル技術工藝  
ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

所長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持  
シ所務ヲ總理ス

(二) 該所ニ於テ教授スヘキ者ハ海軍機關士、  
機關兵曹長、上等機關兵曹、機關兵曹、機關  
兵、船匠長、船匠師、船匠手、木工トス  
右ノ准士官以上ヲ海軍機關練習所學生ト稱  
シ下士卒ヲ海軍機關練習所練習生ト稱ス

(三) 海軍機關練習所學生ハ海軍大臣之ヲ命  
ス  
(四) 海軍機關練習生ヲ左ノ五種ニ區別ス  
一 掌機兵ト爲スヘキ者

二 機關工術專科ノ實修ヲ爲スヘキ者

三 機關術教員ト爲スヘキ者

四 船匠工ト爲スヘキ者

五 船匠術教員ト爲スヘキ者

(五) 掌機兵ト爲スヘキ者ハ海軍三等機關兵曹  
以下二等機關兵以上及ヒ進級停年ヲ超過シタ  
ル三等機關兵ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ

中ヨリ之ヲ選拔ス

一 身體強健品行方正ナル者

二 掌機兵ト爲スニ適當ナル技能學力ヲ有スト  
認メタル者

三 掌機兵タラムコトヲ志願シ卒業後四箇年以  
上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓  
約スル者

(六) 機關工術專科ノ實修ヲ爲スヘキ者ハ一等

約スル者

一 現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓

約スル者

二 現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓

約スル者

掌機證狀ヲ有スル海軍機關兵曹一等機關兵ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健品行方正ナル者
- 二 機關工術專科ヲ實修セシムルニ適當ト認めタル者
- 三 機關工術專科ノ實修ヲ志願シ卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

(七) 機關術教員ト爲スヘキ者ハ機關工術專科證書ヲ有スル海軍機關兵曹ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健品行方正ナル者
- 二 機關術教員ト爲スニ適當ト認めタル者
- 三 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

(八) 船匠工ト爲スヘキ者ハ海軍三等船匠手以下

下等木工以上及ヒ進級停年ヲ超過シタル三等木工ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健品行方正ナル者
- 二 船匠工ト爲スニ適當ナル技能學力ヲ有スト認めタル者
- 三 船匠工タラムコトヲ志願シ卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

(九) 船匠術教員ト爲スヘキ者ハ一等船匠工證狀ヲ有スル海軍船匠手ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健品行方正ナル者
- 二 船匠術教員ト爲スニ適當ト認めタル者
- 三 船匠工證狀ヲ授與シタル日ヨリ六箇月以上勤務ニ服シタル者
- 四 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服

スヘキコトヲ誓約スル者

海軍砲術練習所

(一) 海軍砲術練習所ハ横須賀軍港ニ置キ砲術ノ教授ヲ掌リ且砲術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス所長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シテ所務ヲ總理ス

(二) 該所ニ於テ教授スヘキ者ハ海軍佐尉官、造兵技士、兵曹長、上等兵曹、下士卒及ヒ商船學校學生トス

(三) 其教授ヲ受クル准士官以上ヲ海軍砲術練習所學生ト稱シ下士卒ヲ海軍砲術練習所練習生ト稱ス

(四) 海軍砲術練習所學生ハ海軍大臣之ヲ命ス

(五) 海軍砲術練習所練習生ヲ左ノ二種ニ區別ス

- 一 掌砲兵ト爲スヘキ者
- 二 砲術教員ト爲スヘキ者

(五) 掌砲兵ト爲スヘキ者ハ海軍三等兵曹以下

二等水兵以上及進級停年ヲ超過シタル三等水兵ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健視力完全品行方正ナル者
- 二 掌砲兵ト爲スニ適當ナル技能學力ヲ有スト認めタル者
- 三 掌砲兵タラムコトヲ志願シ卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

(六) 砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲證狀ヲ有スル海軍兵曹ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

- 一 身體強健視力完全品行方正ナル者
- 二 砲術教員ト爲スニ適當ト認めタル者
- 三 掌砲證狀ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上勤務ニ服シタル者
- 四 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服

スヘキコトヲ誓約スル者

海軍水雷術練習所

- (一) 海軍水雷術練習所ハ之ヲ横須賀軍港ニ置キ水雷術及ヒ電氣的通信ノ教授ヲ掌リ且其ノ改良進歩ヲ圖ル所ニシテ其所長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ總理ス
- (二) 該所ニ於テ教授スヘキ者ハ海軍佐尉官、機關監、機關士、造兵技士、兵曹長、機關兵曹長、上等兵曹、上等機關兵曹及ヒ下士卒トス而シテ其准士官以上ヲ海軍水雷術練習所學生ト稱シ下士卒ヲ海軍水雷術練習所練習生ト稱ス
- (三) 海軍水雷術練習所學生ハ海軍大臣之ヲ命ス
- (四) 海軍水雷術練習所練習生ヲ左ノ三種ニ區別ス
  - 一 掌水雷兵ト爲スヘキ者

二 水雷工ト爲スヘキ者

三 水雷術教員ト爲スヘキ者

- (五) 掌水雷兵ト爲スヘキ者ハ海軍三等兵曹以下二等水兵以上及進級停年ヲ超過シタル三等水兵、水雷工ト爲スヘキ者ハ海軍三等機關兵曹以下二等機關兵以上及進級停年ヲ超過シタル三等機關兵ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス
- 一 身體強健品行方正ナル者
- 二 掌水雷兵又ハ水雷工ト爲スニ適當ナル技能學力ヲ有スト認メタル者
- 三 掌水雷兵又ハ水雷工タラムコトヲ志願シ卒業後四箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者
- (六) 水雷教育ト爲スヘキ者ハ一等掌水雷證狀ヲ有スル海軍兵曹ニシテ左ノ諸號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ撰拔ス

一 身體強健品行方正ナル者

二 水雷術教員ト爲スニ適當ト認メタル者

三 掌水雷證狀ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上勤務ニ服シタル者

四 卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

(七) 水雷術教員選任證書、掌水雷證狀又ハ水雷工證狀ヲ有スル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ證書又ハ證狀ヲ褫奪ス

一 怠慢ニシテ實務ノ成績不其ナル者

二 品行不正ニシテ改悛ノ見込ナキ者

三 重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

海軍造船工練習所

海軍造船工練習所

- (一) 海軍造船工練習所ハ横須賀海軍造船廠ニ屬シ海軍造船職工ヲ教育スル所トス
- 所長ハ造船廠長ニ隸シ紀律ヲ維持シ所務ヲ總理ス

(二) 該所ニ於テ教授スル職工ヲ練習職工ト稱ス

練習職工ハ其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔ス

一 年齢滿二十一年以上滿三十年未滿ノ者

二 海軍造船職工トシテ引續キ滿三ヶ年以上現業ニ服シ居ル者

三 品行方正ニシテ將來技藝熟達業工ヲ御シ得ルノ見込アル者

四 身體検査及ヒ學術試験ニ合格シタル者

五 卒業後十ヶ年以上海軍ノ業務ニ従事スヘキ者

(三) 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ練習職工ニ採用セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若クハ賭博

犯ノ處分ヲ受ケタル者

二 復讐ヲ得サル家資分散者破産若クハ其ノ相

續人

三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサ

- (四) 入學試験ノ規格ハ海軍大臣之ヲ定ム
- (五) 練習職工ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退學セシム
  - 一 品行不良或ハ怠惰ナル者
  - 二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
  - 三 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者

○主理試験補登用試験

- (一) 主理試験補登用試験ノ期日場所及ヒ登用人員ハ豫メ官報ヲ以テ試験委員之ヲ公告ス
- (二) 此試験ヲ受ケルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限ル但時宜ニ依リ年齢ニ制限ヲ付スルコトアリ

- 一 官立學校及ヒ判事檢事登用試験第五條ニ依リ司法大臣ノ指定シタル公私立ノ學校ニ於テ法律學ヲ卒業シタル者
- 二 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者
- (三) 理事主理任用令第五條ニ該ル者ハ試験ヲ受ケルコトヲ得ス即チ左ノ如シ
  - 一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限リニアラス
  - 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
  - 三 破産者クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- (四) 志願者ハ一定ノ試験願書ニ試験手数料トシテ金拾圓ノ收入印紙ヲ貼付シ之ニ履歷書、

身分年齢及ヒ兵役ニ關スル證明書、學科ノ卒業證書寫、醫師ノ作りタル體格證明書ヲ添ヘテ差出スヘキモノトス

- (五) 試験ハ筆記、口述ノ二様トシ筆記試験ハ憲法刑法海軍刑法刑事訴訟法海軍治罪法民法國際公法國際私法ニ就キ之ヲ施行ス口述試験ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ對シ前掲科目中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

○海軍少主計候補生採用試験

- (一) 海軍少主計候補生タラント欲スル者ハ願書ニ履歷書戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本ヲ添ヘ告示シタル試験期日十日前迄ニ海軍省經理局ニ差出スヘキモノトス
- (二) 試験ヲ受ケントスル者ハ先ツ身體検査ヲ受ケ之ニ合格セサルヘカラス否ラサレハ學術

試験ヲ行フコトナシ

- (三) 學術試験ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ
  - 一 憲法
  - 二 行政法
  - 三 經濟學
  - 四 財政學
  - 五 國際公法
  - 六 外國語學

- (四) 試験ハ筆記試験口述試験トス口述試験ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

○海軍少軍醫、少藥劑士、少軍醫候補生及ヒ少藥劑士補生採用試験

- (一) 海軍少軍醫若クハ少藥劑士タラントスル者又ハ海軍少軍醫候補生若クハ少藥劑士候補生タラントスル者ハ願書ニ履歷書、戶籍謄本ヲ添ヘ試験期日十日前マテニ海軍衛生會議ニ差出スヘシ

試験期日場所ハ一ヶ月前ニ官報ヲ以テ告示セラル

(一) 試験ハ身體検査、學術試験ノ二トス學術試験ハ身體検査ニ合格シタル者ニ非サレハ行ハス

(二) 學術試験科目ハ左ノ如シ

海軍少軍醫

一學說 內科學 外科學 衛生學

二實地 局處解剖 內科 外科

三歐文和譯 私費外國留學醫學學校卒業ノ者ニ行フ

海軍少藥劑士

一學說 化學 生藥學

二實地 裁判化學 飲食物試験

三歐文和譯 私費外國留學藥學科卒業ノ者ニ行フ

海軍少軍醫候補生

一醫術開業試験ヲ受ケ醫術開業免狀ヲ有スル者

一學說 藥物學 內科學 外科學

二實地 眼科學 衛生學 外科學

局處解剖 組織學 內科

外科

三外國語學(歐文和譯)

二高等學校醫學部又ハ府縣立醫學學校ノ卒業ノ者ニシテ醫術開業免狀ヲ有スル者

一學說 內科學 外科學 眼科學

衛生學 外科學 眼科學

二實地 局處解剖 組織學 內科

外科

三外國語學(歐文和譯)

海軍少藥劑士候補生

一藥劑師試験ヲ受ケ藥劑師免狀ヲ有スル者

一學說 物理學 化學 植物學

生藥學 製藥化學 裁判化學

二實地 分析學 藥品鑑定 飲食物試験

調劑術 藥物製煉

三外國語學(歐文和譯)

二高等學校醫學部又ハ府縣立醫學學校ノ卒業ノ者ニシテ藥劑師免狀ヲ有スル者

一學說 化學 生藥學 製藥化學

裁判化學

二實地 分析術 藥品鑑定 飲食物試験

調劑術 藥物製煉

三外國語學(歐文和譯)

三私費外國留學藥學科卒業ノ者ニシテ藥劑

師免狀ヲ有スル者

學術試験科目ハ海軍少藥劑官ニ同シ

○望樓長望樓手任用試験

(一) 望樓長、望樓手ヲ志願スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ願書ニ履歷書并ニ戶籍謄本ヲ添

ヘ海軍省ニ差出スヘシ

(二) 試験ハ身體検査及ヒ學術試験ノ二トス學術試験ハ身體検査合格ノ上ニアラサレハ行ハ

ス

(三) 望樓長ノ學術試験科目ハ左ノ如シ

一讀書 漢字交リ文

二作文 通俗文

三算術 四則ヨリ比例マテ

四電信術

五外國ノ國旗并ニ軍艦旗ノ識別

望候手ノ試験科目モ右ニ同シ但其ノ問題ハ難

易ノ別アリ

(四) 試験ハ東京又ハ鎮守府所在地ニ於テ之ヲ行フ

○海軍筆記任用試験

(一) 海軍筆記ヲ任用セントスルトキハ鎮守府ハ之ヲ官報及ヒ新聞紙ニ掲載シテ公告セラルカ故ニ志願者ハ其公告ニ基キ願書ヲ作り之ニ履歷書并ニ戸籍謄本ヲ添へ鎮守府ニ差出スモノトス

(二) 試験ハ身體検査及ヒ學術試験ノ二トス學術試験ハ身體検査合格ノ上ニアラサレハ行ハス

(三) 學術試験科目ハ左ノ如シ  
一 讀書 漢文歴史類諸規則類

二 作文 通俗文記事文  
三 算術 四則但筆算珠算共  
四 書法 楷行艸

○海軍監獄看守任用試験

(一) 看守ハ所轄鎮守府司令長官志願者ヲ募集シ試験ノ上之ヲ任用ス

(二) 試験科目ハ左ノ如シ  
一 海軍監獄則及ヒ海軍監獄則施行細則  
二 普通往復文  
三 算術 加減乗除

(三) 左ニ列記シタル者ハ看守ヲ志願スルヲ得ス  
一 満二十五歳以下四十歳以上ノ者  
二 祭錮以上ノ刑ニ處セラレタル者  
三 身代限又ハ家資分散ノ虞分ヲ受ケ其義務ヲ

終ヘサル者

(四) 左ニ列記シタル者ハ試験ヲ要セス看守ニ任用スルコトヲ得

一 現役滿期海軍下士

二 海軍ノ傭人ト爲リ現ニ監獄ノ職ニ在リ勤勉ニシテ且經驗アル者

(五) 看守ヲ任用スルトキハ醫官ヲシテ身體検査ヲ行ハシメラルモノトス

海軍諸法令

海軍下士卒服役條例

明治三十一年六月勅令第三百二十四號  
全三十三年二月勅令第三十四號  
全三十四年六月勅令第二百八十九號  
全三十六年一月勅令第七號改正

第一章 下士卒ノ服役  
第一款 通則

第一條 下士卒ノ服役ハ現役豫備役及後備役ノ三種トス其ノ服役ヲ終リタルトキ第一國民兵役ニ服セシム

第二條 艦團要港部病院學校及練習所勤務ノ下士卒ハ各其ノ艦團要港部病院學校及練習所内ニ居住セシムルヲ例トス

第三條 下士ノ服役定期年齢ハ四十五年トス卒ノ服役定期年齢ハ四十年トス

第四條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖職時或ハ事變ニ際スルトキ若ハ臨時ニ演習等ノ擧アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐割中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ其ノ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

第五條 徵兵ニシテ再服役ヲ志願シ認可ヲ得再服役ヲ爲ストキハ之ヲ志願兵籍ニ編入ス

第六條 下士卒ノ現役又ハ兵役ヲ免セントスルトキハ先ツ之ヲ在籍鎮守府ニ屬スル海兵團ニ

入團セシメ鎮守府司令長官之ヲ免ス

第二款 現役

第七條 現役下士卒ハ鎮守府ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

現役下士卒ノ兵籍ハ在籍鎮守府ノ兵事官ナシテ之ヲ管セシム

第八條

現役下士卒ノ服務期限ハ下士ニ任用セラレタル日ヨリ起算シ六箇年現役卒ノ服役期限ハ兵籍ニ入りタル日ヨリ起算シ八箇年トス但シ服役中定限年齢ニ達スル者ニ付テハ其ノ定期迄トス

第九條

現役下士卒ハ前條服役期限滿ツルモ服役定限年齢ニ達スル迄ハ數次再服役ヲ請フコトヲ得

第十條

再服役ヲ爲サント欲スル者ハ三箇年ヲ一期トシ之ヲ請フヘシ但シ別ニ勅令ヲ以テ定ムル服役ノ義務アル者ニ在テハ其ノ義務終ル

第十一條

再服役ハ志操確實身體強壯品行善長ニシテ技能優等ナリト艦團要港部長其他各部ノ長ノ確認シタル者ニアラサレハ許可スルコトヲ得

第十二條

再服役ハ艦團要港部其ノ他各部ノ長ニ滿期ノ前前月中ニ出願スヘシ

第十三條

艦團要港部其ノ他各部ノ長ハ部下下士卒ノ現役滿期ト爲ル者ヲ調査シ其ノ再服役志願者ニ就キ第十一條ニ適合スル者ナルトキハ在籍鎮守府ノ司令長官ノ承認ヲ經滿期ノ前月中ニ之ヲ許可スヘシ

第十四條

再服役ヲ許可シタルトキハ其ノ旨本人ノ履歷ニ記入シ且ツ誓約書ヲ出サシメ之ヲ在籍鎮守

府ノ兵事官ニ送付スヘシ

第十五條

現役下士卒服役中本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル者アルトキハ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトヲ得

第十六條

前項ニ依リ免役ヲ願フヘシ但シ家族ハ其ノ願書ニ市町村長ノ事實審査書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ本人在籍鎮守府ノ司令長官ニ願出ヘシ

第十七條

鎮守府司令長官ハ之ヲ許可スルニ先キ兵事官ナシテ之ヲ審査セシムヘシ但シ服役中(下士卒ニ在テハ服役中ヲモ包含ス)分家若クハ絶家廢家再興ノ爲又ハ養子若クハ人夫ト爲リタル爲メ免役ノ必要ヲ生シタル者ナルトキハ許可スルノ限リニアラス

第十八條

現役下士卒服役中疾病若クハ疾病ノ爲メ現役ニ堪ヘ難キ者ニ付テハ本人在籍鎮守府ノ司令長官其ノ現役ヲ免シ豫備役若クハ第一國民兵役ニ編入ス永久服役ニ堪ヘ難キ者ニ付テハ同長官其ノ兵役ヲ免ス但シ五等卒ノ教育ヲ率ラサル徵兵ニシテ傷痍若クハ疾病ノ爲メ現役ニ堪ヘ難キ者ニ在テハ補充兵役ニ服セシム

第十九條

前項ニ依リ現役若クハ兵役ヲ免スヘキ者アリト認ムルトキハ艦團要港部其ノ他各部ノ長(入院中ノ者ナルトキハ病院長)之ヲ所管長官ニ上申シ所管長官ハ之ヲ本人在籍鎮守府ノ司令長官ニ移牒シ該長官ハ之ヲ審査シ現役若クハ兵役ヲ免ス此ノ場合ニ於テハ本人ヲ海兵團ニ入團セシメサルコトヲ得

第二十條

現役下士卒服役中七箇年間所在不明ノ者及戰地ニ臨ミタル者、沈没シタル艦船中ニ在リタル者其ノ他死亡ノ原因タルヘキ

第二十一條

現役下士卒服役中疾病若クハ疾病ノ爲メ現役ニ堪ヘ難キ者ニ付テハ本人在籍鎮守府ノ司令長官其ノ現役ヲ免シ豫備役若クハ第一國民兵役ニ編入ス永久服役ニ堪ヘ難キ者ニ付テハ同長官其ノ兵役ヲ免ス但シ五等卒ノ教育ヲ率ラサル徵兵ニシテ傷痍若クハ疾病ノ爲メ現役ニ堪ヘ難キ者ニ在テハ補充兵役ニ服セシム



危難ニ遭遇シタル者ニシテ戦争止ミタル後、艦船ノ沈没シタル後又ハ其ノ他ノ危難ノ去リタル後三箇年所在不明ノ者ハ其ノ現役ヲ免スルコトヲ得現役ニ服シタル日數四箇年以上ニシテ三箇年間所在不明ノ者及ヒ現役ニ服シタル日數四箇年以上ニシテ屢刑又ハ罰ニ觸レ改悛ノ見込ナキ者亦同シ

前項ニ依リ現役ヲ免スヘキ者アリト認ムルトキハ艦團其ノ他各部ノ長之ヲ所管長官ニ上申シ所管長官ハ本人在籍鎮守府ノ司令長官ニ移牒シ該長官ハ之ヲ審査シ現役ヲ免ス

**第十七條** 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者若クハ允許ヲ得テ地方ニ赴キ故ナク歸着ノ期ニ後レタル者ニ對シテハ其ノ刑期日數又ハ逃亡中ノ日數若ハ歸期ニ後レタル日數ヲ現役年數ニ算入セス所在不明ノ者ハ其所在不明中ノ日數亦同シ

**第十八條**

現役下士卒ノ父母重症ニ罹リ若ハ死亡シタルトキハ親戚又ハ近鄰戸主二人以上ヨリ其ノ連署ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書若ハ死亡證ヲ添へ艦團要港部其ノ他各部ノ長ニ本人ノ歸郷ヲ願出ルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ艦團要港部其ノ他各部ノ長ハ審査ノ上往復ヲ除キ十四日以内ノ日數ヲ限り其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

**第三款 豫備役及後備役**

**第十九條** 豫備役後備役下士卒ハ本籍所在ノ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府ノ兵籍ニ編入シ兵事官ヲシテ其ノ兵籍ヲ管セシム

**第二十條** 豫備役下士卒ハ現役ヲ免セラレタル下士卒ニシテ豫備役ニ服スル者並海軍准士官下士任用進級條例第十六條第十八條ニ依リ豫備

役一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者及同條例第十七條ニ依リ一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ニシテ豫備役ニ服スル者ヲ謂フ

後備役下士トハ海軍准士官下士任用進級條例第十六條第十八條ニ依リ後備役一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者並同條例ニ依リ徵兵ノ豫備役一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者及同條例第十七條ニ依リ徵兵ノ一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ニシテ豫備役ヲ終リ後備役ニ服スル者ヲ謂フ

**第二十一條** 豫備役下士ノ服役期限ハ現役ニ服シタル年月(卒トシテ服役シタル年月ヲモ包含ス)ヲ通シ滿十六箇年ニ達スル迄トス但シ其ノ豫備役ニ入りタル後四箇年ニ達シタル者ニシテ現役ニ服シタル年月(卒トシテ服役シ

タル年月ヲモ包含ス)ヲ通算シ十二箇年ヲ過キタルトキハ豫備役ヲ免ス

**第二十二條** 海軍准士官下士任用進級條例第十六條第十七條及第十八條ニ依リテ下士ニ任セラレタル者ノ服役年限ハ下士ニ任セラレサルトキト同シ

**第二十三條** 豫備役卒トハ現役ヲ免セラレタル卒ニシテ豫備役ニ服スル者ヲ謂フ

後備役卒トハ後備役ニ服スル徵兵ノ卒ヲ謂フ

**第二十四條** 豫備役卒ノ服役期限ハ四箇年ニシテ豫備役編入ノ日ヨリ起算ス但シ再服役滿期若クハ第十五條及第十六條ニ依リ豫備役ニ入ル者ノ服役年限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年トス

徵兵ニシテ第十五條及第十六條ニ依リ豫備役

ニ入ル者ノ豫備服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年トシ十二箇年ニ滿ソル迄後備役ニ服セシム

**第二十五條** 下士ニシテ現役ヲ離ルトキ服役滿十六箇年以上ニ達ハル者及ヒ第十六條又ハ第二十六條ニ依リ現役豫備役或ハ後備役ヲ免シ第一國民兵役ニ編入シ若ハ兵役ヲ免スル下士ニ付テハ同時ニ其ノ官ヲ免シ志願兵ニ下士ニ任用セラレ豫備役滿期ノ者及ヒ後備役滿期ノ下士ニ付テハ別ニ辭令ヲ用井スシテ其ノ官ヲ免スルモノトス此ノ場合ニ於テ年齡四十年ニ達セサル者ニ在テハ四十年ニ達スル迄第一國民兵役ニ入ルモノトス  
豫備役後備役卒服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ヲクシテ豫備役ニ在リタル徵兵ハ後備役

ニ在リタル者第一國民兵役ニ豫備役ニ在リタル志願兵ニシテ年齡四十年ニ達セサル者ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

**第二十六條** 豫備役後備役下士卒傷痍若ハ疾病ニ由リ各其ノ服役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服務ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス  
前項ニ依リ服役ニ堪ヘスト思惟スル者ハ軍醫官ノ診斷書若ハ地方醫師ノ病狀書ヲ添ヘ市町村長ノ典書證印ヲ受ケ地方廳ヲ經テ在籍鎮守府ノ長官ニ届出ヘシ  
**第二十七條** 現役ヨリ豫備役ニ入りタル下士卒ハ十四日以内ニ在籍鎮守府ニ屬スル海兵團所在地(第十六條第二項ニ依リ入團セシメサル者ニ在テハ現役ヲ免セラレタル地)ヲ出發シ

一日行程十里詰ヨリ鈔カラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ滞在若クハ旅行ノ爲前項ノ日數間ニ歸郷シ難キトキハ召集通報人ヲ定メ前項ノ出發期日內ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ

**第二十八條** 削除

**第二十九條** 豫備役後備役下士卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ

**第三十條** 豫備役後備役下士卒ハ戰時若ハ事變ニ際シ之ヲ召集シ平時ニ在テハ簡閱點呼又ハ演習ノ爲召集スルコトアルヘシ

**第三十一條** 削除

**第三十二條** 豫備役後備役下士卒已ムヲ得サル

事故アリ演習召集ノ猶豫又ハ簡閱點呼召集ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ典書證印ヲ受ケ在籍鎮守府ノ司令長官ニ差出ヘシ  
前項ノ場合ニ於テ鎮守府司令長官ハ審査ノ上其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

**第三十三條** 豫備役後備役下士卒外國ニ在リ召集ノ通報ヲ受ケ又ハ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ歸著後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ

**第三十四條** 豫備役後備役下士卒ニシテ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル文官並市町村長助役收入役及ヒ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル兵ノ他ノ公吏タルトキ及ヒ外

國ニ在ルトキハ演習及ヒ簡閱點呼ノ爲召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員タルトキ其ノ開會中亦全シ

第三十五條 豫備役後備役下士卒ニシテ町村長助役收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並之ヲ罷メタルキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ

第三十六條 豫備役後備役下士卒ニシテ死亡シ又ハ所在不明トナリタル者アルトキ及ヒ所在不明中戸籍ヲ轉換シタルトキハ十四日以内ニ其ノ戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ所在不明ノ者歸郷シタルト

キ若ハ其ノ所在ヲ知得シタルトキ亦全シ

前項ノ場合ニ於テ家族ナキトキハ市町村長ヨリ在籍鎮守府ノ兵事官ニ通知スヘシ

第三十七條 豫備役後備役下士卒重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及ヒ刑期ヲ記シ其ノ戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ前項ノ場合ニ於テ家族ナキトキハ市町村長ヨリ在籍鎮守府兵事官ニ通知スヘシ

第三十八條 豫備役後備役下士卒正當ノ事由ナク召集ニ應セザルトキ又ハ召集中逃亡シ若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ犯罪ノ爲召集ヲ缺キタルトキハ其ノ年ヲ服役年期ニ算入セス

第三十九條 第二十七條第二十九條第三十三條第三十五條第三十六條第一項第三十七條第一項ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス但シ交通不便若ハ天災ノ爲本文ノ届出ヲ爲シ能ハサルトキハ此ノ限リニアラス

第四十條 削除

第二章 雜則

第四十一條 豫備役後備役下士卒ニシテ文官ニ任セラレ若ハ公使ト爲リ餘人ヲ以テ代フヘカラサル者又ハ運輸通信等ノ事業ニ從事シ戰役ニ關シ必要ナル職務ヲ執ル者ハ海軍大臣ヨリ上裁ヲ經テ充員召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ理由ヲ附シ本人ヲ要スル官廳公署若ハ會社船主等ヨリ海軍大臣ニ願出ヘ

第四十二條 徵兵令第二十四條及ヒ本條例第三十四條ノ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ演習及ヒ簡閱點呼召集免除ノ認可ヲ受ケ在籍鎮守府ノ兵事官ニ通報スヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦全シ

第四十三條 現役下士卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ其ノ戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ本籍所在ノ市町村長ヲ經テ本人在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ兵事官ハ之ヲ本人ノ屬スル艦團要港部其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第四十四條 下士卒ノ服役ニ關スル年齢ハ海軍兵籍ニ登載セル誕辰ノ日ヨリ起算ス

第四十五條

下士卒現役若ハ召集中身上ニ異動ヲ生シ通達ヲ要スルモノアリタルトキハ在籍鎮守府兵事官ヨリ本人在籍ノ地方廳ニ通知ス地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村長ニ達シ本人ノ家族ニ通達セシムヘシ

第四十六條

本條例ニ依リ町村長ヲ經由スヘキ書類ハ島司郡長支廳長又ハ之ニ準スヘキ者ヲモ經由スヘシ

第四十七條

市町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本條例中市町村長ノ職務ハ區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第四十八條

徵兵ニ關シテハ徵兵令及ヒ徵兵事務條例ニ規定ナキモノニ限リ本條例ヲ適用ス

附則

第四十九條

明治二十二年勅令第五十六號海軍下士服役條例同年勅令第五十七號海軍下士卒再服役條例及ヒ明治二十九年勅令第三百二號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

第五十條

海軍召集條例

明治三十一年十月勅令第二百四十七號全三十三年六月勅令第二百八十八號改正

第一章 總則

第一條

本條例ハ豫備役後備役ニ在ル海軍々人ノ召集ニ關スルコトヲ規定ス

第二條

准士官以上ノ召集ハ海軍大臣之ヲ行ト

第三條

戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル諸官時機切迫シ命ヲ請フノ暇ナキトキハ獨斷ニテ豫備役

後備役下士卒ノ召集ヲ行フコト得

第四條

鎮守府司令長官ハ部下將校ヲシテ定期若ハ臨時ニ諸官衙及ヒ公署ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ検査セシムヘシ

地方長官警視總監憲兵司令官憲兵隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ検査シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ

秋田縣照會(三十一年十一月十一日)

十條例第四條「ノ定期ト」ハ如何ナル時機ナルカ

海軍次官回答(三十一年十二月二日)

第十項「定期」ノ定メ方ハ鎮守府司令長官ノ任意ニ有之

第五條

召集ニ關スル細則及ヒ旅費支給ノ方法ハ海軍大臣之ヲ定ム

第六條 召集ハ充員召集演習召集及ヒ簡閱點呼ノ三種トス

第七條

充員召集トハ戰時若クハ事變ニ際シ充員ヲ行フ爲豫備役後備役軍人ノ一部又ハ全部ヲ召集スルヲ謂フ充員召集事務ニ關シ責任ヲ有スル者ハ豫メ之ニ關スル諸行務ヲ整備シ置キ召集實施ニ際シ凝滞ナキヲ期スヘシ

第八條

充員召集發令ノ後ハ召集事務ニ關シ訓示命令等ヲ請フコトヲ得ス

第九條

演習召集トハ演習ヲ行フ爲メ平時ニ於テ豫備役後備役軍人ヲ召集スルヲ云フ

演習召集ヲ大演習召集及ヒ小演習召集ノ二種ニ分ツ

大演習召集トハ大演習施行ノ際豫備役後備役軍人ノ全部若クハ一部ヲ召集スルヲ謂ヒ小演

習召集トハ小演習施行ノ際豫備役後備役下士卒ノ全部若クハ一部ヲ召集スルヲ謂フ

第十條 簡閱點呼トハ豫備役後備役下士卒ヲ實查スル爲時期ヲ定メ其ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ

第十一條 充員及ヒ演習召集ニ應シ到着スヘキ場所ハ豫備役後備役准士官以上ニ在テハ海軍大臣之ヲ定メ豫備役後備役下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ニ屬スル海兵團トス

第十二條 簡閱點呼ヲ行フ場所ハ簡閱點呼執行官之ヲ定ム

第十三條 充員召集演習召集ニハ召集令狀ヲ發シ簡閱點呼ニハ點呼令狀ヲ發ス

第十四條 召集令ハ迅速確實ナル方法ヲ以テ通報スヘシ

第十五條 豫備役後備役下士卒ノ一部ヲ召集スルトキハ鎮守府司令長官ハ何年何月以後ニ現役ヲ離レタル者ヲ召集スヘキコトヲ定ム

第十六條 豫備役後備役下士卒ノ召集區域ハ海軍志願兵徵募區ノ區域ニ依ル

第二章 召集準備

第十七條 召集ノ實施ヲ容易ナラシムル爲メ豫備役後備役准士官以上ノ召集名簿ハ海軍省ニ於テ下士卒ノ召集名簿ハ在籍鎮守府ニ於テ整備シ置クヘシ

第十八條 准士官以上ノ召集令狀ハ海軍省ニ於テ調製保管シ下士卒ノ召集令狀ハ鎮守府ニ於テ調製シ豫メ之ヲ郡市長ニ送付シ郡市長ハ召集ノ發令アルマテ之ヲ保管スヘシ但シ郡長ハ町村長ヲシテ召集令狀ヲ保管セシムルコトヲ

得

第十九條 鎮守府ニ於テハ旅費證票ヲ作り召集令狀ト共ニ郡市長ニ送付シ置クヘシ但シ郡長ハ町村長ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第二十條 地方長官ハ市町村長ヲシテ召集ニ應スル者ノ休泊ニ充ツル爲メ豫メ市町村内ニ於テ海軍軍用旅舎ヲ選定セシメ之ヲ憲兵隊及ヒ警察署ニ通知シ置クヘシ

神奈川縣知事伺(三十一年十一月十九日)

第一、召集條例第二十條ニ依レハ海軍々用旅舎ハ毎町村ニ選定スヘキモノ、如ク認メラルルモ右ハ國道又ハ縣道等ニ沿ヒ應召員ノ多數通過スヘキモノト認メタル町村ニ限り選定シ差支ナキヤ

海軍大臣指令(三十一年十月二十二日)

何ノ通

東京府知事照會(三十一年十月十四日)

海軍召集條例第二十條ニ依リ召集ニ應スル者ノ休泊ニ充ツヘキ旅舎選定方其向ヘ達セシ處豫テ設定シタル陸軍々用旅舎ノ外適當ノモノナキ旨申出ノ者アリ右ハ事實止ムヲ得サル次第ニ附陸海軍同一旅舎ニテ差支ナキヤ

海軍次官回答(三十一年十月十八日)

海軍々用旅舎ニ適當ノモノナキ場合ニ於テハ陸海軍全一ノ旅舎ニテ差支ナシ

第二十一條 地方長官ハ前條ノ外召集ヲ容易ナラシムル爲メ相當ノ措置ヲ爲スヘキモノトス

第二十二條 豫備役後備役軍人ハ其ノ本籍地ニ於テ召集ニ應スルヲ例トス但シ本邦ニ在テハ寄留地ニ於テ外國在留ノ者ニ在テハ其ノ所在

地ニ於テ海員タル者、在テハ本人ノ屬スル船舶ノ船籍港若ハ平常運搬ノ一港ニ於テ召集ニ應スルコトヲ得

前項但書ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士官ニ在テハ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ但シ外國在留ノ者ハ本文ノ手續ヲ爲スト同時ニ在留國ノ領事官貿易事務官ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士官ニ在テハ在籍鎮守府兵事官ニ届出ヘシ

第二十三條 豫備役後備役軍人十四日以上ノ旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集通報人ヲ定メ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士官ニ在テハ在籍鎮守府兵事官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ

經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士官ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ但シ外國へ航海又ハ在留セントスルトキハ其ノ事由ヲ記シ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士官ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ其ノ歸朝シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士官ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ

第三章 充員召集

第二十四條 海軍大臣及ヒ鎮守府司令長官ハ充員召集ノ令アリタルトキハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ全時ニ地方官警視總監憲兵隊長（東京府ニ在テハ憲兵司令官以下之ニ倣フ）ニ通知シ必要アルトキハ關係アル領事官貿易事務官ニ通知スヘシ

第二十五條 前條ノ通知アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ郡市町村長並召集事務ニ關係アル官吏ニ警視總監憲兵隊長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

嶋根縣知事照會（三十一年二月二十五日）

電信ニテ海軍召集條例第二十五條第四十五條ノ達ヲ爲ス庄電文中ニ發送番號ヲ書スヘキヤ

海軍次回答（三十一年二月二十七日）

發送番號ヲ書スルニ及ハス

第二十六條 召集令狀保管者充員召集ノ令ヲ受ケルトキハ令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ被召集人又ハ召集通報人ニ交付シ受領證ヲ徵スヘシ下士官ノ召集令狀ニ對スル受領證ハ取纏メ之ヲ鎮守府兵事官ニ送付スヘシ

召集通報人ナキ不在者ニ在テハ其ノ戶主（本人戶主又ハ戶主不在ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者）ヨリ受領證ヲ出スヘシ

下士官ノ召集令狀保管者ハ前二項ニ依リ召集令狀ヲ交付シタル者ノ人名並事故アリテ之ヲ交付シ得サルトキハ其ノ人名（其ノ事由ヲ記シ）ヲ速ニ憲兵及ヒ警察官吏ニ通知スヘシ

神奈川縣知事伺（三十一年十月十九日）

海軍豫備役後備役下士官寄留又ハ旅行ノ届書ハ海軍下士官服役條例ノ規定ニ依レハ總テ郡長ヲ經由スヘキ筈ニ有之候處海軍召集條例ノ規定ニ依レハ郡長ヲ經由スヘキ明文無之然ルニ右等ノ事項ハ勿論召集通報人ノ變更等ハ郡長ニ於テ職務執行上最必要ニ付召集條例第十二條第二十三條第三十三條第四十八條第六

十三條及ヒ召集條例施行細則第七條第八條ノ  
願屆書ハ總テ郡長ヲ經由セシメ可然哉  
指令(三十一年十月二十二日)  
伺之通

愛媛縣知事照會(三十二年三月七日)

海軍召集條例第十八條ニ依リ郡長ニ於テ召集  
令狀ヲ保管セシトキ令狀ヲ交付セシ者ノ人名  
並ニ事故アリテ交付シ得サル者ノ人名ヲ憲兵  
及ヒ警察官吏ニ通知スルハ令狀保管者タル郡  
長ニ於テ爲スヘキハ條例第二十六條末項ニ規  
定ノ通ナリ然ルニ前件ノ令狀ヲ交付スルハ施  
行細則第三十五條ニ依リ町村長ノ事務ニ屬ス  
ルニ附キ町村長ヨリ直ニ其ノ人名ヲ憲兵及ヒ  
警察官吏ニ通知セシムルコトトセハ取扱方簡  
便ナルニ依リ本縣ニ於テハ其ノ規定ヲ設ケ施

行シタキ見込ニ附キ意見承知シタシ

海軍次官回答(三十二年三月十三日)

召集令狀保管者タル郡長ニ於テ町村長ヲシテ  
通知セシムルハ差支ナシ

第二十七條 充員召集令ノ達ヲ受ケタル官衙並  
公署ハ直ニ軍事警報ヲ揭示スルモノトス但シ  
鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ命ニ依リ之ヲ揭  
示セシメサルコトヲ得

第二十八條 被召集人ニ代リ召集令狀ヲ受領シ  
タル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀  
ヲ本人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條 准士官以上召集令狀ヲ受領シタル  
トキハ旅費ヲ受領シ速ニ指定ノ場所ニ到着ス  
ヘシ  
前項准士官以上ノ官姓名ハ豫メ海軍省ヨリ到

著地ノ長官ニ通知シ長官ハ其ノ到着ノ都度最  
モ迅速確實ナル方法ニ依リ之ヲ海軍大臣ニ報  
告スヘシ

第三十條 下士卒召集狀ヲ受領シタルトキハ旅  
費及ヒ旅費證票ヲ受領シ其ノ令狀ニ指定シタ  
ル期日ニ於テ海兵團ニ到着スヘシ

第三十一條 憲兵及ヒ警察官吏第二十六條第三  
項ノ通知ヲ受クルトキハ其ノ被召集人ヲシテ  
所命ノ期日ニ召集ニ應セシムルノ處置ヲ爲ス  
ヘシ

第三十二條 召集地ニ到ルノ途中ニ於テ已ムチ  
得サル事故ノ爲メ到着ヲ遅延スル場合ニ在テ  
ハ其ノ事故傷痍疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書  
ヲ其他ノ事故ナルトキハ其ノ事故ノ生シタル  
地ノ市町村長警察官吏船長若クハ驛長ニ就キ

證明書ヲ受領シ到着ノ上准士官以上ニ在テハ  
到着地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テ  
ハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ差出ヘシ

前項ノ事故ヲ生シタルトキハ准士官以上ニ在  
テハ迅速ナル方法ニ依リ其ノ事故及ヒ豫定延  
滞日數ヲ到着地ノ長官ニ届出テ該長官ハ之ヲ  
海軍大臣ニ報告スヘシ但東京ニ到着スルトキ  
ハ直接ニ海軍大臣ニ届出ヘシ

憲兵司令官照會(三十一年十二月十二日  
官報)

海軍召集條例第三十二條傷痍疾病外ノ事故ニ  
對スル證明ハ市町村長警察官吏船長若クハ驛長  
ニシテ憲兵ニ關係ナキカ如シ果シテ然ルヤ  
答 意見ノ通り(次官)

第三十三條 召集令狀ノ交付ヲ受クルモ已ムチ

得サル事故ノ爲メ速ニ出發シ難キカ或ハ豫定期日迄ニ指定ノ場所ニ到着スルコト能ハサル場合ニ在テハ其ノ事故傷疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ本人ヨリ旅行犯罪失踪等ナルトキハ召集令狀ヲ受領シタル者ヨリ事由届書(准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ宛テ下士卒ニ在テハ在籍領守府兵事官ニ宛テ)ヲ二十四時間以内ニ市町村長ニ差出ヘシ

市町村長前項ノ届書ヲ受領スルトキハ准士官以上ノモノニ付テハ本人ノ到着スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ヘ進達シ下士卒ノモノニ付テハ領守府兵事官ニ送付スヘシ

第一項ニ依リ届書ヲ差出シタル場合ニ於テ下士卒ノ召集令狀ハ之ヲ郡市長若ハ町村長ニ返付スヘシ

第三十四條

前條第一項ニ依リ事由届書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ事故止ミタルトキハ准士官以下ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待チ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若ハ町村長ヨリ召集令狀ヲ受取り其ノ指示ニ從フヘシ

第三十五條

召集シタル下士卒ハ海兵團ニ於テ身體検査ヲ行フ身體検査ニ於テ服役ニ堪ヘスト認ムルトキハ召集ヲ解キ旅費ヲ給シテ歸郷セシム

第三十六條

召集ノ期ニ後ルルモノアルトキハ下士卒ニ在テハ海兵團長准士官以上ニ在テハ到着地ノ長官事實ヲ糺シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第三十七條

下士卒ノ召集完結スルトキハ海兵團長ハ之ヲ領守府司令長官ニ報告シ領守府司令

令長官ハ其ノ報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

千葉縣照會(三十一年十月二十六日)

二、條例第三十七條ニ下士卒召集完結スルト

キハ海兵團長ハ之ヲ領守府司令長官ニ報告シ云々トアレトモ地方長官ニ於テ該召集完結ノ通知ヲ受クルコトハ條例細則中ニ何等正條ナキヲ以テ標旗標燈ヲ撤去セシムル能ハス右其撤去期ハ別ニ通知可相成儀ナルヤ

海軍次官回答(三十一年十月二十八日)

第二項標旗標燈ノ撤去期ハ別ニ通知セサルヲ以テ被召集員出發後適宜之ヲ撤去セシメ然ルヘシ

第三十八條

正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ背ク者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ

科料ニ處ス

正當ノ事由ナクシテ第二十八條ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス正當ノ事由ナクシテ第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十九條

召集解除ノ令アリタルトキハ海軍大臣及ヒ領守府司令長官ハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ領守府司令長官ハ全時ニ地方長官警視總監憲兵隊長ニ通知シ旅費ヲ給シ被召集人ヲ歸郷セシム

第四十條

召集解除ノ行務完結スルトキハ海兵團長ハ之ヲ領守府司令長官ニ報告シ領守府司令長官ハ其ノ報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第四十一條

召集ノ諸行務ニ關シ責任ヲ有スル



諸員ハ召集解除後速ニ復タ召集ノ準備ヲ爲スヘシ

第四章 演習召集

第四十二條 海軍大臣及ヒ鎮守府司令長官ハ大演習召集ノ令アリタルトキハ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十三條 鎮守府司令長官小演習召集ヲ行ハントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條 鎮守府司令長官小演習ヲ行フトキハ之ヲ其ノ部下ニ達シ全時ニ召集區域内地方長官警視總監憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十五條 大演習若クハ小演習召集ノ通知アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ郡市町村長並召集事務ニ關係アル官吏ニ警視總監憲兵隊長ハ

之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

和歌山縣知事照會(三十一年十月十四日)

一、條例第二十五條及ヒ第四十五條ニ地方長官ハ之ヲ郡市町村長並ニ召集事務ニ關係アル官吏ニ(中略)達スヘシトアリ右ハ町村長ヘハ郡長ヨリ警察分署長巡查駐在所ヘハ警察署長又ハ分署長ヨリ通達セシムルモ差支ナキヤ

海軍省軍務局長回答(卅一年十月十二日) 一、差支ナシ

第四十六條 演習召集ニハ第二十六條第二十八條乃至第三十三條及ヒ第三十條乃至第四十條一ニ條ヲ準用ス

第四十七條 第三十三條第一項ニ準シ事由屆書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ事故止ニタルト

キハ准士官以上ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待チ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若クハ町村長ヨリ召集令狀ヲ受取り其ノ指示ニ從ヒ旅費及ヒ旗費證票ヲ受取り直ニ海兵團ニ到着スヘシ但シ演習ノ前半期間ニ召集地ニ到着スル能ハサル者ト認ムルトキハ郡市長若ハ町村長ハ其ノ差程ヲ差留メ鎮守府兵事官ニ通知スヘシ

第四十八條 演習召集令狀ノ交付ヲ受ケタル者其ノ父母重症ニ罹リ若クハ死亡シタルトキハ親戚又ハ近隣戸主二人以上連署ノ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書若ハ死亡證ヲ添ヘ准士官以上ニ在テハ到着スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ鎮守府司令長官ニ十四日以内ノ延期ヲ願出ルコトヲ

得

前項ノ場合ニ於テ海軍大臣鎮守府司令長官ハ審査ノ上其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

第四十九條 正當ノ事由ナクシテ第四十七條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 簡閱點呼

第五十條 鎮守府司令長官ハ簡閱點呼ノ爲メ毎年一回豫備役後備役下士卒ヲ召集シ簡閱點呼執行官ヲ派出シ期日ヲ定メテ點呼ヲ行ハシム但シ他ノ召集ヲ行ヒタル年ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 鎮守府司令長官ハ部下將校若干名ニ簡閱點呼執行官ヲ命シ之ニ必要ノ訓令ヲ授

クヘシ又必要アルトキハ簡閱點呼執行官ニ部下主計官ヲ附スルコトヲ得

第五十二條 各簡閱點呼執行官ニハ下士卒若干名ヲ附屬セシム

第五十三條 鎮守府司令長官簡閱點呼ヲ行ハントスルトキハ簡閱點呼執行官ニ其ノ巡回區及ヒ出發期日ヲ達シ全時ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五十四條 鎮守府司令長官ハ簡閱點呼執行官ヲシテ巡回路ヲ豫定セシメ出發期日ト共ニ之ヲ關係地方長官ニ通知スヘシ

第五十五條 地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡市長ニ達シ郡市長ハ之ヲ町村長ニ達シ市町村長ハ之ヲ豫備役待備役下士卒ニ豫告ス

第五十六條 簡閱點呼召集所ハ地方廳管轄區域ノ廣狹及ヒ被點呼者ノ多少ニ依リ簡閱點呼執行官之ヲ定ムルモノトス

點呼令狀ハ鎮守府ニ於テ調製シ前項ニ依リ簡閱點呼召集所定マリタルトキハ兵事官ヨリ之ヲ郡市長ニ送付スヘシ

第五十七條 簡閱點呼執行官ハ巡回日割ヲ定メ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ點呼令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ被點呼者又ハ召集通報人ニ交付シ受領證ヲ徴スヘシ

召集通報人ナキ不在者ニ在テハ戶主(本人戶主又ハ戶主不在ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スルモノ)ヨリ受領證ヲ出スヘシ

スヘシ

殿手縣知事伺(三十一年十一月二十日)

簡閱點呼召集所ナ他郡市ニ設ケラレタルトキハ郡市長及ヒ町村長ハ之ニ參列スルニ及ハサルヤ

海軍大臣指令(三十一年十一月二十一日)

簡閱點呼召集所ナ他郡市ニ設ケタルトキハ郡市長及ヒ町村長ハ參列スルニ及ハス

第六十三條 被點呼者傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ簡閱點呼ニ參會スルコト能ハサルトキハ市町村長ヲ經テ事由屆書ヲ點呼執行日時ニ簡閱點呼官ニ差出ヘシ但シ傷痍疾病ノ者ニ在テハ醫師ノ診書ヲ添フヘシ

第六十四條 被點呼者集合スルトキハ簡閱點呼執行官ハ點呼名簿ノ順序ニ從ヒ點呼シ所要ノ

郡市長ハ事故アリテ點呼令狀ヲ交付シ得サルトキハ其ノ人名(其ノ事由ヲ記シ)ヲ速ニ憲兵及ヒ警察官吏ニ通知スヘシ

第五十八條 被點呼者ニ代リ點呼令狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ本人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條 被點呼者ハ指定ノ日時迄ニ召集所ニ到着シ點呼ヲ受ケヘシ

第六十條 被點呼者ノ往復旅費ハ解散ヲ命スルトキ簡閱點呼執行官若ハ簡閱點呼執行官附主計官ヨリ給スルモノトス

第六十一條 憲兵及ヒ警察官吏第五十七條第四項ノ通知ヲ受クルトキハ其ノ被點呼者ヲシテ所命ノ日時ニ參會セシムルノ處置ヲ爲スヘシ

第六十二條 郡市長並町村長ハ簡閱點呼ニ參列

調査ヲ行ヒ必要ノ訓示ヲ與ヘ解散ヲ命スヘシ

第六十五條 正當ノ事由ナクシテ簡閱點呼ニ參會セサル者及ヒ第六十三條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六十六條 正當ノ事由ナクシテ第五十八條ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス被點呼者簡閱點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官ノ命令ニ服セス又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害スルトキ亦全シ

第六十七條 簡閱點呼執行官簡閱點呼ヲ終ルトキハ點呼實況報告書及ヒ點呼人員表各二通ヲ鎮守府司令長官ニ差出スヘシ

第六十八條 鎮守府司令長官ハ前條ノ書類ヲ取纏メ一通ヲ海軍大臣ニ進達シ一通ヲ兵事官ニ

下付スヘシ

附 則

第六十九條 本條例中郡市長ノ職務ハ島司支廳長若クハ之ニ準スヘキ者並東京市京都市大阪府及ヒ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長及ヒ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

海軍軍人結婚條例

明治二十五年十月勅令第八十七號

第一條 海軍軍人結婚ヲ爲スニハ將官並全等官

ニ在テハ勅許ヲ仰キ上官士官准士官ニ在テハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 各候補生ハ結婚スルヲ得ス

第三條 現役下士ハ年滿二十五歲以上ニ至ラ

サレハ結婚スルヲ得ス

現役卒ハ年滿二十五歲以上ニシテ一等卒ニ進級シタル後ニ非サレハ結婚スルヲ得ス

第四條 配偶者タルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年滿十六歲以上ナルヲ要ス

附 則

第五條 海軍武官結婚條例ハ本例發布ノ日ヨリ廢止ス

廢止ス

明治二十五年十月七日訓令第二號

海軍軍人結婚願出手續左ノ通定ム

海軍軍人結婚願出手續

明治二十五年十月海軍省訓令第一號全三十三年二月全省令第一號改正

第一條 海軍軍人結婚條例第一條ニ依リ結婚ノ許可ヲ願ハントスル者ハ左ノ書式ニ依リ將官

並相當官ハ直ニ海軍大臣ニ差出シ上長官士官及准士官ハ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ差出シ下士卒ハ所轄長ヲ經テ所管長官ニ差出スヘシ但シ配偶者タルヘキ婦人ノ年滿ヲ證明スル爲メ戶籍吏ノ爲シタル戶籍抄本ヲ添付スヘシ

書 式

○結 婚 願

何府縣何國何郡何町村何番地

華士族平民

何某何女(姊)(妹)

某

何年何月何日生

何年何月何年何箇月

右記載ノ者ト結婚致度候間御許可被下度別紙  
身元證書相添此段奉願候也

年月日

官(職)

姓名印

海軍大臣(所轄長官)宛

前書ノ趣不都合無之ニ付御許可相成度候也

年月日

所管長官(所轄長)姓名印

○身元證書

何府縣何國何郡何町村何番地

華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

右ハ行狀端正ノ者ニ付此段保證候也

年月日

何府縣何郡市區何町村長

姓名印

第二條 各軍人ノ結婚ハ條例ニ依リ許可ヲ得タ  
ル後普通人事ノ手續ヲ爲スモノトス

第三條

結婚整ヒタルトキハ其旨速ニ準士官以  
上ハ海軍大臣ニ届出下士卒ハ所管長官ニ届出  
ヘシ

海軍生徒學生下士卒死亡者取扱規則

明治三十二年一月海軍省令第一號

全三十三年六月全省令第十四號及

三十七年二月全省令第六號

第一條

生徒學生(帝國大學等ニ依托ノ學生ヲ  
謂フ以下全シ)及ヒ下士卒死亡シタル時ハ本  
則ニ依リ處分スルモノトス

下士卒入院中若ハ陸地療養中現役ヲ離ルルニ  
際シ重症ノ爲メ引續キ療養ノ者死亡シ又ハ傷  
疾疾病ニ依リ現役ヲ免ヒラレタル者歸郷ノ途  
中死亡シ其ノ死體引取者ナキトキ或ハ雇員備  
人規則別表ニ掲ケル備員(艦團其他各部内ニ

居住セサルモノヲ除ク)死亡シタルトキハ總  
テ本則ニ準シ處分スルコトヲ得但シ備員ハ卒  
ニ準ス

第二條

死體ハ死後二十四時間ヲ過クルニ非サ  
レハ之ヲ葬ル可カラズ但シ傳染病死亡者ハ此  
ノ限ニアラス

第三條

溺死等ニテ死體ナキトキハ其ノ軍服或  
ハ通常軍服ヲ死體ニ代ヘ葬ルコトヲ得又傳染  
病死亡者ハ之ヲ火葬シ或ハ傳染病豫防法ニ依  
リ消毒法ヲ施シタル後埋葬スヘシ

第四條

生徒學生及ヒ下士卒海軍病院ニ於テ療  
養中死亡シタルトキハ病院長ハ其ノ地所在艦  
團其ノ他各部ノ者ニ在テハ本人所屬ノ長ニ通  
知シ本人所屬ノ艦船艇拔錨後若ハ其ノ他ノ場  
合ニ在テハ其ノ地所所在ノ鎮守府兵事官ニ通知

スヘシ

病院長ハ前項ニ依リ鎮守府兵事官ニ通知スル  
ト全時ニ本人所屬ノ長ニ通知スヘシ

第五條

生徒學生及ヒ下士卒地方病院又ハ陸地  
ニ於テ療養中死亡シタルトキハ病院長若ハ療  
養中在宿セシ家ノ戸主又ハ看護人ハ其ノ地所  
在艦團其ノ他各部ノ者ニ在テハ死亡證書ヲ添  
ヘ本人所屬ノ長ニ通知シ本人所屬ノ艦船艇拔  
錨後若ハ其ノ他ノ場合ニ在テハ死亡證書ヲ添  
ヘ其ノ地所所在ノ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ  
者(其ノ地ニ海軍官廳アルトキハ該官廳東京  
市ニ在テハ海軍省經理局)ニ届出ヘシ

第六條

艦團其ノ他各部ニ於テ第四條第一項及  
ヒ第五條ニ依リ病院長等ヨリ死亡ノ通知ヲ受  
ケタルトキハ其ノ近傍ニ本人ノ親族故舊或ハ

身元引受人アレハ速ニ其ノ旨ヲ報知シ又主任者ヲ定メ其ノ葬具ヲ調ヘ死體入棺ニ會同セシメ且神道教師或ハ僧侶ヲ祭主ト爲シ之ヲ埋葬スヘシ海軍省經理局其ノ他海軍官廳ニ於テ前條ニ依リ死亡届ニ接シタルトキ亦同シ

第七條 生徒及ヒ下士卒艦團其ノ他各部内ニ於テ死亡シタルトキハ前條ニ準シ埋葬スヘシ學生在學中死亡シタルトキハ第五條第六條及ヒ第十條ニ準ス

第八條 艦船艇乗組ノ生徒下士卒ニシテ他ノ海軍各部ニ委託療養中本人所屬ノ艦船艇拔錨後死亡シタルトキハ其ノ委託ヲ受ケタル各部ニ於テ第六條ニ準シ埋葬スヘシ

第九條 生徒及ヒ下士卒地方病院又ハ陸地ニ於テ療養中本人所屬ノ艦船艇拔錨スルニ當リ該

長之ヲ不治ノ症ト認ムルトキハ其ノ旨ヲ其ノ地所在ノ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ通知シ豫メ埋葬ノ事ヲ依托スヘシ前項ノ場合ニ於テハ所屬長ハ速ニ其ノ旨ヲ本人在籍鎮守府ニ報告スヘシ

第十條 市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ前條ニ依リ艦船艇長ヨリ依托ヲ受ケタル者死亡シタルトキ又ハ第五條ニ依リ死亡届ニ接シタルトキハ速ニ葬具ヲ備ヘ死體入棺ヲ行ヒ神道教師或ハ僧侶ヲ祭主トシ適宜埋葬スヘシ

第十一條 生徒學生及ヒ下士卒行旅中死亡シタルトキハ所在市區町村長若クハ之ニ準スヘキ者ニ於テ明治十五年(九月)第四十九號布告行旅死亡人取扱規則ニ從ヒ假ニ之ヲ埋葬スヘシ

第十二條 第十條及ヒ第十一條ニ依リ死亡者ヲ

埋葬シタルトキハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ速ニ其ノ時日場所等ヲ詳記シ醫師ノ死亡證ヲ添ヘ本人所屬ノ長ニ報告スヘシ海軍省經理局其ノ他海軍官廳ニ於テ第六條ニ依リ死亡者ヲ埋葬シタルトキ亦全シ

第十三條 生徒學生及ヒ下士卒ニ即死變死ノ者アルトキハ明治十三年(二月)第十四號公達ニ從ヒ或ハ本人所屬ノ艦團其ノ他各部ニ檢視ノ後埋葬スヘシ

第十四條 生徒學生及ヒ下士卒死亡シタルトキハ本人所屬ノ長ハ生徒學生ニ在テハ海軍大臣ニ届出下士卒ニ在テハ死亡證書ヲ添ヘ本籍鎮守府ヲ經テ本籍ノ地方廳ニ通知シ地方廳ハ之ヲ死者ノ親族ニ達スヘシ但シ生徒學生ニ在テハ所屬長ヨリ死亡證書ヲ添ヘ直ニ身元引受人

ニ達スヘシ

第十五條 埋葬地番人ハ埋葬ノ通知アリタルトキハ主任者ノ意ヲ承ケ葬具ヲ調ヘ神道教師或ハ僧侶ニ祭主ヲ囑托シ又其ノ葬事ヲ補助スヘシ

第十六條 死體ハ海軍埋葬地ニ葬ルチ本則トス海軍埋葬地ナキ地方ニ在テハ該地墓地管理人ニ協議シ相當ノ地所ヲ選定シテ埋葬スヘシ又海軍埋葬地所在地下雖モ死者ノ遺言等ニテ某埋葬地ニ葬ラレンコトヲ請フトキハ其ノ意ニ任スコトヲ得但シ其ノ地遠隔等ニテ事實行ヒ難キ場合ハ此ノ限ニアラス

第十七條 墓地ノ區畫ハ生徒學生及ヒ下士ハ方五尺トシ卒ハ方四尺トス

第十八條 墓標ハ左圖ニ基キ石材ヲ以テ之ヲ製

シ其ノ正面ニ海軍生徒(學生)何(官職)(勳何等)何某之墓ト記シ左側面ハ何(府縣)何族(平民)享年何十年何ヶ月ト記シ右側面ニハ明治何年何月何日死ト記スヘシ(墓標ハ略之)

**第十九條** 死者ノ親族或ハ故舊ヨリ墓地區畫外ニ燈籠水鉢等ヲ建設スルコトヲ許サス但シ海軍埋葬地外ニ埋葬シタル場合ニ於テハ死者ノ親族等ヨリ其ノ墓地管理人ニ示談シ墓地ヲ廣メ燈籠水鉢等ヲ建設シ墓標ヲ大ニスル等ノ事ヲ爲スモ妨ケナシ

**第二十條** 削除

**第二十一條** 削除

**第二十二條** 削除

**第二十三條** 削除

**第二十四條** 削除

**第二十五條** 削除

**第二十六條** 生徒學生及ヒ下士卒死亡シ其ノ親族故舊或ハ身元引受人ニ於テ死體ヲ引受ケ埋葬セントスルトキハ其ノ死亡ノ時ヨリ二十四時間以内ニ左記書式ニ依リ本人所屬ノ長若ハ其ノ地所屬ノ鎮守府兵事官(第十條ノ場合ニ在テハ市區町村長若クハ之ニ準スヘキ者)ニ願出ヘシ但シ本人死亡ノ病院或ハ所屬ノ艦團其ノ他各部内ニ親族故舊或ハ身元引受人アル

トキハ前項ニ依リ親族故舊或ハ身元引受人ヨリ死體ヲ引受ケ埋葬センコトヲ願出タルトキハ本人所屬ノ長鎮守府兵事官又ハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ該引受人ノ身元等ヲ取調ヘ確實ト認メタルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

**第二十七條** 前條ニ依リ親族故舊或ハ身元引受人ニ死體ヲ引渡ストキハ先ツ之ヲ歛シ棺上ニ白布ヲ覆フヘシ

**第二十八條** 生徒學生及ヒ下士卒歸省中死亡シタルトキハ其ノ親族故舊或ハ身元引受人ハ第二十六條ノ手續ヲ要セス直ニ之ヲ埋葬スルコト

トヲ得此ノ場合ニ於テハ醫師ノ死亡證書ヲ添ヘ其ノ時日場所等ヲ詳記シ速ニ本人所屬ノ長ニ届出ヘシ

**第二十九條** 第二十六條ニ依リ親族故舊或ハ身元引受人ニ於テ死亡者ヲ埋葬シタルトキハ速ニ其時日場所等ヲ詳記シ本人所屬ノ長其ノ他所屬ノ鎮守府兵事官又ハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ届出ヘシ

**第三十條** 生徒學生及ヒ下士卒死亡シタルトキハ本人所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ハ其ノ遺物ヲ取纏メ官給品ハ成規ニ從ヒ主管廳ニ返付シ私有物ハ本人ノ親族或ハ身元引受人所在ノ市

區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ送付シ本人ノ親族或ハ身元引受人ニ下付セシム但シ時憲ニ依リ直ニ死者ノ親族或ハ身元引受人ニ下付スルコトヲ得

第三十一條

生徒學生及ヒ下士卒海軍病院或ハ地方病院ニ於テ死亡シタルトキハ海軍病院長ハ第五條ニ依リ死亡ノ届出ヲ受ケタル者ハ其ノ遺物ヲ本人所屬ノ長ニ送付スヘシ但シ便宜ニ從ヒ直ニ前條ニ準シ處分スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ速ニ運送費計算書ヲ調製シ本人所屬ノ長ニ請求スヘシ

第三十二條

市區町村長若クハ之ニ準スヘキ者第三十條及ヒ第三十一條ニ依リ遺物ヲ親族或ハ身元引受人ニ下付シタルトキハ其ノ領收證書ヲ得テ本人所屬ノ長ニ送付スヘシ

○死體引受願

海軍生徒(學生)(何官職) 何某  
右ノ者何地海軍病院(何地病院)(何地)ニ於テ死亡仕候ニ付テハ私儀親族(故舊)(身元引受人)ニ付本人死體引受理葬仕度候條御許可被下度此段奉願候也

年月日

何府縣何市町村何番地

海軍武官階表

大將	中將	將少將	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	尉	准士官	下	士	親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	一等	二等	三等	四等
													勅任	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官

親族(故舊)(身元引受人)何某印  
何府縣何市町村何番地  
保證人 何某印

死亡者所屬長鎮守府兵事官又ハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者宛  
追テ海軍埋葬地内(外)ニ埋葬可仕候也

	軍醫總監		機關總監			
	大軍監醫		大機關監			
藥劑監	中軍監醫		中機關監			
藥劑正	少軍監醫		少機關監			
大劑士藥劑	大軍醫		大關士機			
中劑士藥劑	中軍醫		中關士機			
少劑士藥劑	少軍醫	曹長	少關士機	船匠長	軍樂長	兵曹長
		機關兵曹長		船匠師	軍樂師	上等兵曹
		一等機關兵曹		一等船匠手	一等軍樂手	一等兵曹
		二等機關兵曹		二等船匠手	二等軍樂手	二等兵曹
		三等機關兵曹		三等船匠手	三等軍樂手	三等兵曹
		鍛冶手				

	造兵總監	造船總監		主計總監		
	大造兵監	大造船監		大主計監		
水路監	中造兵監	中造船監		中主計監		
水路正	少造兵監	少造船監		少主計監		
	大造兵技士	大造船技士		大主計		
	中造兵技士	中造船技士		中主計		
	少造兵技士	少造船技士		少主計		看護長
					筆記長	
					上等筆記	看護師
					一等筆記	看護手
					二等筆記	看護手
					三等筆記	看護手
					四等筆記	看護手

海軍修身鑑

○火夫ノ勇氣

廿七八年ノ役我軍艦西京丸敵艦ノ圍ム所ト爲リ

進退谷リケレハ平素剛勇ノ名アル艦長ハ敵艦ヲ衝カント欲シ機關士ニ令シ全速力ヲ命シケル機關士命ニ從ヒ火夫ヲ叱咤シ熾ニ炭火ヲ加ヘシム



茲ニ於テ室内熱氣炎々社ユヘカラス然レトモ火夫成一死ヲ期シ毫モ風撓ノ色ナク義勇公ニ奉シ遂ニ五時間ノ激戦ヲ續ケタリ元來此火夫等ハ郵船會社ノ火夫ニシテ海軍養成ノ軍人ニ非サルモ五時間ノ久シキ此高熱ノ瀛艦室ニ勇氣凜トシテ職ニ堪ヘタルコト決シテ軍人ニ恥チヌトテ艦隊傳ヘテ美談トナレリ(征清壯烈談)

○死ヲ恐レサル將軍

紀元一千八百十一年九月二十一日ポーロン攻撃ノ際英艦カスチリアル號乘組ノ將軍コツブ砲彈ニ中リテ重傷ヲ負ヘリ從卒、醫官之ヲ扶ケテ甲板ヨリ下ラシムコツブハ其一腕ノ將ニ落チントスルヲ見平然トシテ曰ク諸子請フ意トスル勿レ僅ニ一腕ノミト然レトモ其負傷ハ未タ之レノミニ止マラス肋骨碎ケ肺臟傷レタリサレトモ彼ハ

神色自若トシテ元氣平日ト異ルナク毫モ其苦痛ヲ知ラサルモノ、如シ尋テ切開術ヲ行フニ當リ其體中ヨリ彈丸一個ヲ取出セリコツブ之ヲ見テ曰ハク余ハ望ム猶ホ數多ノ彈丸ノ出テ來ラシトナト切解術終リテ數分ナラサルニ遂ニ百世不歸ノ人トナラシメタリ此時ハ其初メテ彈丸ニ觸レシトキヨリ實ニ五十分ノ後ナリキ(軍人逸話)

○英國ノ勇將

英佛戰爭ノ際英國水師提督、ンボウ佛ノ艦隊ト戰フ佛ノ提督ヌルハツカツスナリ時ニ英ノ各艦長等佛艦ノ勢力ニ恐レケン勝利ヲ得ベキ望アルニモ拘ラス逃走スル者數名ニ及ヘリ後其ノ二名ハ怯懦ノ罪ヲ以テ銃殺セラル其他ハ悉ク職ヲ免セララルベンボウハ此戰ニ於テ一脚ヲ傷ケ偶其ノ副官ニ向テ語テ曰ハク予ハ今一脚ヲ傷ケリ實ニ

不幸ト云フヘシ然カモ予ハ英國民中逃避彼輩ノ如キ不名譽者ヲ出スニ比スレハ予ノ兩脚ヲ失フモ悲マス予ハ實ニ戰陣ニ仆ルヘシト雖モ予ハ決シテ男子ニ耻ツルノ舉動ヲナサハルヘシ予ハ此ノ艦ノ沈ム迄ハ戰フテ止マサラント渠レノ傷ハ之ヲ切解治療セシト雖モ次テ熱病ヲ發シ遂ニ不歸ノ客トナル渠臨終ノ期迄艦長等ノ非行ヲ嘆シテ止マス(泰西軍人逸話)

○此ノ手廻ル、モ此艦燒ク可カラス

英吉利土耳其ノ二國海戰ノ際土艦ヨリ發射セル砲彈一箇英艦ガメノン號ノ甲板上ニ墜落セリ此砲彈ニハ曳火信管ヲ附シ且ツ其信管ハ今尙ホ火ヲ保テルヲ以テ見ル々中ニ彈ノ内部ノ火藥ニ移ラントス若シ之ニ移ラハ砲彈直ニ爆裂シテ數百ノ兵士ヲ殺傷スルヤ必セリ艦員中ニチールト呼

ヘル一水夫アリ此時砲手ノ任ニ當リケルカ此ノ危急ヲ見ルヤ否ヤ件ノ彈丸ヲ兩手ニ捧ケテ舷頭ニ持チ行キ之ヲ海中ニ投セリ此時遲シ彼時早シ砲彈ハ水面ニ於テ轟然破烈シ全艦纔ニ其災危ヲ免ル、ヲ得タリ然レトモ彈ハ非常ノ熱度ヲ有セシヲ以テチールノ兩手ハ大火傷ヲ受ケテ甚ダシク腐爛セリ艦長ハ大ニチールノ功ヲ賞シ其剛膽ナル行爲ヲ詳ニ本國政府ニ通セシカハ政府ハチールニ與フルニ勳章及年金ヲ以テセリ

○少年ノ豪膽

サア、グラウテスレイ、シヨールハ豪膽無双ヲ以テ著名ナリシカシ、リ、鳴畔破船ニ逢ヒ非命ノ死ヲ遂ケタル人ナリ彼未タ少年ノ頃サア、シヨーン、ナーボローニ從ヒ船中ニアリシカ曾テ戰ノ時ナーボロー使命ヲ遠距離ノ船中ニ送ラン

ト欲スシヨール之ヲ聞キ自ラ此使命ヲ致サン  
コトヲ乞ヒ使書ヲ口ニシテ海中ニ投シ敵船ヨリ  
驟注スル彈雨ヲ潜リ遂ニ其任ヲ完フセリ(泰西  
軍人龜鑑)

○蠻民中尙ホ此人ア

佛王路易十四世アルツア一人ノ暴民ヲ憤ルコト  
久シ遂ニ意テ決シテ之ヲ征服セントシ數十ノ艦  
隊ヲ派スアルツア一人ノ蠻民等能ク拒ク然レトモ  
其ノ遂ニ支ヘ難キヲ知リ彼蠻民ノ特性トモ云フ  
ヘキ殘忍酷薄ナル最后ノ所行ヲ以テ敵ニ報ヒン  
ト欲シサキニ捕ヘタル佛ノ囚虜ヲ引出シ無慘至  
極ニモ此等チ巨砲ノ口ニ縛リ付ケ彈藥ヲ裝填シ  
佛艦ニ面シテ是ヲ發射セリ爆發一發砲門ニ縛サ  
レタル囚虜ハ如何ソノ之ニ堪ヘ得ヘケン五體ハ  
忽チ粉碎セラレテ其片々天空ニ飛揚散亂シ骨肉

寸斷分裂シテ遠ク佛艦ニ達セシモノアリ其狀慘  
絶悲絶佛人ヲシテ酸鼻直視ニ堪ヘサラシム然ル  
ニアルツア一人ノ艦長中ニ某ナルモノアリ先ニ佛  
人ニ囚ハレシトキ大ニ佛人ノ厚遇ヲ受ケ常ニ之  
ヲ記シテ其恩ヲ忘レサリシカ不圖囚虜ノ佛人ヲ  
見シニ其中ニ己レヲ識キニ囚虜タリシトキ特ニ  
懇切ノ待遇ヲ蒙レル佛ノ一將校アルヲ見テ感慨  
措ク能ハス是ニ於テ艦長ハ百方力ヲ盡シテ彼ノ  
將校ノ爲ノニ助命ヲ請ヘリ然レ共恩典遂ニ下ラ  
スシテ渠等幾人ノ囚虜ハ又々砲口ニ縛セラレ雲  
烟霧消ニ化セントス艦長ハ之ヲ見ルヤ今ハ早ヤ  
忍ヒ難クヤアリケン身ヲ挺シテ彼ノ佛將ヲ擁ス  
ル砲手ヲ願ミ絶叫シテ曰ク打テ予ハ予ノ恩人ヲ  
救フ能ハサル故ニ寧ロ恩人ト死チ共ニシ以テ自  
ラ慰メント欲スト流石ニ暴民無情ナル蠻民ノ會

長モ目前此狀ヲ見テ豪膽ノ情自ラ禁スル能ハス  
遂ニ命シテ之ヲ止メシメシトナン(泰西軍人龜  
鑑)

○頭ナキチ如何ンセン扱ハ虚言ナリシカ

身チ水夫ノ微賤ヨリ起シ千百ノ戰功ヲ積ミ遂ニ  
名譽權勢並ナキ水師提督ノ顯職ニ上リシモノチ  
ベンホートス彼未タ水夫タリシ時或激戰ニ會シ  
一軍艦ニ在リテ大砲取扱ノ任務ヲ負擔シ他ノ一  
人ト共ニ敵ニ向テ連リニ發砲シ居タル際忽チ一  
彈丸飛ヒ來リテ同僚ノ脚ヲ射去レリ渠大聲ヲ發  
シテ助チベンホートニ求ムベンホートハ之ヲ見テ慌  
シク其任務ヲ棄テ諸聲一番手負チ肩ニ昇キ載セ  
テ階下ノ室ニ降り行カントス然ルニベンホートノ  
足已ニ階下ニ掛リ手負ノ頭正ニ甲板ト平行セル  
其ノ剎那再ヒ飛ヒ來リシ砲丸ハ憐レ手負ノ頭首

チ射去レリ而カモ硝煙彈雨咫尺ヲ辨セス到ル處  
百方雷霆ノ鳴動スル折柄ナレハベンホート更ニ此  
事アリシチ知ラス頭首ナキ死體ナ肩ニシナカラ  
下室ニ來リ續ケサマニ軍醫ニ叫ムテ曰ハク手負  
一人連レ來レリ手負一人連レ來レト一軍醫ハ  
聲ニ應シテ來リ見レハ何ソ計ランベンホート頭  
首ナキ死體ナ肩ニシナカラ室ノ中央ニ停立シ居  
ラントハ軍醫ハ佛々叫ンテ曰ク滑稽ハ時ニコソ  
ヨレ斯ル生死ノ巷ニ立テ御身ハ頭ナキ男ヲ連レ  
來リテ如何ニセントストベンホート慌シク之ヲ下  
ロシ大ニ驚キ叫ンテ曰ク咄頭ナシ渠ハ足ヲコソ  
撃メレタリト云ヒツルニ信テハ頭ナシニテアリ  
ツルカ、ゲニゲニ是マテモ渠ノ言ヲ信シヨカリ  
シコトハアラサリキ扱ハ又例ノ虚言ナリシカ  
(泰西軍人龜鑑)

○子ルソン將軍ノ和氣

子ルソンノ印度ヨリ歸リ其乘組軍艦ヲレアス號ノ非役艦トナルヤ子ルソンハ暫時閑散ノ身トナリ又此ニ於テ佛蘭西ニ留學シ專ラ佛語ヲ講習セシト志シ留學ノ願書ヲ政府ニ出タシ其許可ヲソ得テケルニ萬端ノ準備既ニ成リテ出發ノ期日近ツキシカハ一度其父エドマンドヲ會ミテ別辭ヲ告ゲンモノト其妻ニスベツトヲ携ヘテバーンハムツープノ生家ニ歸リヌ

子ルソンノ父エドマンドハ性來虛弱ノ身體ナルニ加ヘテ數年前ヨリ中風ト喘息トニ侵サレ今ハ歸居モ自由ナラス某朝ノ如キハ病ノ爲メニ苦シメラレテ起床後數時間全ク言語スラ發スル能ハサリキ斯ル病體ナルモノカラニ多クノ醫師ハ皆既ニ其ノ起タサルヲ豫言シテ一人ノ全快ヲ保證

スルモノナク毎年冬期ニ至レハ獨リ溫泉場ニ赴キテ手ツカラ出來得ル限リノ療養ヲナスヲ常トセリ然レトモ何ソ計ラシ多敷ノ名醫其ノ起タサルヲ豫言シテヨリ幸ニ四十年間生存シテ寧ロ長壽ノ人ト稱セラレントハ實ニヤ人ノ壽命ハ天帝ノ賦與セル賜ニシテ人智ヲ以テ其ノ長短ヲ測リ知ルヲ得サルモノニコソアレ

开ハ兎モ角モエドモンドハ我最愛ノ兒ト相見ルヤ否ヤ平日ノ病苦ヲモ打忘レ其ノ手ヲ取リテ只管其ノ恙ナキヲ祝シケルカ歡極マリテ涕淚煩ヲ濕シテ語ルコト能ハス子ルソンハ恭シク平素ノ疎遠ヲ謝シ更ニ新婦ニスベツトヲ紹介シ且ツ曰トケルハ

父上ヨリ兒ハ暫ク閑散ノ身トナリマシタカラ政府ノ許可ヲ請ヒ受ケテ妻ト共ニ是カラ佛蘭西

へ留學致シマス又何時御目ニカ、ルカ知レマセヌ故今日ハ疎遠ノ謝罪旁訣別ニ參リマシタエドモントハ以前ノ喜色ニ引換ヘテ乍キ憂ノ眉根ヲ寄セホレシヨ、何故汝ハ其様ナ心強イコトヲ云フノタ斯クマテ急ニ汝ト別レル程ナラ初カラ會ハヌ方カ一層増シタツタ一寸姿ヲ見セテ直ク行クトハ乃公ヲ喜ハセニ來タノハテナク却テ苦シメニ來タ様ナモノヲソレモ國家ノ爲ニ職場ニ出ツルノナラ乃公ハ決シテ女々シク止メハセヌ否寧ロ一刻モ早ク去ルコトヲ望ムケレトモ一身ノ都合ノ遊學ナトハ汝ノ爲ニ左シタル必要任務テハアルマイ萬望出來ルタケ乃公ノ傍ラニ居テ乃公ノ老後ヲ喜ハセテ吳レ乃公モ此通り追々年ヲ取身體ハ次第ニ衰ヘルハカリニ最早到底永イコトハアルマイト思フヨ

一言一句肺腑ヨリ出ツ父ノ切ナル恩愛ヲ今ソ知ル斯ル慈惠ノ言葉ニ對シテ誰カハ一言否ノ答ヲ發スルヲ得ヘキヤ子ルソンハ一モ二モナク父ノ言ニ默從シテ遊學ノ志望ヲ中止シ妻ト共ニ其ノ膝下ニテ留マリケルサレハ一テ寂寞タル田舎ノ下ニシアレハ他ニ其身ヲ樂マス手段トテモアラサレハ質朴ナル村人ノ中ニ交リテ田舎ノ遊戯ト田舎ノ職業トニ其身ヲ委子心長閑ニ日一日ト過シケル或時ハ鐵ヲ手ニシテ寺領地内ノ畑ヲ耕シ或時ハ花園ニ出テ空シク地中ニ穴ヲ穿テ又或時ハ六七才ノ小兒ノ如ク原野ニ赴キテ終日鳥ノ巢ヲ求ムルニ餘念ナク隣人ヲシテ轉々當年ノホレシヨ、ヲ想ヒ起サシメヌ然レトモ子ルソンニ取リテ最モ樂シキ遊戯ハ數頭ノ獵犬ヲ伴ヒテ野兎ヲ狩スルニソアリゲル又時ニハ屢々鳥銃ヲ肩ニ

シテ山野ヲ跋躑シケルカ銃獵ハ最モ其拙ナル技  
藝ニシテ恰モ今ヤ敵中ニ乘リ入ラントスルカノ  
如ク絶ヘス火蓋ヲ充分ニ引キ上ケ鳥ノ飛ヒ立ツ  
ヲ見ルヤ否ヤ姿勢ヲモ正サスシテ猥リニ之ヲ發  
射セリ然ルカラニ徒ラニ同伴者ニ取リテ其危險  
ノ甚タシキノミニシテ常ニ一羽ノ小鳥ヲモ獲ル  
能ハス一日僥倖ニシテ一羽ノ鳩鳩ヲ射留メケル  
時家族ハ見テ以テ一代ノ功勳ナリトシ長ク一家  
爐邊ノ談柄ニ上リケルトソ因ニ記ス米國某地ノ  
人曾テ山ニ入ツテ休ミシ所何處ヨリカ一頭ノ猛  
獅忽然トシテ來リメ某ハ慌恐錯愕爲ス所ヲ知ラ  
ス然レトモ走ラノ一撃ノ下ニ其餌トナラシコト  
ヲ知リ命ヲ天ニ任セテ其處ヲ去ラス猛獅ノナ  
ス所ヲ打チマモリメ獅ハ意外ニモ悠々トシテ其  
傍ニ來リ聽テ四足ヲ折テ踞シ一足ヲ其前ニ出ス

某大ニ之ヲ怪シミ熱視スレハ木片ニヤアラン其  
蹠邊ニ堅ク殘リテ頗ル苦痛ヲ訴フルモノ、如シ  
此ニ於テ稍ヤ其意ヲ解シヤナラテ下シテ其ノ  
片木ヲ拔キ取リケレハ獅ハ忽チ喜、ルカ如ク幾  
度カ願望徘徊シテ立チ去リヌ既ニシテ某ハ重キ  
罪ヲ犯シテ獄裡ニ繋カレ間モナク死罪ヲ宣告セ  
ラル當時一種ノ奇習行ハレ死囚ノモノヲシテ猛  
獸ト格闘セシノ僥倖ニモ之ニ打チ克チ得ンモノ  
ハ死チ免ル、コトヲ得乃チ某亦此ノ奇刑ニ處セ  
ラル而シテ其闘ヲ挑ムノ所モノハ悍然タル一頭  
ノ獅ナリ埒外ノ人々ハ兩個カ形ヲ見ルヤ互ニ獅  
ノ擊ノ迅烈ヲ想ヒシニ豈圖ランヤ獅ハ頭ヲ垂レ目  
ヲ小ニ語ラントシテ語ル能ハサルモノ、如シ此  
ニ於テ監吏ハ怪シテ某ニ對ツテ其故ヲ問フ某答  
フルニ曾獅ノ爲メニ木片ヲ拔去リシコト及ヒ

ノ獅ナラシコトヲ以テス乃チ某ハ不思議ニモ  
死チ免セラル、コトヲ得タリ嗚呼獅猛頑惡ノ  
野獸猶恩ヲ記シ情ヲ知ルコト此ノ如シ矧ンヤ靈  
明ナル人生ニ於テカヤチルソノ將軍ハ實ニ英國  
當代ノ獅ナリ虎ナリ猛烈豪快其類ナキト共ニ亦  
情ニ富ミ親ニ厚キコト其比ナカリシナラン偶其  
父ニ接シ其切々ノ言ニ感シ翻然遊學ノ念ヲ絶チ  
テ膝下ニ孝ヲ致ス和厚纏綿ノ狀誰カ無限ノ感ヲ  
起サ、ラン嗚呼剛柔相兼メル將軍ノ如キモノ古  
今夫レ幾人カアル(軍事教育)

○提督ノ公明賞罰ヲ明カニス

英國ノ水師提督ロドリハ公平ノ士ナリ曾テ大  
ニ佛軍ト戦フ時ニ偶一婦人アリ艦ノ正甲板ニ出  
テ拮据奮勵發砲ヲ助ク提督之ヲ見テ怪シミ問フ  
テ曰ク御身ノ此ノ所ニ來ル果シテ何方用ゾト婦

人懇懇答ヘテ曰ク閣下妾ノ良人ハ一水夫ニシテ  
己ニ負傷シテ病室ニアリ今ハ役務ヲ取ル能ハス  
故ニ妾ハ良人ニ代リテ役務ヲ取ランカ爲此ノ所  
ニアリ閣下ハ妾ヲ認メテ以テ佛人ヲ畏ル、モノ  
トナスト戰既ニ終リ提督ハ再ヒ彼ノ婦人ヲ呼ヒ  
言チ正フシテ曰ケ婦人トシテ正甲板ニ上リタル  
ハ艦内規律ヲ破リタルモノナリトテ深ク其ノ行  
ヲ責メ厚ク將來ヲ注意シタル後更ニ語チ改メ竊  
弱ノ身ヲ以テ良人ニ代リタル勇氣ヲ賞シ報フル  
二十ギニ一ノ貨幣ヲ以テセリト云フ(泰西軍人  
魚籃)

○親ノ赤誠其子ニ報フ

英王ジョージ二世帝位ニ上リシ後先ツハノ一バ  
ーヲ巡視セントシカンドロウ公ヲ伴ヒテ出發ス  
途海ヲ航ス時偶マ暴風雨劇浪怒濤船ヲ覆ヘシ爲

メニ王及ヒ公相共ニ溺セントセシカ一夫ロド子  
 一ノ助クル所トナリ諷ニ其身ヲ完セリサレハ  
 王ハ一身ノ危難ヲ冒シテ其身ヲ救ヒシロド子  
 ノ功ヲ思ヒ之カ報賞トシテ彼ノ望ム所ヲ與ヘン  
 トシ彼ニ向ヒテ其希望ヲ問ヒ給ヒシニ彼ハ奏答  
 スラク陛下臣ハ臣トシテノ職分ヲ盡セシノミ臣  
 ハ敢テ報賞ヲ望ムモノニアチス然レトモ陛下若  
 シ臣ニ物ヲ與ヘントナラハ寧ロ臣カ請願ヲ嘉納  
 セヨ臣カ請願ハ他ナシ將ニ生レシ臣カ乳兒ノ爲  
 メニ陛下及カンドウ公ハ教父タラントコトナト此  
 ト請願ハ直ニ王ノ納ル、所トナリ乳兒ハシヨ  
 シアライソザト命名セラレ爾來王ノ下ニ教養セ  
 ラレシカ早ク既ニ彼レハ英ノ海軍部内ニ知ラル  
 、事トナリ遂ニ有名ナル水師提督ロド子トナ  
 レリ蓋シ親ノ赤誠其ノ子ニ報ヒシモノカ(泰西

軍人龜鑑

○清廉潔白此ノ人アリ

英國水師提督サーシヨウジルクハ清廉潔白チ  
 以テ夙ニ其ノ名貴々タリ彼ハ紀元千六百五十年  
 カンタービユリ、附近ニ生レ少壯ニシテ早ク身  
 チ海軍部内ニ投シ爾來數十百ノ戰場ヲ經テ屢偉  
 功ヲ奏シ累進シテ水師提督ニ拜シ遂ニ樞密顧問  
 ノ顯職ヲ辱フセシカ千七百四年英佛ノ交戦ニ際  
 シ再ヒ水師提督ヲ以テ役務ニ服シ職ヲ完フシテ  
 後故山ニ退隱セシ人ナリ彼レノ退隱後未タ幾年  
 ナラスノ不幸ニ暨ノ犯ス所ナリ命數モ既ニ盡キ  
 ナントスルニ當リ彼レハ平然遺書ヲ認メツ、ア  
 リシカ偶々左右ヲ顧ミ蝟集セル友人等ニ向テ曰  
 ク予ハ赤貧ニシテ遺スヘキ産一モナシト友人等  
 之テ聞キ怪ミ問フテ曰ク卿ノ貴紳ヲ以テ遺産ナ

シトハソモ何タル事ソトルク從容答ヘテ曰ク  
 予ハ遺産ノ價值ハ垢面弊水ノ一水夫ノ一滴涙ヨ  
 リ價值アリト信セス左レハ當初ヨリ遺産ノ心カ  
 ケナカリシナリト衆聞キテ赧然タルコト稍久シ  
 惟フニ頭貴彼レノ如キモノニシテ子孫ノ爲メニ  
 産ヲ遺サストセンカ蓋シ容易ノ業ナラン而カモ  
 彼レニシテ之ヲ爲サ、リシハ唯身ヲ以テ國家ニ  
 竭スチ努メ餘財悉ク部下ニ散シテ後顧ノ患ヲ絶  
 チ彼等ヲシテ専ラ國家ニ盡サシメタルニ由ル子  
 孫ノ爲メニ美田ヲ買ハスノ語亦此ニ觀ルコトチ  
 得タリ(泰西軍人龜鑑)

○勝安房ノ警語

勝安房曾テ海軍大輔タリ一年新造ノ軍艦落成シ  
 タリトテ主管ノ吏員等大輔ノ一閱テ請ヘリ大  
 輔始メハ之ニ應セサリシカト請フコト再三ニ及

ヒケレハ遂ニ之ヲ諾セリ蓋シ吏員ノ意中大ニ其  
 壯觀ナルヲ賞セラレンコトヲ期スルナリ大輔ハ  
 靜カニ艦内チ一覽シテ後將校ヲ顧ミテ謂テ曰ク  
 薩長ノ奴等ハ馬鹿テスナト此一言ヲ聞クヤ一坐  
 茫然中ニ或ハ憤然暴チ加ヘントスルモノアリ大  
 輔ハ平然トシテ語ヲ繼テ曰ク諸君マア暫ク僕ノ  
 言フコトヲ聞キ給ヘ、先ツ此大砲ナトハ陸ニ上  
 ケテシマツ方カ宜シイ只軍艦ノ舵ニ蠟ノ附カメ  
 様ニ注意シナサイ大砲ヲ乗セタマ、テ自由ニ運  
 轉スルノハママタマ十年モ經タ後サ、是ニ於テ  
 衆皆目ヲ見合セテ呆然タリシカ舵ニ蠟ノ附カメ  
 様ニ注意シナサイト一語ハ爾來海軍部内ノ一  
 警語トナルニ至レリ(軍人逸話)

○一國ノ安危ハ一水師提督ノ命令ヨリ  
 モ重シ

女王アン子ノ御世ナリキ英國ハ西班牙ト戈ヲ交  
 へ英ノ某司令官ハ西國某海岸ニ於ケル艦隊追撃  
 ノ命ヲ受ケ彼ハ直ニ其ノ指定地ニ向ヒシモノ  
 西艦ナシ偶々西艦ビゴ一ニ在リト報スルモノア  
 リ蓋シビゴ一ハ指定地外ニシテ司令官ノ攻撃ス  
 へキ權内ニアラス然レトモ彼ハ勇氣勃々禁スル  
 能ハス且ツヤ之ヲ撃破スルト否トハ英國ノ安危  
 興廢ニ干スル至大ナルヲ以テ自己ノ責任ヲ犧牲  
 トシ進ンテ之ヲ追撃シ最モ見事ノ手際ヲ以テ該  
 艦隊ヲ粉碎セリ而シテ歸ルヤ否ヤ彼ノ司令官長官  
 タル水師提督ハ彼ヲ捕縛シテ曰ク卿ハ軍法ヲ知  
 ラサルカ苟モ命令ニ背キタルモノハ直ニ射殺セ  
 ラルト彼レ敢テ憶セス泰然トシテ答ヘテ曰ク  
 閣下ヨ閣下予ハ之レヲ知レリ然レトモ予ハ強テ  
 之ヲ爲セシノミ予ハ信ス苟モ軍人トシテ國家ノ

興廢ニ關スルアルヲ見敢テ一身ノ安穩ヲ計リテ  
 單ニ命令ヲ奉スル者ハ未タ國家ノ爲メニ身ヲ盡  
 シタルモノニアラスト凡軍人タルモノハ上長官  
 ノ命令ヲ遵奉セサル可ラス彼司令官ノ水師提  
 督ノ命令ニ背キシハ軍人トシテ難スヘキモノナ  
 ルモ而カモ其至誠國ニ盡スニ至テハ頗ル嘉スヘ  
 シ(泰西軍人龜鑑)  
 ○一言能ク愛國ノ至誠ヲ表ス  
 英國ノ氣水提督ボスカウエンハ忠君愛國ノ至  
 誠滿々タルノ士ナリ左レハ當時海軍部内ニ於テ  
 隱然成立セシ黨派(而カモ此黨派ハ職務ノ可否  
 若クハ其任免ニ就テ彼是云爲スル者)杯ニハ  
 少シモ關係セサリシ某時彼レハ遠洋航海ノ司令  
 長官トシテ數隻ノ軍艦ヲ率ヒ出發セシカ其ノ職  
 務ヲ完フシテ歸ルヤ彼ノ常職タル海軍理事官ノ

椅子ハ早クモ他人ノ占ムル所トナリ彼ノ位置ハ  
 其ノ空シキコトヲ發見セリ平常不和ナリシ儕輩  
 等ハ今ソ嘲弄ヲ肆ニスルノ時機ナリト半ハ親切  
 的半ハ愚弄的ニ彼レニ問フテ曰ク御身ハ依然海  
 軍理事官ノ職ヲ盡サントスルカ好シ御身ニシテ  
 之ヲ爲サンスルモ位置ナキヲ如何セン御身何ヲ  
 カ爲サントスル敢テ問フ御身ノ心算トボスカ  
 ウエン微笑シツ、答ヘテ曰ク予ハ別ニ心算ナシ  
 又アルヘキ筈ナシ抑モ國家ハ吾々ヲ任免黜陟ス  
 ル權アリ吾等ハ唯國家ノ命ニ從ヒテ其職務ヲ完  
 フスヘキノミ左レハ予ハ今ハ唯國家ノ命令ヲ待  
 ツノミト言ヒ畢テ威儀儼然タリ(泰西軍人龜鑑)

### 軍人ノ精神

上官ニ對スル服從

(一) 軍人上官ニ對シ如何ナル服從ヲ要スル  
 カ  
 陸海軍人カ其上官ニ對スル服從ハ迅速且敬虔  
 ナラサル可カラズ語ヲ易ヘテ言フトキハ即チ  
 一タヒ上官ノ發セラレタル命令ハ假令如何ナ  
 ル事情アルモ躊躇セス眞實ニ履行セサルヘカ  
 ラス  
 與ヘラレタル命令ヲ重ンスルハ軍紀ノ基礎ニ  
 シテ軍人ノ心裏ニ感染セシムヘキ緊要ナル感  
 覺ナリ故ニ上官タル者ハ常ニ己レカ與ヘタル  
 命令ノ實行ヲ監視シ必ス之ヲ中途ニ廢止セシ  
 ムル如キコトアル可ラス抑命令ナル者ハ誠意  
 以テ履行セサル可ラサル者ニシテ若シ時々其  
 ノ命令ノ履行ヲ促カサルヲ得サルカ如キハ  
 即チ下ハ軍紀ナク上ハ命令ノ効力ナキヲ證ス

(二) 勤務ノ實行

ル者ニシテ畢竟司令權ヲ汚辱スル者ト云フヘシ  
勤務ノ實行トハ指命ノ時期即チ必要ノ時ニ於テ己ノ爲スヘキ業務ヲ確實ニ施行スルヲ謂フナリ

兵卒ノ爲メ實行ナル者ハ服從ノ如ク必要ナル者ニシテ畢竟實行ハ服從ヨリ生スルモノニ外ナラサルナリ

(三) 命令官ノ階級ニ從ヒ服從ニ緩嚴アル可キヤ

階級ニ依テ緩嚴ノ區別ヲナス可カラス上官ニハ其階級ヲ論セス眞實ニ服從ヲ爲ス可シ

(四) 兵卒ハ受ケタル命令ノ趣旨ニ就キ尋問スルヲ得ヘキヤ

特別ノ場合ニ在テハ尋問スルヲ得ヘシ然レモ尋問ヲ爲スニハ毫モ抵抗ノ意ナク謹テ之ヲ爲スヘシ  
例ヘハ兵卒カ受ケタル命令ノ趣旨未ダ充分ニ了解スル能ハサルトキハ其ノ上官ニ就テ簡單ニ之レカ説明ヲ請フコトヲ得ヘシ  
若シ其ノ命令中實行スル能ハスト考フル事件アリテ上官之ヲ覺知セス己レ先ツ之ヲ知得シタル如キ場合ニ於テハ簡單ナル言語ヲ用井謹シテ之ヲ陳述シ以テ其ノ事情ヲ明白ナラシムルヲ得ヘシ然レトモ上官尙ホ之ヲ強ルトキハ又之ニ抵抗スルヲ得サルヘシ

(五) 命令ノ趣旨曾テ達セラレタル規則ニ矛盾シ或ハ其人ノ權外ニ渉ル者ト思考スルトキハ其上官ニ對シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得ルヤ

如此場合ニ於テ上官ニ對シ意見ヲ陳述スルハ軍紀ニ違背スルノ行爲トナルヘシ何トナレハ

軍事規則ニ於テ命令ノ可否ハ其ノ命令ヲ附與スル者ノ責任ニシテ其ノ命令ヲ受ケタル者ハ一旦服從セシ後ニアラサレハ意見ヲ陳述スルコトヲ許サレハナリ

(六) 兵卒タル者續テ反對シタル二個ノ命令ヲ受領シ全時ニ執行ハル能ハサルトキハ如何シテ可ナルカ

如此時ハ謹テ第二ノ命令ヲ與ヘタル上官ニ對シ簡單ナル言語ヲ用ヒ己ニ受領シ居ル所ノ第一ノ命令ヲ申告ス可シ若シ該上官必ス其命令ヲ施行スヘシト命スルトキハ直ニ之ヲ實行スヘシ此時ニ於テハ假令第二ノ命令者第一ノ命令者ヨリ下級ナルモ尙ホ第二ノ命令者ニ服從

セサル可カラス何トナレハ上官ノ面前ニ於テ其命令ヲ拒ムコト能ハサルハナリ

(七) 兵卒若シ反對シタル二個ノ命令ヲ受ケ第一ノ命令者其命令ヲ行フ可キヲ命スルトキハ第一ノ命令ヲ措テ第二ノ命令ヲ行フコトヲ法トス然ルトキハ第一ノ命令者己レカ命令ノ行ハレサルヲ以テ兵卒ニ其事由ヲ詰問スルヲ得ヘキヤ

簡單ニ其事由ヲ尋問スヘシ假令第一命令者第二命令者ノ爲メニ命令ノ施行ヲ阻碍セラレト雖モ他ノ命令者ニ對シテハ毫モ之ヲ譏傷スルノ言行ヲ爲スヘカラス若シ之ヲ憤マサルトキハ己レ自ラ譏傷ヲ招クニ至ル可キナリ

(八) 何故ニ命令ハ之ヲ評議スルコト能ハサルヤ

如此時ハ謹テ第二ノ命令ヲ與ヘタル上官ニ對シ簡單ナル言語ヲ用ヒ己ニ受領シ居ル所ノ第一ノ命令ヲ申告ス可シ若シ該上官必ス其命令ヲ施行スヘシト命スルトキハ直ニ之ヲ實行スヘシ此時ニ於テハ假令第二ノ命令者第一ノ命令者ヨリ下級ナルモ尙ホ第二ノ命令者ニ服從

命令ノ合規不合規或ハ適不適ヲ評議スルノ權利ヲ受命者ニ許ストキハ軍隊ノ秩序爲メニ紊亂シ一揆囂黨ト何ソ異ナラン抑軍隊ノ威力強盛ナル者ハ各人力ヲ合セ心ヲ全フシテ互ニ相團結シ緊要ノ時機ニ際シテ其心カチ全一ノ目的ニ湊合シ其ノ湊合力ヲ隊長ノ手裏ニ把握セシムルニアルヲ以テナリ

若シ命令ヲ横議セシメハ軍紀乃チ廢滅スヘシ夫レ軍紀廢スレハ軍ハ即チ烏合ノ兵ナリ烏合ノ兵ハ豈ニ能ク百練ノ精兵ニ當ル可ケンヤ

(九) 服從ノ中ニモ畏服スル者ト心服スル者トアルヘシ其差違如何

畏服トハ規則ノ範圍ニ拘束セラレ唯命之ニ從フ者ヲ謂フ

心服トハ中心悅テ毫モ依違スルコトナク百事

其上官ニ從フヲ云フ故ニ平常上官ノ命令ニ服從シ得ヘキ準備アル兵卒ニシテ罰ヲ恐レ或ハ賞ヲ得ントノ心ヨリ外其旨ニ從ヒ内實ニ満足セサル如キ皮想ノ服從ニアラサル者ヲ心服ノ兵卒トハ云フナリ

(一〇) 畏服ノ兵卒ト心服ノ兵卒ト何レヲ撰フ可キヤ

心服ノ兵卒ヲ撰フヘキナリ何トナレハ心服ノ兵卒ハ縱令瀕死ノ場合ニ臨ムト雖モ能ク其ノ命令ニ從フ可シ畏服ノ兵卒ハ然ラス唯懲戒ノ嚴ナルヲ恐レ其ノ命ニ從フ者ナレハ上ノ如キ危難ニ遭遇スルトキハ必ス軍紀ヲ紊リ服從ノ義務ヲ缺クニ至ルヘケレハナリ

(一一) 心服ノ兵卒ヲ養成スルノ法如何

兵卒ヲシテ其任務ヲ重シ隊長ニ對スル尊敬推

重信任及ヒ愛慕ノ念ヲ喚發セシムルニアリ

尊敬

(一) 兵卒ノ上官ヲ尊敬スルハ如何ナル場合ナルカ

兵卒タル者己レカ屬スル兵種及ヒ團隊校ノ如何ヲ問ハス凡テ上官ハ尊敬セサル可カラズ又己レ勤務外ニアルモ其ノ上官ノ目前ニアラサルモ決シテ尊敬チ欠ク可カラサル者ナリ

(二) 若シ上官任務ニ背キテ其ノ品行ハ端正ナラス其容儀ハ整肅ナラサル時ト雖モ兵卒ハ尙是ヲ尊敬セサル可カラサルカ

然リ尊敬セサルヘカラス何ントナレハ兵卒ノ心中縱令之ヲ尊敬スルヲ欲セサルモ軍事ノ任務ニ於テ其ノ長官タル者ノ有スル位階ニ對シ之ヲ尊敬スルコトヲ命シ敢テ違背スルヲ赦サ

レハナリ

(三) 兵卒上官ニ對シ尊敬ヲ表スルニハ如何ニシテ可ナルカ

兵卒上官ニ對シ尊敬ヲ表スルニハ左ノ三要領ニ從フ可シ

1. 陸海軍禮式ニ定メラレタル外形上ノ敬容ヲ表スルコト
2. 對話スルトキハ最鄭重ナル言語ヲ用井ヘキコト
3. 決シテ誹謗スルコトナク又之ニ涉ルトキハ意ヲ用ヒテ避クヘキコト

(四) 尊敬ハ服從ノ如ク階級ヲ論セス上官ニ對シテ一様ナル可キヤ

否服從ハ階級ヲ論セス一様ナレトモ尊敬ハ階級ヲ追フテ次第ニ勝肅ナラサル可カラズ故ニ



兵卒敬禮ヲ行フニモ將校ニ對スルト下士ニ對スルトノ間ニ於テ差アリトス然レトモ尊敬ハ階級ノ降ルニ從ヒ之ヲ行フモ行ハサルモ可ナリト云フニアラス故ニ兵卒若シ分隊長ニ對シテ尊敬ヲ失スルトキハ己レカ任務ニ欠ケル所アルヲ以テ忽チ處罰セラルヘシ

(五) 尊敬ヲ外表スルニハ如何ニシテ可ナルカ又何故ニ之ヲ要スルカ  
尊敬ヲ致ス所ノ外容ハ其ノ上官ニ對シ敬禮談話及ヒ舉動ヨリ自然ニ顯ハル所ノ者ナリ又兵卒ナシテ最嚴重ニ之ヲ履行セシムル所以ノ者ハ殊ニ服從ノ感覺ヲ生セシメンカ爲メナリ

(六) 敬禮ハ如何ナル方法ニヨリテ行フ可キヤ敬禮ハ陸海軍共各其禮式ニ由リ行フ者ニシテ

急遽ニ過キス緩慢ニ失セス能ク節度ニ適合スルヲ要ス

敬禮ヲ行フニハ明白ニ被禮者ニ注目シ決シテ其身體ヲ俯仰セシムルコトナク軍人ノ姿勢ヲ正フスヘシ若シ禮節當テ得サルカ如キコトアヲハ是其ノ人ヲ侮辱スルノ嫌ナキ能ハス

(七) 上官若シ答禮セサルトキハ如何ス可キヤ將々如何ニ思考シテ可ナルカ  
兵卒ハ規則ニ依據シ敬禮ヲ完了ス可シ假令上官ノ答禮ナキモ毫モ不滿ノ色ヲ顯ハス可ラス上官ハ多數ノ敬禮ヲ受ケルカ爲メニ時トシテ答禮ヲ欠クノ場合ナキニアラス然レトモ上官ハ決シテ兵卒ヲ蔑如スルノ精神ニアラサルナリ

兵卒若シ此レヲ察セス上官ノ失誤ヲ憤ル者ア

ラハ其ノ精神ノ善良ナラサルヲ證スルニ足ル可キ者ナリ

(八) 軍隊ニ在ツテ上官ニ對スル尊敬ヲ教育スルノ方法如何  
之レヲ教育スルノ最良法ハ模範ヲ示シ先例ヲ與フルニアリ而シテ其ノ模範ヲ示シ先例ヲ與フルハ獨リ有階者ノ責任ノミナラス新兵ノ爲メニハ故參兵卒モ亦其責任ヲ負フ者トス

謙讓

(一) 兵卒ノ上官ニ對スルハ唯尊敬ノ一事ヲ以テ足レリトスルカ  
否獨リ尊敬ノミヲ以テ足レリトセス更ニ一ノ要訣アリ何ソヤ即謙讓是レナリ抑謙讓ナル者ハ其人及ヒ其ノ位階ニ對スル尊敬ノ中ニ自ラ和氣ノ藹然タルヲ表スル者ナリ

上官ニ對スル謙讓ナル者ハ留意シテ其上官ヲ優待シ恭敬スルヨリ生スル者ニシテ元來軍事ノ規則ヲ以テ預メ示ス能ハスト雖モ兵卒ノ任務ヲ完フル爲メニハ其必要的ノ者ナリ是等ハ普通教育或ハ軍事ノ教育ヲ受ケ如何ニシテ之レヲ行フベキヤヲ知ル所ノ兵卒ニ在テハ即其ノ任務タルニ外ナラサルナリ

(二) 凡テ兵卒ノ上官ニ對スル謙讓ハ皆一樣ナルヲ得ベキカ  
規則ニ依リ制定セラレタル外形禮式ノ如キハ兵卒タル者皆之ヲ能スト雖モ所謂謙讓ニ至テハ否ス僅ニ禮節ヲ了解シタル兵卒ヨリモ善良ナル教育ヲ受ケタル兵卒ニ向テ多ク之ヲ請求スルヲ得ヘシ

(三) 兵卒ハ如何シテ上官ニ對スル謙讓ノ要領

ヲ學フベキヤ

兵卒ハ我カ良心ノ勸告ハ特ニ有階者及ヒ兵卒ノ行狀トニヨリ得タル處ノ例ニ照シ自ラ之ヲ學フヘシ

(四) 兵卒上官ニ對スル謙讓ニハ卑屈ノ性質ヲ有セサルカ

否上官ニ對スル眞ノ謙讓ハ善良ナル教育ノ反射ナリ故ニ謙讓ナル者ハ己ノ朋友ニ對シ己ノ隊長ニ對シ及ヒ己レノ良心ニ對シテ却テ己チ高尚ナラシム者ナリ

然レトモ其ノ謙讓ハ實ニ上官ヲ尊敬スルノ衷情ニ出テス徒ニ上官ノ愛顧ヲ買ハシカ爲メ其ノ謙讓ヲ假粧スルトキハ是レ謙讓ノ範圍ヲ脱シテ己ニ卑屈ニ陥ル者ナリ  
兵卒タル者深ク茲ニ注意セサル可ラス

(五) 謙讓ト卑屈ト異ナル處如何請フ二三ノ例

ヲ舉ケテ其詳ヲ聞カン

第一例 將校アリ演習場ニ於テ休憩時間下馬セシトキ會マ馬丁ノアラサルヲ以テ手ツカラ其轡ヲ取レリ軍曹アリ之ヲ傍觀シ直ニ伶俐ナル兵卒一名ヲ遣リテ其馬ヲ看視セシメタリ如此ハ軍曹及ヒ兵卒共ニ其ノ上官ニ對シ謙讓ノ意ヲ表セリト謂フヘシ若シ此場合ニ際シ傍ニ兵卒アルモ軍曹之ヲ措キ己レ親ラ其轡ヲ取テ看視スルカ如キコトアレハ是レ乃チ卑屈ノ行爲ト稱シテ可ナリ

第二例 兵曹ト兵卒トノ間ニ於テ某事物ニ就キ一ノ疑問ヲ生シ互ニ其說ヲ異ニシテ談論セリ此時ニ當リ兵卒姿勢ヲ正シ極メテ鄭重ナル言語ヲ用ヒ敢テ自說ニ拘執セス又敢テ抵抗

シテ下士其人ノ威權ヲ損スルコトナキトキハ即チ上官ニ對スル謙讓ニ於テ欠クル處ナシ之ニ反シテ兵卒若シ己レノ所說道理ニ合スルアルモ殊更ニ其ノ論者ニ曲從シ却テ諛言ヲ呈スルカ如キハ是レ謙讓ニアラスシテ卑屈ノ行爲ト謂フヘキナリ

第三例 兵卒狹路隘巷ノ如キ或ハ停車場ノ小窓ヨリ切符ヲ購買スル時ノ如キ最モ混雜ノ場所ニ於テ上官直ニ己レカ後方ニアラハ之レニ地歩ヲ讓リ其場所ヲ與フル如キハ是レ即チ謙讓ナリ

第四例 數多ノ兵卒相合シテ或ハ笑ヒ或ハ戯レテ公園内ヲ逍遙スルコトアラシ此時一將校アリテ其近傍ヲ過クルコトアラハ兵卒即チ直立シテ姿勢ヲ正シ其敬禮ヲ表スルナルヘシ而

シテ將校尙未タ其目前チ去ラサル間ハ兵卒肅然トシテ歩行スヘシ此ノ如キ行爲ハ軍人外ノ者ヨリ見ルトキハ或ハ卑屈ニ類スルカ如シト雖モ軍人ニ在テハ決シテ然ラス之レ謙讓ノ美德ニシテ禮法ニ於テ應ニ然スヘキ任務ナリトス

(六) 兵卒上官ニ對スルトキハ其階級ヲ論セス全一ノ謙讓ヲ要ス可キヤ

兵卒上官ニ對スル謙讓ハ必要ナレトモ尊敬ニ於ケル如ク其階級ニ應シテ以テ緩嚴ノ差別ナル可ラス故ニ兵卒ノ分隊長ニ對スル謙讓ハ中隊長ニ對スル謙讓ト同一ナル者ニアラス若シ其差別ナクシテ上一様ナルトキハ却テ卑屈或ハ嘲弄ニ類スルコトアル者ナリ今左ニ一例ヲ舉ケンニ將校アリ將ニ兵舎内ニ入ラント

スルニ當リ其ノ服裝ニ塵土汚着セシカ爲メ兵卒ニ命シテ羅紗刷毛ヲ持チ來ラシム兵卒即チ刷毛ヲ持チ來リ親ラ上官ノ服ヲ拭ヒ其塵土ヲ除去セリ此ノ如キハ謙讓ノ意ヲ表スル者ナシトモ此ト全一ノ事ヲ以テ分隊長ニ對スルトキハ已ニ謙讓ノ制限ヲ超ヘタル者ナリ又兵卒任務ヲ命セラレ之ヲ復命スルニ當リ「乍恐報告仕候」ト云フカ如キ中隊長ニ對シテ言フトキハ謙讓ト云フヘキモ分隊長ニ對シテ用フルトキハ却テ失笑スヘキコトニシテ寧ロ嘲弄ノ行爲ニ當ルナリ

隊長ニ對スル推重信任愛慕

推重

(一) 隊長ヲ推重ストハ何ゾヤ  
隊長ヲ推重ストハ其ノ隊長ノ失行ヲ無視シテ

其體力智力徳力ノ性能ノミヲ信認スルコトヲ謂フ

信任

(二) 兵卒タル者其隊長ヲ信任スルヲ必要トスルカ  
兵卒ノ其ノ隊長ヲ信任スルハ其必要ナル者ニシテ戰場ニ於テハ殊ニ然リトス若シ隊長ノ信任缺乏スルトキハ其ノ隊ノ人員ハ夥多ナルモ其ノ兵卒ハ精強ナルモ遂ニ敗亡ヲ免レサル可シ何トナレハ其成功ヲ疑ヒ乘ス可キノ好機會ニ際スルモ躊躇シテ其命ニ從ハサルニ至レハナリ夫レ此ノ如クシテ戰場ニ勝チ制スル者未ダ曾テ有ラサルナリ  
故ニ隊長ノ人物如何ヲ問ハス兵卒タル者は是レニ對シテ無限ノ信任ヲ致スヲ要ス即チ己レカ

直隸スル隊長ニ對シテハ其勇敢ニ於テモ信任シ其經驗ニ於テモ信任シ其教示ニ於テモ信任スヘシ又其作戰ヲ計畫スル將官ニ對シテハ其學識ニ於テモ信任シ其才幹ニ於テモ信任セサル可ラス

從來ノ經驗ニ徴スルニ隊長ノ計畫シタル事物及ヒ處置セシ事跡未タ必スシモ皆完全ナル者ニ非ラズ然レトモ兵卒ノ熱心ト協力トヲ以テ之レヲ實行スルトキハ成功ノ機會ヲ得ルコト亦尠トセス而シテ此理ヲ證明スル敢テ難キニアラス觀ヨ隊長ヲ信任スル軍隊ト信任セサル軍隊トヲ比較シテ之ヲ觀ルヘシ然ルトキハ忽チ其利害得失ヲ判斷スルコトヲ得ン

(三) 隊長ヲ信任スル兵卒トハ如何ナル者ヲ云フヤ

(四) 隊長ヲ信任セサル兵卒トハ如何ナル者ノ

紀律ナキ勇氣ナキ兵卒即是ナリ  
例之ハ命令ヲ受ケテ之ヲ實施スルチカメス却テ之ヲ討議シ之レヲ誹謗スルカ如キ僻習アル者之ヲ隊長ヲ信任セサルノ兵卒ト謂フ夫レ隊長ヲ信セサル兵卒ハ自身ノ本分ヲ忘レ傷フ者ナルノミナラス延テ其朋友ヲモ賊フ者ナリ此ノ如キ兵卒ハ常ニ軍事上ニ於テ應ニ遭遇スヘキ困難ト欠乏トニ堪ユルコト能ハスシテ徒ニ其隊長ノ欠失ノミヲ非難シ蔑シト叛逆ト全一ナル性質ヲ有スル者ナリ此ノ如キ兵卒ノ軍隊

是レ己レカ隊長ヲ推量スルノ兵卒ナリ如此兵卒ハ能ク軍規ヲ奉スル殿ニシテ亦能ク己レカ朋友ノ信任ヲ得己レモ亦自ラ信スル所ノ者ナリ

ニ在ルハ乃チ其ノ軍隊ノ耻辱ナリ又國家ノ破  
壞者ナリ

(五) 兵卒ヲシテ隊長ヲ信任セシムルノ方法如  
何シテ可ナルカ

此目的ヲ達スルニハ已ニ陳述セシ如ク兵卒ノ  
胸裡ニ上官ニ對スル尊敬推重ノ感覺ヲ發達セ  
シムルニアリ

隊長タル者躬親ヲ其操縦ヲ示シ且レカ責任  
ニ對シテ貢フ所ノ義務ヲ完フスルトキハ部下  
ノ信任ヲ得ルコト蓋シ其容易ナラン

愛慕

(六) 毫モ缺乏ナキ軍紀ノ兵卒トナランニハ其  
隊長ニ服從シ且之ヲ尊敬シ信任スルノミヲ以  
テ足レリトスルカ

兵卒已ニ服從尊敬信任ノ三徳ヲ具ヘテ以テ之

ヲ躬行スルトキハ堅牢犯ス可ラサル者アリ然  
レトモ尙是レニ加フルニ兵卒ノ胸懷ヲ纏綿ス  
ル處ノ愛慕ノ情ヲ以テスルトキハ更ニ一層堅  
牢ナルヲ得ヘキナリ兵卒規則ニ基キ能ク其任  
務ヲ盡ストキハ兵卒ノ本分ニ於テ已ニ充全ナ  
リ然ルニ尙愛國ノ衷情ヨリ其隊長ヲ愛慕スル  
ハ必ス精練至強ノ名聲ヲ博スヘシ

奈破翁第一世カ毎戰勝ヲ奏シ數回ノ功利ヲ收  
ムル者固ヨリ其才幹ノ卓越ナルニ因ルト雖モ  
抑亦其部下軍隊ノ信任ト愛慕トニヨルニ非ラ  
スハ安クソ能ク斯ノ如クナルヲ得ンヤ

(七) 兵卒ノ隊長ニ對シテ愛慕ノ情ヲ表スルハ  
如何シテ可ナルカ

隊長ニ對シテ愛慕ノ情ヲ表スルハ唯熱心ニ軍

事ノ任務ヲ盡スニアリ然レトモ中心實ニ其ノ  
隊長ヲ愛慕スル者ハ未タ是レヲ以テ足レリト  
セス尙其危險ニ際シテハ隊長ノ爲メ己レカ生  
命ヲ捨ルニ躊躇スルコト無カル可シ古今各國  
ノ歷史上ニ此慕スヘキ事跡ハ屢見ル所ナリ如  
斯ハ其愛慕ノ感情ヲ生セシメタル者此愛慕ニ  
ヨリテ殉難致死セシ者共ニ其名譽ヲ同フスヘ  
キナリ

兵卒自己ニ對スル任務

(一) 軍紀兵卒ニ貢ハシムルニ自己ニ對スル任  
務ヲ以テス其任務トハ何ソ

凡ソ人類ハ自ラ其身ヲ尊重シ且保護スルヲ自  
然ノ原則トス軍紀ハ即チ此原則ヲ遵守セシム  
ルコト一層嚴密ナリ若此原則ニ違背スルトキ  
ハ忽チ之ヲ譴責ス故ニ兵卒ハ此原則ニ基キタ

ル軍紀ニ遵ヒ自己ニ對スル任務ヲ貢フコト左  
ノ如シ順序容儀、清潔、品行、節度抑情、及  
健康、勉勵自殺ノ禁止是ナリ

順序容儀清潔

(二) 順序トハ何ソ

夫レ事ニ輕重前後アリ時機ニ緩急アリ其輕重  
前後緩急ヲ審ニシ以テ進退ノ宜キヲ得ル是此  
ヲ順序アリト謂フナリ

(三) 此ノ如キ性質ハ兵卒ノ爲メ必要ナル者ナ  
ルカ

順序ナル者ハ平時戰時ニ論ナク兵卒ニ於テ最  
必要ナル者ナリ

佛將馬耳門曰ク順序ヲ養美スルハ軍隊ヲ成立  
セシムルニ必要ナル一基礎ナリ若シ此順序ナ  
ケレハ即チ軍隊ノ結合鞏固ナラスシテ其企圖

ヲ遂クル能ハス其業務ヲ飽カシムル能ハス  
 平素内務ノ瑣事ニ於ケルカ如ク戰時紛擾ノ場  
 合ニ際スルモ均シク軍紀ニ適從スルハ是レ順  
 序アルノ兵卒ナリ即順序ヲ重ニスルノ兵卒ハ  
 其容儀ヲ整正シ身體ヲ清潔ニシ勤務ヲ實行シ  
 品行ヲ高尚ナラシム可シ蓋シ順序アル兵卒ト  
 ハ兵卒ノ爲メニ最モ之ヲ頌讚シタルノ謂ヒナ  
 リ

(四) 兵卒ニ順序ノ精神ヲ發育セシムルノ方法  
 如何

總テ規則ニ關スル者ハ瑣細ノ件ト雖トモ精密  
 ニ之ヲ解得シ嚴正ニ之ヲ實行シ又命令及號令  
 チ奉シテ自ラ活動スルコトヲ習ハシメ然ル後  
 軍隊ノ業ニアルモ戰闘間ニアルモ常ニ注意シ  
 テ隊長ノ一舉手一號音ニ應シ自在ニ進退シ且

ツ集散スルヲ得セシムルニアリ  
 右ノ如ク習練シタル兵卒ヲ以テ組成スル軍隊  
 ハ戰場ニ於ケルモ順序整然犯ス可ラサル者ア  
 ル可シ此習慣アリ乃チ軍事ノ成功ヲ期ス可キ  
 ナリ

(五) 兵卒ハ如何ナル方法ニ依リテ順序アル精  
 神ヲ外形ニ顯ハスコトヲ得ルヤ

多クハ容儀ノ端正ナルト身體及ヒ物品ノ掃拭  
 清潔ナルトニ依リテ顯ル是レ兵卒タル者ノ  
 常ニ保ツ所ノ習慣ナリ抑順序アルノ兵卒ハ毫  
 モ犯ス可カラサルノ容儀ヲ保ツ更ニ之ヲ一言  
 スレハ風采着裝美ナルヘシ進退動作高尚ナル  
 可シ即チ自己ノ威嚴ヲ損シ他人ノ忌厭ヲ生ス  
 ル如キ賤言ヲ吐キ歌曲ヲ唱フコトナキヲ要ス  
 ルナリ

(六) 兵卒タル者其容儀ニ注意スルハ唯順序  
 ノ精神アルニヨリノミ然ルヤ

兵卒其容儀ニ注意スルハ唯順序ノ精神アル  
 爲メニ然ルノミナラス蓋シ己レノ軍人タルチ  
 願ミ其軍服ニ對シ自ラ敬愛シ又他人ニ敬愛セ  
 ラレシコトヲ欲スレハナリ故ニ兵卒若シ己レ  
 ト同一ノ軍服ヲ着用セシ他ノ軍人ノ毫モ其ノ  
 軍服ノ愛敬スヘキヲ知ラス着裝其法ニ適セサ  
 ル者ヲ見以テ反省スルトキハ即自ラ悟ル所ア  
 ル可シ

(七) 兵卒外形ノ容儀ニ注意スルトキハ其任務  
 充分ナリト謂フテ可ナルヤ

設令服裝適ニ適ヒ室内ノ裝置整フト雖モ是レ  
 僅カニ其外觀ニ留マリ實ハ序次錯雜シ且ツ身  
 體不潔ニシテ汚穢ナル襦袴ヲ着シ或ハ其汚穢

ナル襦袴靴足袋ノ類ヲ敷布ノ間ニ挟ミ長靴ノ  
 中ニ入レ或ハ泥靴ヲ其儘寢臺ノ下ニ匿スカ如  
 キアラハ即チ畜々容儀ノ正シカラサルノミナ  
 ラス心術モ亦狡猾怠惰ニシテ一時隊長ヲ瞞着  
 セントスル者ナリ如此兵卒ハ一旦非常ノ時機  
 ニ際スルトキハ更ニ其用ニ堪ヘサル者ナリ

(八) 清潔ハ唯容儀ノ端正ヨリ之ヲ必要トナス  
 ヤ

清潔ハ自己ノ容儀ニ整フニ必要ナルノミナラ  
 ス尙又身體ヲ貴重シ健康ヲ保持スル爲メノ最  
 良方法ナルチ以テ軍隊ニ在テハ殊ニ缺ク可カ  
 ラサル者トス何ントナレハ軍隊ハ多人數集合  
 スル故ニ不潔ハ病毒ヲ傳染スルコト甚々容易  
 ナレハナリ  
 佛將馬耳門曰ク兵卒ニシテ其衣服ノ汚穢ナル

者モ其容儀端正ナルモノモ共ニ是レ戰闘スル  
 ナ得ルハ固ヨリ疑ノ容レサル所ナリ然レトモ  
 日常ノ任務ヲ盡スニ專ナラサル者ハ隊長ノ號  
 令ニ服從スルモ亦隨テ至ラサル所アルヘシト  
 品行節度抑制

(九) 兵卒軍旗ノ下ニ起臥スル時ニ於テ如何ナ  
 ル品行ヲ要スルヤ  
 兵卒ハ一身ニ關スル細瑣ノ行為ト雖モ尙軍  
 事行為ノ加ク他人ノ模範トナルヘキコトヲ要  
 ス  
 夫レ兵卒タル者一日軍隊ニ入ルノ後ハ熱心軍  
 事ノ義務ヲ盡シ能ク困苦ニ堪ヘ欠點ヲ忍ヒ危  
 難ヲ避ケサルヘシ然レトモ是軍人ノ常事未タ  
 之ヲ以テ足レリトセサルナリ平日勤務ノ余暇  
 ト雖モ品行方正ナルヲ要ス即チ善ニ與シ惡ヲ

避ケ高尚ナル歡樂ヲ嘉ミシ猥褻ナル言行ヲ慎  
 シム可シ要スルニ體力ヲ損シ德義ヲ毀ル所ノ  
 者ハ一切之ヲ排斥スルニアリ故ニ品行方正ナ  
 ル兵卒タラン者ハ尙節度抑制ノ二要則チ守  
 ラサル可ラス

(一〇) 節度トハ何ソ  
 節度トハ重ニ飲食物ニ就テ奢侈ナラサル至當  
 ノ習慣ヲ謂フ

(一一) 此習慣ハ兵卒ノ爲メ必要ナルカ  
 軍職ニ在ル者平日此習慣ヲ養成スルハ最モ緊  
 要ノ務ニ屬ス否ラサレハ戰時實際會スル處ノ  
 困苦欠乏ニ堪ヘサラントス又之ヲ以テ務トス  
 ルトキハ官ヨリ受クル處ノ者モ之ヲ節度シ以  
 テ能ク國家ノ資源ヲ枯衰セシメサルヘシ兵卒  
 己レノ日給ノ外金圓ヲ所持セサルトキハ自ラ

質素ノ風ヲ裝フ者ナレハ之ニ向テ節度ノ要ヲ  
 解クハ無益ナルカ如シト雖モ若シ餘分ノ金錢  
 ナ所有シ之レヲ以テ一身ノ快樂ヲ買フカ如キ  
 者アル乎然ルトキハ獨リ自己ノ利益ナラサル  
 ノミナラス終始苦樂ヲ共ニスヘキ處ノ兵卒ニ  
 對シ情儀ニ背クモノアリ故ニ苟クモ軍隊ニ在  
 ル者ハ其飯盆ヲ以テ満足ス可キコトヲ了解ス  
 可シ若シ否ラズシテ平素屯營ニ在テ美味美食  
 ニ飽クトキハ戰闘中應ニ遭遇ス可キ飢渴ト困  
 苦トチ甘受スルコト能ハサルヘシ

(一二) 抑情トハ如何ナル者ソ又軍隊ニ抑情ノ  
 必要ナルハ何故ナルカ  
 抑情トハ人各自然ノ分限ヲ超過セサルノ謂ニ  
 シテ殊ニ飲食遊戲娛樂ノ事ニ於テ適當ノ制限  
 チ立テ其分限ヲ愼ムチ云フ蓋シ簡單ナル定義

ニヨルモ抑情ノ必要ヲ了解スルニ充分ナルハ  
 シ  
 兵卒果シテ節度ノ緊要ヲ覺ルカ同時ニ放欲暴  
 食ノ害毒ヲ感ス可シ抑放欲暴食ハ其體軀ノ衰  
 弱ヲ來タシ其德義ヲ損傷シ竟ニ兵卒ノ任務ヲ  
 忘却シ或ハ其任務ヲ取ル能ハサルニ至ラシム  
 可キナリ

逸樂ニ耽ルノ兵卒ハ優柔不斷無用ノ人トナリ  
 國家ノ任務ニ適セサルニ至ル可シ  
 逸樂亦德義ヲ傷リ品行ヲ紊ル事アリトスルト  
 キハ徒ニ一時ノ快樂ヲ貪リ百年ノ幸福ヲ捨ツ  
 即チ健康ヲ害シ病毒ヲ醸シ終ニ生涯不具ノ身  
 トナリ婦ヲ娶リ子ヲ育シ以テ一家團樂ノ快樂  
 チ享受スルコト能ハサルニ至ル可シ然ラハ則  
 兵卒タル者深ク抑情ニ注意シ飲食ヲ制限シ賭

博ヲ禁シ逸樂ヲ戒メサル可ラス是レ兵卒一身ノ得失ニ就テノミ論フルニ非ラス軍人ニ在テハ當然ノ任務ニ非スヤ

健康勉勵自殺ノ禁止

(一三) 兵卒ハ己レノ健康ヲ保持スルヲ以テ其義務トナス可キヤ

人間誰レカ健康ノ保持ニ注意セスシテ可ナラシヤ而シテ兵卒ニ在テハ殊ニ然リトス是兵卒ノ健康ハ即只其一身ノ爲メニ必要ナルノミナラス國家事アルノ日ニ當ツテハ幾多ノ困難ニ堪ヘ一身ヲ擧テ犧牲ニ供ス可キ重大ナル任務アレハナリ

兵卒自ラ其身體ヲ毀傷シ以テ軍事ノ勤務ヲ免カレ兵役ヲ避ケンコトヲ企ツルカ如キ者ハ固ヨリ國家ノ罪人タリ重ク罰セサル可カラス又

之レト同一ノ目的ヲ以テ自ラ健康ヲ害シ或ハ自ラ衛生ヲ怠ルカ如キモ亦同一ノ罪人ト謂フヘシ

前ニ掲ケシ如ク節度及ヒ抑情ハ健康ヲ保全スルニ於テ最必要ノ者ナレハ宜シク之ニ注意セサル可カラス

(一四) 兵卒既ニ戰場ニ於テハ國家ノ爲メ其生命ヲ捨ツルノ任務アリ然ラハ則チ其生存ヲ屑シトセサル場合ニ於テハ自ラ死生ヲ決スルノ權利アリト云フテ可ナルヤ

兵卒其健康ニ注意シ身體ノ強壯ナラシムコトヲ企圖スル者は國家ノ爲メ其任務ヲ盡スニ適當ナラシコトヲ欲スルノ意ニ出ツ故ニ自ラ其生命ヲ害スルノ權利ヲ有セス是其死所ヲ撰フノ權ハ己レニ屬セスシテ國家ニ屬スレハナリ

他ノ軍人及ヒ人民ニ對スル兵卒ノ任務

(一) 他ノ軍人ニ對スル兵卒ノ任務トハ何ソ  
兵卒タル者他ノ軍人ニ對シ軍人相互ノ親愛及ヒ友愛ノ情ヲ盡ス可キヲ云フ

(二) 軍人相互ノ親愛及ヒ友愛トハ何ソヤ  
親愛トハ昆弟ノ愛ヲ云フ友愛トハ朋友ノ愛ヲ云フ

抑親愛トハ相依リ相扶ケ以テ事ニ從フ所ノ軍人ヲシテ昆弟ノ道義ヲ抱持シ送ニ相親和セシムル所ノ緊繩ナリ軍隊ニ在テハ殊ニ此緊繩ヲシテ強固ナラシムル者ナリ何ントナレハ元此緊繩ナル者ハ風俗習慣ヲ同フシ困苦欠乏ヲ共ニシ及ヒ其名譽耻辱ヲ分擔スル者ニ在テ益々濃厚ナル者ナレハナリ  
是ニ由テ之ヲ觀レハ親愛ナル者ハ兵種ノ異同

ヲ問ハス階級ノ高下ヲ論セス其間ニ生ス可シ致テ一伍一什ノ間ノ制限セラル可キ者ニアラサルナリ即チ戰時ニ在テハ各兵相合シ上下力ヲ共ニシテ相急難スルノ必要アレハナリ  
友愛ナル者ハ殊ニ同階級タル軍人ノ間ニ生スル所ノ交情ヲ云フナリ親愛及ヒ友愛ナル者ハ其區域ノ狹小ナルニ隨テ交情益濃密ナル者ナリ例ヘハ歩兵ノ砲兵ニ於ケル中隊ノ聯隊ニ於ケルカ如シ兵科同シキ者兵數少ナル者ハ其異ナル者多キ者ニ比シテ更ニ一層親愛ナル可キナリ

(三) 兵卒ハ如何シテ軍人相互ノ親愛及ヒ友愛ヲ能クシ得ヘキヤ

兵卒タル者ハ同聯隊ノ人ヲ認メテ昆弟ノ義アリトセハ送ニ相愛シ相敬シ相扶ケ相信シ以テ

死生存亡ヲ與ニセシル可カラズ  
抑モ同兵種タル者及ヒ其僚友ナル者ニ對シテ  
生スル所ノ愛情ナル者ハ即チ勞苦ヲ共ニシ危  
難ヲ同フスル所ノ感情ナリ  
兵種ノ異同ヲ問ハス階級ノ如何ヲ論セス迭ニ  
相扶援シ以テ共ニ與ニ勤勞スル所ノ義務ハ人  
間自然ノ法則ノ然ラシムル所ナリ蓋シ軍隊ノ  
威力強勢ナル者衆心一致相信賴スルノ鞏固ナ  
ルニ由ルナリ  
故ニ上官ノ下士兵卒ニ於ケル下士兵卒ノ新兵  
ニ於ケルモ亦各其任務ヲ盡サンカ爲メ或ハ先  
例故實ヲ示シ或ハ注意勸告シ以テ懇切ニ其至  
ラサル者ヲ補助ス可キナリ然レトモ權謀術數  
ヲ以テ一時是レヲ籠絡スルカ如キハ宜シク避  
ク可キナリ是軍人相互ノ友愛ヲ妨害スルコト

大ナレハナリ我國軍隊ニ在テハ此方法ヲ用井  
ルチ聞カサルハ幸ト云フ可シ故ニ士卒モ亦常  
ニ其上官ヲ補助シ熱心ト服從トヲ以テ其命令  
ヲ實行ス可シ  
凡テ軍人タル者階級ノ如何ヲ問ハス兵種團隊  
校ノ異同ヲ論セス迭ニ犧牲トナルノ覺悟ナカ  
ル可カラズ此感情アリ然ル後始メテ眞ノ親愛  
及ヒ友愛ヲ完フスルヲ得ヘシ軍事家族ノ緊繩  
即チ軍籍ニアル者ヲ結束スル所ノ此緊繩ヲシ  
テ益鞏固ナラシムルトキハ自然相互ノ信任ヲ  
厚カラシム可シ蓋シ信任ナル者ハ軍隊ノ戰捷  
ヲ得ル處ノ一ツノ原素ニシテ此ノ原素ヨリシ  
テ亦相互ニ尊敬ヲ生スヘシ蓋シ尊敬ナキトキ  
ハ眞ノ結合ヲ成立スルヲ得サルナリ  
軍人友愛ノ交情ヲ保持センニハ純眞ナル遊技

娛樂ヲ爲スハ妨ケナシト雖モ野鄙陋劣ナル戲  
謔ヲナス勿レ是等ハ往々粗忽暴慢ノ性ヲ馴致  
シ動モスレハ爭鬪ノ門ヲ開ク者ナレハナリ  
故ニ兵卒ハ相尊敬スヘシ假令習慣ヲ異ニセル  
者ト雖モ之ヲ嘲弄シ若クハ譏笑スルコト勿レ  
(四) 軍人相互ノ親愛及ヒ友愛ナル者ハ如何ナ  
ル人ニ對スルモ恰モ親友ニ對スルカ如ク親疎  
ノ別ナキヤ  
軍人ヲ結束スル絆索即チ軍人相互ノ親愛ナル  
者ハ其年齡及ヒ階級ノ等差ニヨリ自ラ厚薄ノ  
別アル者ナリ故ニ其ノ親睦モ亦全一ナルヲ得  
サルナリ  
軍人相互ノ友愛ニ於テモ亦然リ何ントナレハ  
信愛ナル者ハ先親近ニ始マリ遠疎ニ普及スル  
者ナルカ故ニ未タ其人ノ德義性能ヲ詳悉スル

コト能ハサレハ自ラ親睦ノ厚キヲ得サルナリ  
然ラハ則チ兵卒タル者ハ先ツ其僚友ニ對シテ  
ハ一般ニ友愛ヲ盡ス可キモ尙其親睦ニ切ナ  
ル者ハ眞ノ懇親ナル僚友ニ友ス可キナリ  
(五) 兵卒ハ如何ナル者ヲ撰ンテ己レノ親友ト  
ナスヘキヤ兵卒ノ益友トシテ撰擇スヘキ者ハ  
天性質直品行方正ニシテ能ク其ノ任務ヲ盡シ  
軍紀ヲ奉スルノ人タル可シ  
若シ從順ナラサル兵卒ト交際スルトキハ己レ  
モ亦之ニ倣フテ剛愎ノ人トナラン若シ遊治放  
蕩ノ兵卒ト交際スルトキハ己レモ亦任務ヲ怠  
リ常ニ責罰ヲ受クルノ身トナラン兵卒智識才  
藝アルモ勤勉耐久力行止マサルニ非スンハ軍  
隊ニ益ナシ友ヲ擇フ夫レ慎マサルヘケンヤ  
(六) 眞兵卒タル者軍紀ニ乖キ品行正シカラサ



ル者ト交際スルヲ要セハトセハ軍人相互ノ友  
愛ノ關係モ全ク之レト絶ツヘキカ  
否軍人相互ノ信愛ノ情ハ軍人一般ニ普及セシ  
メサル可ラス即チ若シ不良ノ兵卒アルモ須ラ  
ク其兵卒タル者ヲシテ自ラ其操模ヲ示シ善ヲ  
責メ過ヲ嘆メ良心ニ復セシムルコトヲ要スル  
者ナレハナリ

(七) 人民ニ對スル兵卒ノ任務トハ何ソ  
兵卒人民ニ對シテハ謹慎且持重ヲ要ス即チ共  
ニ政談ヲ爲ス勿レ武威ヲ濫用スルコト勿レ兵  
器ヲ弄スル勿レ是兵卒ハ正當防禦ニ出ツルカ  
或ハ之レヲ使用スヘキ公權ヲ有スル者ノ命令  
アルニ非ラサレハ決シテ使用ス可キ者ニアラ  
サレハナリ而シテ兵卒ハ又何人ニ限ラス丁寧  
ニ待遇シ老人婦女及ト官吏ニ對シテハ殊ニ注

意セサル可カラス其他兵卒ハ人民ノ危難ヲ見  
テハ之ヲ救ヒ之ヲ援ケ時機ニヨリテ己ンカ生  
命ヲ犠牲ニ供シテ願ミサルコトアル可シ  
(八) 人民ニ對シ軍事上慎重ヲ保ツトハ如何ナ  
ル事ソ

慎重トハ凡ソ軍人タル者ノ屯所若クハ衛兵隊  
及ヒ演習等ニ於テ生スル細大ノ事件ハ濫リニ  
之ヲ外人ニ流傳セサルコト至難ノ任務ヲ帶フ  
ト雖モ人民ニ向テ其不平ヲ洩サ、ルコト我カ  
聯隊ノ名譽ヲ瀆シ及ヒ威嚴ヲ存スルコトニ涉  
ルコトハ慎重テ口外セサルコト是ナリ若シ之ニ  
背ク者ハ即軍隊ノ罪人ナリ

(一) 名譽トハ何ソ  
軍事名譽

名譽トハ我良心ヲ満足セシメ尙他人ノ推重ヲ  
得ントスル所ノ感覺ナリ  
佛將伯論堙兒曰ク名譽ナル者ハ偉業ヲ爲スノ  
機軸トナリ軍人生活ノ精神トナリ及ヒ我カ聲  
價ヲ揚ケントスルノ熱心トナリ人ヲシテ恐怖  
ナク怨嗟ナク虚飾ヲ避ケ卑劣ヲ惡ミ以テ己レ  
カ任務ヲ盡サントスルノ念慮ヲ生セシムル者  
ナリ  
(二) 軍事名譽ナル者ハ特ニ何ニ因テ生スルヤ  
要スルニ己レカ任務ヲ盡スノミナラス尙更ニ  
屢勉止マサルニ依リテ生スル者ナリ即チ勉勵  
廉潔誠實忠厚勇敢寬仁ノ六事ヲ體シ尙國ヲ愛  
シ軍旗ヲ護リ萬般ノ規律ヲ遵守スルトキハ軍  
事名譽其中ニ在リト謂フヘシ  
(三) 名譽ハ常ニ己ノ指導者ト爲ス可キヤ

名譽ハ常ニ兵卒ノ爲メ最良ナル指導者ナリ若  
シ名譽ト己レノ利益ト互ニ相反對スル場合ア  
ラハ即チ其名譽ヲ擯フヲ以テ軍人ノ任務トス  
可シ而シテ之レヲ擯フニ決シテ猶豫スルコト  
ナク名譽ノ道路ニ由リテ直進ス可シ然ルトキ  
之ヲ稱シテ良兵卒ト云フ  
(四) 戦時ニ於テハ軍事名譽ノ感覺ヨリモ寧ロ  
功名心ヲ誘發セシムルヲ以テ良トセサルカ  
功名心ナル者ハ專ラ己レノ利益ト欲望ヨリ生  
スル者ニシテ徒ニ外觀ヲ修飾シ其實ハ名利ノ  
爲メニ常ニ心事ヲ左右セラル、故ニ其爲ス所  
一時ニ止リ之レヲ永久ニ持續スルコト能ハサ  
ル者ナリ之レニ反シテ軍事名譽ハ眞ニ良心ヨ  
リ發シ最モ靱強高尚ニシテ不動不滅ノ義氣ヲ  
存スル者ナルカ故ニ名譽心ヲシテ普ク軍人ニ

有セシムルトキハ軍は始メテ強勢ナル威力ヲ生スルコトヲ得ヘシ

將官伯論堙兒曰ク功名ヲ愛スル者ハ世人之ヲ風説シ之ヲ賞賛スルヲ待ツ名譽ヲ愛スル者ハ良心黙識ノ讚美ヲ以テ満足ス即功名者ノ所爲ハ人ノ賞賛ヲ得ンカ爲メナリ名譽者ノ所爲ハ自ラ満足センカ爲ナリト

(五) 兵卒ヲシテ一般ニ名譽心ヲ發達セシムルハ如何ナル方法ヲ以テスルカ

名譽心ハ元ト人ノ良心ヨリ生スル者ナルカ故ニ特殊ノ教育ヲ藉ラサルモ尙自然ニ人ノ心裡ニ發生スル者ナリ故ニ久シク軍隊ニ在ル者及ヒ上級ニ在ル者ハ名譽心ノ尙未ダ幼稚ナル新兵ニ向ツテ鼓舞作興シ漸次之ヲ啓發セシムルヲ以テ義務トス可シ其方法ニ至ツテハ他ナシ

唯己ノ志操ヲ高尚ニシ至誠ヲ以テ己レカ任務ヲ盡サシムレハ容易ニ其功ヲ收ム可シ

夫レ兵卒ノ軍隊ニ於ケル猶ホ機關ノ傳動桿ニ於ケルカ如シ機關傳桿ナクトキハ動止ノ柄ヲ執ルコト能ハス軍隊名譽心ナケレハ其強盛ヲ致ス可カラズ故ニ隊長タル者此高尚ナル力ヲ借りテ以テ之ヲ利用シ以テ其義務ヲ盡サシムルヲ要ス決シテ兵卒ヲシテ懲戒法ニ頼リ其義務ヲ盡サシムルコト勿レ

例令ハ千八百七十年佛普戰爭ノトキ醉狂者ヲシテ跡ヲ軍中ニ絶タシメント欲シ布令ヲ發シテ曰ク「醉狂スル者ハ戰闘中八日間前衛或ハ前哨中ニ在テ勤務ニ服スヘシ」ト又千八百九十年奈破翁ノ告諭ニ曰ク「醉狂者ハ總テ其姓名ト失行トヲ聯隊命令ニ出シテ勤務ニ服セシメ

再ヒ同罪ヲ犯スニ至テハ聯隊長ヨリ指示セラレタル間ハ戰闘ニ與カルノ名譽ヲ有スル能ハスト

此二個ノ法令中ニ於テハ第二ノ法ヲ以テ良法トス蓋シ第一法ヲ取ルトキハ危難ヲ冒スハ乃チ懲戒ナリトノ念慮ヲ抱カシメ第二法ヲ取ルトキハ危難ヲ冒スヲ以テ名譽ナリト思ハシム即チ甲ハ人ヲシテ卑怯ナラシメ乙ハ人ヲシテ勇敢ナラシムルニ至ル可シ

(六) 名譽ハ軍人ノ最も重ンズ可キ者ナリ然ラハ則チ之ヲ毀損セラレタルトキハ寧ロ死ス可キカ

名譽ハ固ヨリ死ヲ以テ護ラサル可ラス即チ名譽ハ常ニ其價價ヲ高尚ナラシメ之レカ爲メ其生命ヲ犧牲ニスルノ覺悟ナカル可カラズ之ヲ

歴史ニ徴スルニ戰場ニ於テ降伏スルヨリモ寧ロ其軀ヲ殺シタル者ヲ以テ勇敢トナセリ

(七) 朋友間名譽ノ得失ニ關シテハ之ヲ處スル法如何

兵卒ハ朋友間ノ名譽ニ關シテ亦深ク注意セサル可ラス若シ人此感動シ易キ名譽ヲ損害スルトキハ相互ノ間ニ爭鬪チ生爲シメニ法律ノ罪人トナル者往々之レアリ然リ唯罪人タルニ止マラス憤怒ノ情ニ堪ヘス貴重ノ生命ヲモ顧ミス飽マテ其耻辱ヲ雪カントシテ竟ニ國家防禦ノ衝ニ當ル軍隊一人ノ生命ヲ無益ニ失フノ虞ナキ能ハサレハナリ

廉潔及ヒ誠實

(一) 名譽ヲ保全シ永ク失墜セサラント欲セハ何チカ最精密ニ注意ス可キヤ

廉潔及誠實是レナリ  
夫レ智勇絶倫ノ人ト雖モ若シ廉潔ナラズ又誠實ナラサルトキハ未タ以テ名譽ノ人ト稱ス可カラズ蓋シ廉潔ニシテ行爲誠實ナルハ我日本人ノ自然具備スル所ノ性質ナルハ世人ノ已ニ認識スル所ナリ

(二) 廉潔ナラサル兵卒トハ如何ナル者ソ  
他人ノ財物ヲ私シ若クハ賄賂ヲ受ケ殊ニ戰時家禽果物及其他ノ物ヲ掠ムル如キ者ヲ云フナリ抑モ軍隊ナル者ハ名譽ノ人ヲ以テ編制シ盜賊及ヒ掠奪者ヲ以テ編制スル者ニアラサルナリ又價フコト能ハサルヲ知テ過分ノ負債ヲ爲ス者父母ヲ欺テ金錢ヲ騙取スル者敵ノ負傷者及ヒ囚虜ヨリ財物ヲ奪略スル者ノ如キ是レナリ斯ノ如キ兵卒ハ素ト軍服ヲ着セシムルノ價

値ナキノミナラス軍法會議ニ引致セラレテ相當ノ罰科ニ處セラルヘキ者ナリ

(三) 戰場ニ於テハ他人ノ財物ヲ掠奪スルノ權ヲ兵卒ニ附與スルノ場合ナキヤ  
名譽操節ヲ重シ道義ヲ以テ自ラ任スル者掠奪ヲ以テ耻辱トナサハル者アラシヤ  
某世期ノ頃ニ於テハ兵卒ノ勇氣ヲ鼓舞スル爲メ敵國ノ都府ヲ攻圍スルトキ其都府ニ於テ掠奪ヲ許スノ權ヲ將官ニ附與シタルコトアリシモ今日ニ至ツテハ何等ノ時ト雖モ掠奪ハ公法ノ堅ク禁止スル所トナレリ

(四) 誠實トハ如何ナル者ヲ云フヤ  
誠實トハ言行一致常ニ約束ヲ重シ誓盟ニ背カス及ヒ談話ヲ空フセサル處ノ性質ナリ  
兵卒ハ殊ニ此性質ヲ重セサル可カラズ縱ヘ一

且之ニ背クモ之ヲ改ムルニ吝ナラサルトキ是レ其過ヲ贖フノ最良方便ナリ況ンヤ衷心悔悟ノ證據顯然タルニ於テナヤ  
兵卒ノ行爲誠實ナラサルトキハ乃チ名譽ノ存セサル軍隊ト云フ可キナリ何トナレハ名譽ナル者ハ虛誕妄言無實偽誓ノ社會ニ存セサル者ナレハナリ

忠厚及ヒ克己

(一) 忠厚トハ何ソ

忠厚トハ自ラ信スル厚フシテ人ノ爲ニ謀ルコト忠實ナルヲ云フ即チ己ヲ推シテ人ニ施シ難ニ趣キ躬ヲ殺シテ仁ヲ爲スノ氣節アルヲ云フナリ  
此貴重スヘキ氣節ハ専ラ愛國心慈惠心共愛心名譽心及ヒ任務上ヨリ生スル者ニシテ尊フヘ

ク嘉スヘキノ精神ナリ故ニ普通ノ人民ニ於ケルヨリモ之ヲ軍人ノ胸裡ニ浸潤セシムルコト殊ニ緊要ナリトス

(二) 兵卒タル者誰レカ爲メニ忠厚ヲ要スルカ  
兵卒ハ時機ニ從ヒ自國ノ爲メ名譽ノ爲メ己レカ軍隊ノ爲メ隊長ノ爲メ朋友ノ爲メ及ヒ一般人民ノ爲メ己レヲ捨テ難ニ殉フノ精神ヲ表彰セサル可カラズ

亦上官タル者モ其部下ノ爲メ之ヲ救済スルニ於テ躊躇ス可カラズ苟モ身日本軍隊ノ軍服ヲ着スル者ハ平時戰時ノ別ナク豪俠能ク軍旗ノ名譽ヲ保護シ且同朋ヲ救済センカ爲メニハ其生命ヲ捨テ、願ミサルノ決意ナカル可カラズ己ニ軍人一般此ノ心ヲ存スルトキハ始メテ軍隊ノ強盛ナルヲ得ヘシ

(三) 克己トハ如何ナル者ソ

克己トハ己レヲ空フシテ忠厚節義ヲ致スノ精神ナルカ故ニ私欲名利ト反對スルノ性質ト稱スルヲ得ヘシ而シテ克己ナル者ハ寡邁ナル事業ニ依リテ顯ハルヘキ者ナレトモ亦簡單ナル行爲ニヨルモ之ヲ顯ハスコトヲ得然レトモ是レヲ行ヒ之ヲ爲スニ最モ困難ナル者ナリ何トナレハ軍人タル殆ント毎日克己ノ舉動ヲ要スル者ナレトモ之ヲ外形ニ顯ハスハ甚稀ナルノミナラス其報酬トシテ得ル所ノ者ハ誰レカ良心ヲ満足セシムルノミナレハナリ

勇敢

勇敢 果敢 沈毅

(一) 勇敢トハ何ソ

勇敢トハ己レカ任務ヲ全フスル爲メ何等ノ事

變ニ遭フモ敢テ恐怖ノ念ナク進ンテ苦楚ヲ嘗

メ困難ヲ辭セス又其生命ヲモ捨テ、願ミサル所ノ豪毅ナル精神ヲ云フ

軍事上ヨリ論スルトキハ勇敢ナルモノ唯死ヲ惜マサルヲ以テ足レリトセサルナリ乃チ困難ナル行軍極メテ疲勞ノ軍動飲食及ヒ睡眠ノ不足季候ノ不順軍紀ノ嚴肅等最モ困難ナル境遇ニ在リテ之ヲ意トセサルノミナラス却テ之ニ當ラントスル所ノ精神ヲ要スルナリ

(二) 勇敢ハ人ノ天稟ニシテ自然ニ發生スルモノナルカ

戰場ニ於テハ勇敢ノ行爲ヲ自然ニ顯ハスコトヲ得ル者アリ然レトモ常ニ其任務ヲ盡ス爲メ進退宜シキヲ制スル勇敢ニ至テハ教育ノ効ヲ積ムニアラサレハ能ハサル可シ世諺ニ曰ク修

是卑怯ナリ卑怯ハ軍人ニ於テ最忌ムヘク嫌フヘキ所ノ者ナリ蓋シ卑怯ノ行爲ハ事物ニ恐怖シ或ハ自衛心ノ切ナルニヨリテ生スル者ナリ兵卒勉メテ卑怯心ヲ抑制スルニアラスンハ戰ニ臨ミテ軍隊ヲ脱カル、者アルニ至ラン故ニ軍隊ニ在テ卑怯ナル語ヲ聞クトキハ赤面シテ其耻辱ニ忍ヒザル者ノ如ク常ニ教化スルヲ要ス

慈愛

(一) 兵卒戰爭中ニ在テハ唯勇武ノ氣象ヲ尙ヒ

更ニ慈愛ノ情念ヲ要セサルカ

否慈愛ナル者ハ勇武ノ氣象ト密接ノ關係ヲ有シ二者相俟テ始メテ眞勇ト稱スヘキ者ナリ故ニ戰鬪中ハ其勇猛虎豹ノ如クナル可シト雖モ戰鬪終ルノ後ハ寛厚ニシテ慈愛ナルヲ要ス即

チ敵ノ負傷者若クハ囚虜ヲ見テハ之ヲ憐シシ之ヲ憫ミ決シテ是レニ戮辱ヲ加フ可ラス何トナレハ敵ト雖モ亦人ナリ人各其國ノ爲メニ戰フ者ニシテ其心情寧ロ尊敬ス可キ者ナレハナリ誠ニ歴史ヲ繙キ軍人ノ事蹟ヲ見ヨ其寛厚慈愛ナル克服セシ敵兵侵略シタル國民ニ對シテ毫モ是レヲ殘害セス又之ヲ侮辱セス反テ之ヲ慰撫シ之ヲ愛恤スルコトヲ知ルナラン

(二) 戰鬪間ト雖モ兵卒ハ慈愛心ヲ施スノ場合アルヤ

然リ萬國公法及ヒ良心ニ於テモ降服スル敵兵ハ之ヲ毆撻シ之ヲ傷害シ之ヲ殺死スルヲ禁ス即チ敵我ニ抵抗ナ止メ生命ヲ強迫スルヲ止メタルトキヨリ乃チ軍虜トナル者ナリ若シ反逆ヲ企ツルカ逃走ヲ試ムルニアラサレハ之ニ害

業ヲ積ミ勞苦ヲ經ルニアラサレハ人實ニ其聲價ヲ有セスト  
 兵卒ノ中ニモ天性勇武危難ヲ恐レサル者アリ然レトモ亦軍事上普通ノ場合ニ於テ勇氣ヲ欠クコトアリ是レ則チ教育ノ乏シキカ故ナリ若シ教育ノ力ヲ以テ其勇氣ヲ鼓舞作興スルトキハ常ニ堅固ニシテ戰場ニ在ルモ恰モ屯營内ニ在ルカ如ク沈着シテ諸般ノ危難ニ抵抗スルヲ得ヘキナリ

(三) 勇敢ノ中ニ教種ノ變化アラサルカ  
 訓練ノ程度ニヨリ教育ノ法ニ從ヒ人々自然ノ天性ニヨリ勇敢ノ發シテ外ニ顯ハル者其形狀自ラ同シカラス隨テ又其名稱ヲ異ニス則チ勇敢及ヒ沈毅是ナリ  
 果敢トハ事ヲ爲スニ當リ障礙ヲ排シ困難ヲ辭

セス死尙ホ願ミスシテ其目的ニ向ヒ直進スル所ノ勇猛ナル決意ナリ  
 沈毅トハ百難ノ中ニ立チテ其精神ヲ沈着シ敢テ輕舉暴動スルコトナク而シテ其目的ヲ達スル爲メ用井ヘキ方法ヲ選フニ當リテハ毫モ遲疑スルコトナク困難ヲ排シテ屈撓セサル所ノ堅固ナル性質ナリ  
 例令ハ敵ニ向テ行進スルニ當リ之ヲ指揮スル隊長ニ要スル者ハ沈毅ナリ而シテ其射擊ヲ施行セル兵卒ノ爲メニハ果敢ナルヲ要スルナリ

(四) 勇敢果敢及ヒ沈毅ノ三者ヲ具備スル者アラハ之レヲ豪傑ト云フヘキヤ  
 然リ之ヲ豪傑ト云フ豪傑ノ企圖スル所之ヲ雄圖ト云フ雄圖ノ成蹟ヲ稱シテ偉業ト云フ

(五) 勇敢ニ反對スル行爲ハ何ト稱スルカ

テ加フ可ラス其因處ト爲シタル者ハ唯武器ヲ解カシメ之レヲ監視シテ害ヲ爲ス能ハサラシムルノミ若シ其人戰鬪ノ危變ニヨリ自由ヲ復シ武器ヲ取りテ戰フト雖モ其初メニ誓約チナスニアラサレハ再ヒ敵對シタルノ故ヲ以テ之ヲ責メ之ヲ罰スルヲ得サルナリ是レ敵ニ誓ヒタル信ヲ重ンスルノ例規タレハナリ故ニ歸降シタル敵兵或ハ防禦スルコト能ハサルノ状態ニ陥リタル敵兵ハ決シテ之ニ害ヲ加ヘサルヲ以テ必要ノ義務トスヘシ是ヲ以テ如何ナル場合ニ際スルモ恐赫ノ爲メ復讐ノ爲メ疾惡ノ爲メ預メ宣言シテ俘虜ヲ寛待セサルヘシト云フコトヲ得ス

日本海軍 軍人必携終

附錄

增補  
改正  
海軍諸法令

○海軍志願兵條例

明治三十二年三月勅令第七十一號公布  
明治三十七年二月勅令第八號改正

**第一條** 海軍志願兵トハ海軍兵役ニ服センコトヲ志願シ認可ヲ得海軍志願兵籍ニ編入セラレタル者ヲ謂フ

**第二條** 海軍志願兵トシテ徵募スヘキ卒ノ種別ハ左ノ如シ  
水兵、軍樂生、木工、機關兵、看護、主厨

**第三條** 志願兵トシテ徵募シタル水兵中適當ノ者ハ所要ニ應シ之ヲ信號兵ニ轉セシム其ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

**第四條** 志願兵ノ徵募ハ其ノ年ニ於テ左ノ各項ニ適合スル者ニ就キ之ヲ行フ  
一水兵、機關兵ハ十七年以上二十一年未滿  
二木工、看護、主厨ハ十七年以上二十六年未

滿

三軍樂生ハ十六年以上十九年未滿

**第五條** 左ニ掲グル者ハ志願兵ノ徵募ニ應スルコトヲ得ス  
一陸軍ノ豫備役及ヒ後備役ニ在ル者  
二徵兵令第二十八條ニ當ル者  
三禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者  
四刑事被告人  
五復權ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人  
六身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

**第五條ノ二** 左ニ掲グル者ハ志願兵ニ採用スルコトヲ得ス

一 身體完全ナラサル者

二 品行方正ナラサル者

三 無教育ノ者

四 前各號ニ掲クル者ノ外海軍軍人ノ服役ニ適

セサル者

第六條 軍樂生ニシテ入團後三箇月ヲ經過シ技

藝發達ノ目途ナキ者ハ軍樂生ヲ免ス

第七條 志願兵ノ服役ハ海軍下士卒服役條例ニ

依ル

第七條ノ二 志願兵現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行

方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 削除

第九條 海軍大臣ハ志願兵徵募ノ爲海軍志願兵

徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

第十條 海軍大臣ハ毎年志願兵トシテ採用スヘ

キ人員ヲ定メ鎮守府ヲシテ徵募セシム

附 則

第十一條 削除

第十二條 海軍志願兵徵募ニ關スル細則ハ海軍

大臣之ヲ定ム

第十三條 本條例ハ明治三十二年四月一日ヨリ

施行ス

第十四條 明治三十一年勅令第八十三號海軍志

願兵徵募規則ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

附 則

編者曰ク此附則ハ三十七年一月勅令

第八號改正令ニ規定セラレタルモノ

ナリ

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(注意)該條例ハ公布ノ後三十二年勅令第四百

四十七號三十六年勅令第二十號及ヒ本

年勅令第八號等ニ因リ改正セラレタル

ヲ以テ逐一之ヲ修正シ以テ條例ノ全文

ヲ掲ケタリ

○海軍豫備員條例

明治三十七年六月勅令第七十九號

第一條 海軍ニ海軍豫備員ヲ置ク

第二條 海軍豫備員ハ海軍軍人トシ豫備役ニ服

セシム

第三條 海軍豫備員ハ之ヲ上長官、士官、准士

官、下士ニ分チ別ニ候補生ヲ置ク

第四條 海軍豫備員ハ拔擢ニ依リ級ヲ逐ヒ其ノ

官階ヲ歴進セシム但シ海軍豫備兵曹長又ハ海

軍豫備機關兵曹長ノ海軍豫備中尉又ハ海軍豫

備中機關士ニ進ムハ特選ニ依ル

第五條 海軍豫備少尉候補生ハ左ニ掲クル者ヨ

リ採用ス

一 遞信省所管商船學校卒業者

二 甲種二等運轉士ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以

上五百噸以上ノ船舶ニ於テ二等運轉士タリ

シ者

第六條 海軍豫備少機關士候補生ハ左ニ掲クル

者ヨリ採用ス

一 遞信省所管商船學校卒業者

二 一等機關士ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上五

百噸以上ノ船舶ニ於テ一等機關士タリシ者

第七條 海軍豫備三等兵曹ハ左ニ掲クル者ヨリ

任用ス

一 海軍大臣ノ允當ト認メタル商船學校ノ卒業

者



二運轉士ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上船舶職員タリシ者

第八條 海軍豫備三等機關兵曹ハ左ニ掲クル者ヨリ任用ス

一海軍大臣ノ允當ト認メタル商船學校ノ卒業者

二機關士ノ海技免狀ヲ有シ二箇年以上船舶職員タリシ者

第九條 逕信省所管商船學校卒業者以外ノ者ヲ海軍豫備員ニ採用又ハ任用スルハ其ノ志願ニ依リ左ノ諸號ニ適合スル場合ニ限ル

一年齡二十歳以上ノ者

二海軍志願者體格検査規格ニ適合ノ者

三品行方正ニシテ志操確實學術技藝優等ニシテ海軍豫備員タルニ適スル者

第十條 左ニ掲クル者ハ海軍豫備員タルコトヲ得ス

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者

三身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第十一條 海軍豫備員ノ採用、任用又ハ進級ハ海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ於テ必要ナル教育ヲ施シ試験ヲ爲シ檢定委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ行フモノトス但シ商船學校卒業者ヲ候補生ニ採用スルハ此ノ限ニ在ラス

海軍大臣ノ允當ト認メタル商船學校ノ卒業者ヲ海軍豫備三等兵曹若ハ海軍豫備三等機關兵

生及准士官以下ニ在リテハ海軍大臣之ヲ專行ス

曹ニ任用シ又ハ候補生ヲ海軍豫備少尉若ハ海軍豫備少機關士ニ任用スル場合ニハ教育及ヒ試験ヲ施行セス

第十二條 海軍豫備員ハ召集中ノ日數及ヒ船舶ノ職員トシテ勤務セシ日數ヲ實役停年トシ其ノ最下期限五箇年ヲ超ユルニ非サレハ官階ヲ進ムルコトヲ得ス但シ候補生ノ海軍豫備少尉又ハ海軍豫備少機關士ニ進ムハ其ノ實役停年最下期限ヲ二箇年トス

戰時事變ノ際ハ實役停年最下期限ヲ半ニ減スルコトヲ得

第十三條 海軍豫備員ノ採用、任用又ハ進級ハ士官以上ニ在リテハ海軍大臣之ヲ奏請シ候補

生及准士官以下ニ在リテハ海軍大臣之ヲ專行ス

第十四條 海軍豫備員ノ定限年齡ヲ五十トシ定限年齡ニ滿ツル迄服役セシメ年限年齡ニ達シタルトキハ准士官以上ニ在リテハ退役トシ候補生及ヒ下士ニ在リテハ之ヲ免シタルモノトス

第十五條 海軍豫備員ハ戰時事變其ノ他必要アル場合ニ於テ勤務又ハ教育ノ爲之ヲ召集ス

第十六條 海軍豫備員ノ召集ニハ海軍召集條例中准士官以上ノ召集ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 海技免狀ヲ有シ海軍豫備員タラムコトヲ志願スル者ハ當分ノ内左ノ區分ニ從ヒ之ヲ任用スルコトヲ得

甲種船長ノ海技免

狀ヲ有シ十箇年以  
上船長ト爲リ其ノ  
内五箇年以上三千  
噸以上ノ船舶ニ在  
リタル者  
甲種船長ノ海技免  
狀ヲ有シ五箇年以  
上船長ト爲リ其ノ  
内二箇年以上一千  
五百噸以上ノ船舶  
ニ在リタル者  
甲種一等運轉士ノ  
海技免狀ヲ有シ十  
箇年以上一等運轉  
士ト爲リ其ノ内五

海軍豫備少佐以下

海軍豫備大尉以下

箇年以上三千噸以  
上ノ船舶ニ在リタ  
ル者  
甲種船長ノ海技免  
狀ヲ有シ二箇年以  
上五百噸以上ノ船  
舶ノ船長タリシ者  
甲種一等運轉士ノ  
海技免狀ヲ有シ五  
箇年以上一等運轉  
士ト爲リ其ノ内二  
箇年以上ノ船舶ニ在  
リタル者  
甲種一等運轉士ノ

海軍豫備中尉以下

海技免狀ヲ有シ二  
箇年以上五百噸以  
上ノ船舶ノ一等運  
轉士タリシ者  
甲種二等運轉士ノ  
海技免狀ヲ有シ五  
箇年以上二等運轉  
士ト爲リ其ノ内二  
箇年以上一千五百  
噸以上ノ船舶ニ在  
リタル者  
乙種又ハ丙種船長  
ノ海技免狀ヲ有シ  
五箇年以上船長ト  
爲リ其ノ内二箇年

海軍豫備少尉以下

以上三百噸以上ノ  
船舶ニ在リタル者  
乙種又ハ丙種船長  
ノ海技免狀ヲ有シ  
二箇年以上船長タ  
リシ者  
乙種一等運轉士ノ  
海技免狀ヲ有シ十  
箇年以上船舶職員  
タリシ者  
丙種運轉士ノ海技  
免狀ヲ有シ十箇年  
以上船長ト爲リ其  
ノ内五箇年以上百  
噸以上ノ船舶ニ在

海軍豫備兵曹長以下

海軍豫備上等兵曹以下

リタル者  
 乙種一等運轉士ノ  
 海技免狀ヲ有シ五  
 箇年以上船舶職員  
 タリシ者  
 丙種運轉士ノ海技  
 免狀ヲ有シ五箇年  
 以上船長ト爲リ其  
 ノ内三箇年以上百  
 噸以上ノ船舶ニ在  
 リタル者  
 乙種一等運轉士ノ  
 海技免狀ヲ有シ二  
 箇年以上船舶職員  
 タリシ者

海軍豫備一等兵曹以下

乙種二等運轉士又  
 ハ丙種運轉士ノ海  
 技免狀ヲ有シ五箇  
 年以上船舶職員タ  
 リシ者  
 機關長ノ海技免狀  
 ナ有シ十箇年以上  
 機關長ト爲リ其ノ  
 内五箇年以上三千  
 噸以上ノ船舶ニ在  
 リタル者  
 機關長ノ海技免狀  
 ナ有シ五箇年以上  
 機關長ト爲リ其ノ  
 内二箇年以上一千

海軍豫備大機關士以下

海軍豫備二等兵曹以下

五百噸以上ノ船舶  
 ニ在リタル者  
 機關長ノ海技免狀  
 ナ有シ二箇年以上  
 五百噸以上ノ船舶  
 ノ機關長タリシ者  
 一等機關士ノ海技  
 免狀ヲ有シ五箇年  
 以上一等機關士ト  
 爲リ其ノ内二箇年  
 以上一千五百噸以  
 上ノ船舶ニ在リタ  
 ル者  
 二等機關士ノ海技  
 免狀ヲ有シ十箇年

海軍豫備中機關士以下

海軍豫備少機關士以下

以上船舶職員タリ  
 シ者  
 二等機關士ノ海技  
 免狀ヲ有シ五箇年  
 以上船舶職員タリ  
 シ者  
 二等機關士ノ海技  
 免狀ヲ有シ二箇年  
 以上船舶職員タリ  
 シ者  
 三等機關士ノ海技  
 免狀ヲ有シ五箇年  
 以上船舶職員タリ  
 シ者

海軍豫備上等機關  
 兵曹以下

海軍豫備一等機關  
 兵曹以下

海軍豫備二等機關  
 兵曹以下

第十八條 本條例中船舶ノ噸數ハ登簿噸數ニ依

リ船舶職員ハ船舶職員法ノ規定ニ依ル船舶職員ヲ謂フ但シ高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用シ上級職員タリシ日數ハ下級職員タリシ日數ニ通算スルコトヲ得

附則

本條例發布前ニ於ケル海軍豫備員ニシテ海軍少尉候補生又ハ海軍少機關士候補生ノ身分ヲ有スル者ハ別ニ辭令ヲ用井ス各海軍豫備少尉候補生又ハ海軍豫備少機關士候補生ヲ命セラレタルモノトス  
前項ニ依リ候補生ヲ命セラレタル者ハ一回ヲ限リ第四條及第十二條ノ規定ニ拘ラス教育ヲ施シ試験ヲ爲シ第十七條ノ區分ニ從ヒ任用シ又ハ進級セシムルコトヲ得  
逕信省所管商船學校ノ簡易科卒業者ニ關シテハ

海軍大臣ノ允當ト認タメル商船學校ノ卒業者ニ關スル規定ヲ準用ス

○海軍豫備員條例施行細則

明治三十七年七月海軍省令第十二號

- 第一條 海軍大臣ハ所要ニ應ジ海軍豫備員ヲ教育ノ爲召集セムトスルトキ並條例第五條第二號、第六條第二號、第七條第二號、第八號第二號、及第十七條ニ依リ海軍豫備員ヲ任用又ハ採用セシムルトキハ之ヲ告達ス
- 第二條 前條ノ告達ニ應ジテ海軍豫備員タラムコトヲ志願スル者ハ志願書ニ履歷書及誓約書ヲ添ヘ海軍大臣ニ出願スヘシ
- 第三條 海軍大臣ハ前條ノ志願者ニ就キ其ノ教育ニ適スル者ヲ撰拔シ海軍砲術練習所、海軍

水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命ス

第四條 海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命セラレタル者ハ情願ヲ以テ退所スルヲ得サルモノトス

第五條 海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命セラレタル者ニシテ修業ノ見込ナキ者ハ海軍大臣之ニ退所ヲ命ス

第六條 海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ入所ヲ命セラレタル者ニシテ教育修了ノ上試験ニ合格シタル者ニハ修業證書ヲ授與シ退所ヲ命ス

第七條 海軍大臣ハ修業證書ヲ授與シタル者ヲ檢定委員ノ銓衡ニ附シ進級、任用若ハ採用ノ

手續ヲ爲サシムルモノトス

第八條 條例第七條第一號及第八條第一號ニ該當スル者ニシテ海軍豫備員タラムト志願スルモノハ志願書(第一様式)ニ履歷書(第二様式)及誓約書(第三様式)ヲ添ヘ隨時其ノ旨

海軍大臣ニ願出ツヘシ此ノ場合ニ在リテハ海軍大臣ハ檢定委員ノ銓衡ニ附シ適任者ヲ撰拔シ海軍豫備三等兵曹又ハ海軍豫備三等機關兵曹ニ任用ス

第九條 海軍豫備員ノ身分ハ海軍省人事局ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

第十條 海軍豫備員ニ任用又ハ採用セララル、者ハ履歷書(第二様式)ニ通テ作り海軍省人事局ニ差出スヘシ但シ豫備候補生ヨリ任用セララル、者ハ此ノ限ニアラス

**第十一條** 海軍豫備員ハ身分其ノ他ニ異動ナ生シ履歷ニ記入訂正削除等ヲ要スルトキハ其ノ相當官廳等ノ證明書ヲ添ヘ速ニ海軍省人事局ニ届出ツヘシ

**第十二條** 海軍豫備員ノ履歷ニハ原籍地、寄留地、族籍、氏名、誕辰、家族、出身、免狀、就職、任官、官等、俸給、補職、乗船、下船、轉勤、轉乘、召集、從軍、叙位、叙勳、收禁、處刑、處罰、懲戒、轉籍、轉任、分家、相續、改名等必要ナル事項ヲ記入スルモノトス

**第十三條** 海軍豫備員ノ身分其ノ他ニ異動アリタルトキ本人ヨリ之ヲ届出ルコト能ハサルトキハ家族ヨリ届出ルモノトス但シ家族ナキトキハ市町村長又ハ之ニ準スル者ヨリ届出ツヘシ

附則

海軍豫備員ハ本則發布後三箇月以内ニ其ノ履歷書(第二種式)ニ通テ調製シ海軍省人事局ニ差出スヘシ

志願書(第一種式)用紙美濃紙

海軍豫備員願

某備

今般海軍豫備員條例第何條ニ依リ海軍豫備何々志願仕候間御任(採)用被下度此段奉願候也

明治何年何月何日

族籍

某 印

海軍大臣爵氏名殿

明治何年何月何日

履歷書(第二種式)同上

年 號	何府縣何郡區市町村何番地		原籍地	何府縣何郡區市町村何番地	
	何府縣何郡區市町村何番地		寄留地	何府縣何郡區市町村何番地	
月 日	父 某	年號 何年何月何日生	妻 某	年號 何年何月何日生	族籍 華(士)族平民
	母 某	年號 何年何月何日生	長男 某	年號 何年何月何日生	
實	何府縣何郡區市町村何番地		氏名	何 某	氏印
	何府縣何郡區市町村何番地		誕辰	年 號 何年何月何日生	
歴	何府縣何郡區市町村何番地		何年何月何日生		
	何府縣何郡區市町村何番地		何年何月何日生		
明治何年	商船學校へ入學航海科(機關科)學生ヲ命ス		官廳會社又船主等ノ名 商船學校		



誓約書(第三樣式)同上

誓約書

今般海軍豫備員ニ御採用相成候ニ付テハ御規則等嚴重守致シ誓テ規定ノ服役可仕此段誓約仕候也

明治何年何月何日

何某印

海軍大臣爵氏名殿

○海軍給與令

明治三十七年一月勅令第六號公布  
同年六月勅令第八十三號改正

第一章 總則

第一條 海軍軍人軍屬ノ給與ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依ル軍人軍屬以外ノ者ニシテ本令中特ニ定メタル者ノ給與亦同シ

第二條

本令ニ於テ軍人ト稱スルハ現役軍人中ニ非サル生徒學生及召集中ノ豫備役後備役軍人依テテ除クヲ謂フ

第三條

軍人軍屬戰地ニ臨ミ若ハ艦船沈没其ノ他ノ場合ニ於テ所在不明ト爲リタルトキ又ハ墮ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタルトキハ本令中特ニ定メタルモノヲ除クノ外其ノ間本令ニ依ル給與ヲ停止ス高等官官等俸給令、技術官俸給令及ヒ判任官俸給令ニ依ル給與亦同シ

第四條

本令ニ依ル給與ハ特ニ支給期ヲ定メタルモノヲ除クノ外年額ニ在リテハ十二分シテ毎月、月額又ハ日額ニ在リテハ毎月下旬之ヲ支給ス

第五條

本令ニ依ル給與ハ之ヲ支給スルニ當リ

計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツ但シ文官俸給ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二章 俸給

第一節 軍人俸給

第六條 軍人ニハ第一表ニ依リ俸給ヲ給ス

第七條 准士官以上待命中ハ俸給十分ノ八、休職中ハ俸給十分ノ六、停職中ハ俸給十分ノ三ヲ給ス

第八條 下士卒ノ俸給ハ定員及練習生ニハ甲額

其他ノ者ニハ乙額ヲ給ス但シ海兵團ニ於テ定員又ハ練習生ニ非スシテ特ニ執務ヲ命セラレタル者ニハ執務中甲額ヲ給スルコトヲ得  
志願兵入團ノ際傷痍又ハ疾病ノ爲其ノ採用ヲ取消サレタルトキハ入團ノ日ヨリ退團ノ日迄

軍人ニ準シ俸給ヲ給ス

第九條

俸給ハ之ヲ支給スヘキ事由ノ期間一箇月ニ滿サルトキハ總テ日割計算ニ依ル

軍人死亡シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス當

月末日迄ノ俸給ヲ給ス左ノ各號ノ一ニ當ル場

合ニ於テ退職恩給又ハ免除恩給ヲ受クヘキ資

格ナキトキ亦同シ

一 准士官以上豫備役、後備役、退役又ハ廢官ト

爲リタルトキ

二 候補生傷痍又ハ疾病ノ爲候補生ヲ免セラレ

タルトキ

三 下士卒豫備役、後備役、免官又ハ免役ト爲リ

タルトキ但シ徵兵ニシテ入團ノ際傷痍又ハ

疾病ノ爲現役ヲ免セラレタルトキハ此ノ限

ニ在ラス

第十條 准士官以上待命、休職、停職、豫備役、

後備役、退役、免官若ハ廢官ト爲リ又ハ召集  
ヲ解カレ事務引繼殘務調理ニ從事スルトキハ  
其ノ事務ノ了リタル日迄仍在職又ハ召集中ノ  
例ニ依リ俸給ヲ給ス但シ海軍高等武官進級條  
例第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ進級  
シタル者ニ在リテハ前官ノ俸給ヲ給ス

第十一條 准士官以上及候補生禁錮ノ刑ニ處セ  
ラレタルトキハ其ノ間俸給十分ノ五ヲ給ス但  
シ准士官以上停職中ナルトキハ第七條ノ規定  
ニ依ル

第十二條 下士卒公務ニ原因スルニ非スシテ痲  
傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ入院若ハ陸地療養ヲ  
爲ストキ又ハ陸上勤務外宿中公務ニ原因スル  
ニ非スシテ痲痺ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ缺勤一

週日ヲ超ユルトキハ其ノ間左ノ區別ニ從ヒ俸  
給ヲ給ス

一故意ニ出ツルトキ 俸給十分ノ二  
二自己ノ不攝生ニ原因スルトキ俸給十分ノ四  
三其ノ他ノ場合 俸給十分ノ八  
外國及臺灣ニ於テハ前項第二號及第三號ノ規  
定ヲ適用セス

第十三條 下士卒留置、收禁、處刑、處罰中又  
ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ間俸給十分ノ二  
ヲ給ス但シ被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ  
歸シタルトキ、被告事件緊屬中死亡シタルト  
キ又ハ戴罪服務中ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 所在不明ノ軍人所在判明シタルトキ  
ハ其ノ不明ト爲リタル原因正當ノ事由アル者  
ニ限り停止中ノ俸給ヲ給ス

第十五條 准士官以上海軍部内ノ文官ニ任セラ  
レタルトキハ其ノ俸給ハ多額ニ就キ之ヲ給ス

第十六條 軍人外國ニ派遣セラレタルトキ、交  
通不便ノ地方ニ勤務スルトキ又ハ艦船ニ乗組  
ミ航海ヲ爲ストキハ其ノ俸給ヲ家族ニ下渡ス  
コトヲ得

第十七條 艦船乗組ノ軍人三箇月以上航海ヲ爲  
ストキハ出航ノ際其ノ翌月迄ノ俸給ヲ前金渡  
スルコトヲ得

第十八條 交通不便ノ地方ニ勤務スル軍人ノ俸  
給ハ六箇月分以内ニ於テ前金渡スルコトヲ得

第十九條 第二節 文官俸給  
主理、教授、編修、通譯官、監獄長、  
望樓長及望樓手ノ俸給并判任官待遇者ノ俸給  
ハ第二表ニ依リ之ヲ給ス

主理試驗軍法會議ノ構成員タルトキハ五百圓  
以内ノ年俸ヲ給スルコトヲ得

第二十條 文官待遇者ノ俸給支給ノ方法ニ關シ  
テハ文官ノ例ニ依ル

第二十一條 第十四條及第十六條乃至第十八條  
ノ規定ハ海軍部内ノ文官及文官待遇者ノ俸給  
ニ之ヲ準用ス

第三章 加俸  
第一節 在勤加俸

第二十二條 公使館附軍人及軍事視察又ハ學術  
研究ノ爲メ外國ニ駐在スル軍人ニハ外國在勤  
中第三表ニ依リ加俸ヲ給ス

第二十三條 臺灣ニ在勤スル軍人及文官ニハ第  
四表ニ依リ加俸ヲ給ス

第二十四條 臺灣ニ在勤スル軍人及文官私事ヲ



以テ臺灣ヲ離ルルトキ、公務ニ原因スルニ非  
 スシテ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ臺灣以外ニ  
 於テ入院若ハ轉地療養ヲ爲ストキ又ハ留置、  
 收禁、處刑、處罰中若ハ被告事件ノ爲護送中  
 ハ其ノ間前條ノ加俸ヲ停止ス但シ被告事件不  
 起訴、免訴、若ハ無罪ニ歸シタルトキ、被告  
 事件緊屬中死亡シタルトキ又ハ准士官以上及  
 候補生處罰中勤務ニ服スルトキハ此ノ限ニ在  
 ラス

**第二十五條** 第二十三條ノ加俸ハ六箇月分以内  
 ニ於テ前金渡スルコトヲ得

**第二十六條** 第十條ノ規定ハ本節ノ加俸ニ  
 準用ス

**第二節 航海加俸**  
**第二十七條** 在役軍艦ノ乘員ニハ第五表又ハ第

六表ニ依リ加俸ヲ給ス豫備軍艦ノ乘員ニハ定  
 緊港外航海中亦同シ

在役驅逐艦及在役水雷艇ノ乘員ニハ定緊港碇  
 泊中第六表ニ依リ加俸ヲ給ス

在役驅逐艦、在役水雷艇、豫備驅逐艦及豫備  
 水雷艇ノ乘員ニハ定緊港外航海中第七表ニ依  
 リ加俸ヲ給ス

學校、練習所及海兵團所屬練習艦艇ノ乘員ニ  
 ハ定緊港碇泊中ハ臨時他ノ役務ニ服スル場合  
 ナ除クノ外加俸ヲ給セス

練習又ハ實地研究ノ爲艦艇ニ乗組ヲ命セラレ  
 マル者ニハ加俸ヲ給セス但シ候補生ハ此ノ限  
 ニ在ラス

**第二十八條** 未成軍艦、未成驅逐艦、未成水雷  
 艇又ハ官用船舶ノ運轉其ノ他ノ職務ニ服スル

爲乗組ヲ命セラレタル軍人及ヒ文官ニハ前條  
**第一項**ニ準シ加俸ヲ給ス

**第二十九條** 演習ノ際特ニ艦艇乗組ヲ命セラレ  
 タル指揮官ノ加俸ハ第五表及第七表ノ範圍内  
 ニ於テ海軍大臣之ヲ定ム

**第三十條** 士官以上他ノ職務ヲ兼ヌルトキハ其  
 ノ加俸ハ多額ニ就キ之ヲ給ス

**第三十一條** 軍人及ヒ文官依願休暇及依願歸郷  
 中又ハ公務ニ原因スルニ非スシテ傷疾ヲ受ケ  
 若ハ疾病ニ罹リ入院又ハ陸地療養ヲ爲ストキ  
 ハ其ノ間加俸ヲ停止ス

臺灣ニ於テ入院又ハ陸地療養ヲ爲ストキハ傷  
 疾疾病ノ原因故意ニ出ツル場合ヲ除クノ外前  
 項ノ規定ヲ適用セス

**第三十二條** 軍人及文官留置、收禁、處刑、處

罰中又ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ間加俸ヲ  
 停止ス但シ被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ  
 歸シタルトキ、被告事件緊屬中死亡シタルト  
 キ、准士官以上及候補處罰中勤務ニ服スルト  
 キ又ハ下士卒犯罪職務中ハ此ノ限ニ在ラス

**第三十三條** 第十條ノ規定ハ本節ノ加俸ニ之ヲ  
 準用ス

**第三節 下士卒特別加俸**  
**第三十四條** 左ノ各號ノ一ニ當ル下士卒ニハ各  
 號ニ就キ一日六錢以内ノ加俸ヲ給ス但シ第三  
 號及第四號ニ當ル者同技術ノ證書證狀ヲ併有  
 スル場合ニ於テ加俸ノ額同シキトキハ證書、  
 異ナルトキハ多額ニ就キ其ノ一ヲ給ス

一善行章ヲ有スル者  
 二教員ノ職ヲ奉スル者

三砲術教員適任證書、水雷術教員適任證書、  
軍樂教員適任證書又ハ機關術教員適任證書  
ヲ有スル者

四掌砲證狀、掌水雷證狀、信號證狀、軍樂高  
等科卒業書、機關工術專科證書、掌機證狀、  
水雷工證狀又ハ焚火選手證狀ヲ有スル者

軍艦、驅逐艦、水雷艇及ヒ水雷敷設隊ノ備砲  
射手ノ部署ニ在リテ射撃ノ成績良好ナル下士  
卒ニハ一日二十錢以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ  
得

第三十五條 下士卒故意又ハ自己ノ不攝生ニ因  
リ傷疾病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ入院若ハ陸地  
療養ヲ爲ストキ又上陸上勤務外宿中故意又ハ  
自己ノ不攝生ニ因リ傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹  
リ缺勤一週日ヲ超ユルトキハ其ノ間加俸ヲ停

止ス

外國及臺灣ニ於テハ傷疾疾病ノ原因故意ニ出  
ツル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ヲ適用セス

第三十六條 第十四條及第三十二條ノ規定ハ本  
節ノ加俸ニ之ヲ準用ス

第四章 手當

第一節 望樓手當

第三十七條 交通不便ノ地方ニ在ル望樓ニ勤務  
スル望樓長及望樓手ニハ一箇月六圓以内ノ手  
當ヲ給スルコトヲ得

第三十八條 第十八條ノ規定ハ本節ノ手當ニ之  
ヲ準用ス

第二節 宿舍手當

第三十九條 臺灣ニ在勤スル准士官以上及軍屬  
ニ宿舍ヲ貸與セザルトキハ第八表ニ依リ手當

ヲ給ス

第四十條 第十條ノ規定ハ前條ノ手當ニ之ヲ準  
用ス

第四十一條 下士卒陸上勤務外宿中下士ニ在リ  
テハ一日五錢、卒ニ在リテハ一日三錢ノ手當  
ヲ給ス

第四十二條 前條ノ手當ハ依願歸郷、入院、留  
置、收禁、處刑中又ハ被告事件ノ爲護送中ハ  
其ノ間之ヲ停止ス

第四十三條 監獄看守ニハ土地ノ狀況ニ依リ一  
箇月三圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第三節 生徒及學生手當

第四十四條 將校生徒及機關生徒ニハ一日十八  
錢、學生軍醫學生、藥劑學生、主計學生、道級ニハ一日五  
十錢、造兵生徒ニハ一日四十二錢ノ手當ヲ給

ス

第四十五條 生徒及學生入院ヲ爲ストキハ其ノ  
間前條手當ノ三分ノ一ヲ給ス

第四十六條 生徒及學生留置、收禁、處刑中、被  
告事件ノ爲メ護送中又ハ私事ニ因リ在校セザ  
ルトキハ其ノ間第四十四條ノ手當ヲ停止ス

第四十七條 將校生徒及機關生徒ニハ入校ノ際  
被服其ノ他日用品ノ初度手當トシテ七十五圓  
ヲ給ス

第四十八條 將校生徒及機關生徒天災其ノ他避  
クヘカラサル事故ニ因リ被服其ノ他日用品ヲ  
亡失シタルトキハ前條ノ金額以内ニ於テ手當  
ヲ給スルコトヲ得

第四十九條 品行不長又ハ怠惰ニ因リ學生又ハ  
造兵生徒ヲ免シタルトキハ既ニ給シタル金額

ヲ辨償セシム

第五十條 將校生徒及機關生徒ニハ入校ノ際六箇月分以内ノ手當ヲ前金渡スルコトヲ得

第四節 再服役手當

第五十一條 下士卒再服役ニ就キタルトキハ其ノ際第九表ニ依リ手當ヲ給ス但シ再服役ノ期間一箇年ニ滿タサルトキハ之ヲ給セス

第五節 勞働手當

第五十二條 下士卒潜水ノ事業ニ從事スルトキハ一日一圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十三條 下士卒左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ一日二十五錢以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得  
一 艦底、瀛罐内、機關室底部又ハ水罐底部ノ掃除ニ從事スルトキ

二 艦船ニ於テ石炭積込ノ際石炭庫内ノ事業ニ

從事スルトキ

三 難破船又ハ漂流人ノ救助ニ從事スルトキ  
四 前各號ニ準スヘキ非常ノ勞働ニ從事スルトキ

第五十四條

下士卒熱帶地方其ノ他炎熱ノ場所ニ於テ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ一日十二錢以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

一 艦船ニ在リテ瀛氣中機關部ノ事業ニ從事シ又ハ厨房ノ事業ニ從事スルトキ但シ小蒸氣艇ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二 北緯三十度以南ノ陸地ニ於テ瀛氣中機關部ノ事業ニ從事スルトキ

前項ノ手當ヲ給スル期間ハ熱帶地方ノ外ニ在リテハ暑期百二十日以内トス

第六節 被服手當

第五十五條

新ニ准士官以上ニ任用シ又ハ候補生ニ採用シタルトキハ其ノ際第十表ニ依リ初任手當ヲ給ス但シ准士官ヨリ士官ニ任用シタルトキハ之ヲ給セス

兵曹長又ハ機關兵曹長ヨリ各其ノ上官ニ進級シタルトキハ第十表初任手當士官ノ額ヲ給ス前二項ノ規定ハ召集中ニ非サル豫備役後備役准士官以上及豫備候補生ニモ之ヲ適用スルコトヲ得

第五十六條

准士官以上及候補生艦船ノ破壊又ハ沈没ニ因リ被服ヲ失シタルトキハ第十表ニ依リ臨時手當ヲ給スルコトヲ得

第五十七條

下士卒ニハ被服修補手當トシテ一箇月十錢ヲ給ス

第五十八條

前條ノ手當ハ支給定日ニ於テ入院

留置、收禁、處刑中又ハ被告事件ノ爲護送中ノ者ハ之ヲ停止ス

第五十九條 監獄看守又ハ警査ニ採用シタルトキハ其ノ際初度手當トシテ二十五圓ヲ給ス

第六十條 監獄看守及警査ニハ被服保續手當トシテ一箇年十圓ヲ給ス

第六十一條 前條ノ手當ハ毎年九月及三月ノ二期ニ分チ之ヲ支給ス

第六十二條 監獄看守及ヒ警査職務上避ケヘカラサル事故ニ因リ被服ヲ破亡又ハ亡失シタルトキハ臨時手當トシテ二十圓以内ヲ給スルコトヲ得

第七節 支度手當

第六十三條 艦船四箇月以上ノ豫定ヲ以テ東經九十度、西經百四十度、南緯三十四度、北緯

六十度ノ外ニ航海スルトキハ該艦船乗組准士官以上、候補生及文官ニハ出航ノ際第十一表ニ依リ手當ヲ給ス艦船出航後該艦船乗組ヲ命セラレ赴任スルトキ亦同シ

第一期練習中ノ候補生、前項經緯度内ニ在ル歸航中ノ艦船ニ乗組ヲ命セラレタル者又ハ外國旅費規則ニ依リ支度料ヲ受ケ出張中艦船乗組ヲ命セラレタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セ

第六十四條 前條經緯度外出航ハ命ヲ受ケタル艦船乗組ノ者ニシテ該艦船事故ニ依リ出航セサルトキ又ハ出航前官ノ都合ニ依リ乗組ヲ給セラレ若ハ死亡シタルトキハ手當ノ半額ヲ給ス但シ六箇月以内ニ於テ出航スルトキハ更ニ半額ヲ給ス

第八節 食卓手當

第六十五條 艦船乗組ノ准士官以上、候補生及文官ニハ第十二表ニ依リ手當ヲ給ス

第六十六條 前條ノ手當ハ公務旅行若ハ私事ニ因リ艦船ニ在ラサルトキ又ハ糧食ヲ給スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

第六十七條 第十條ノ規定ハ本節ノ手當ニ之ヲ準用ス

第六十八條 艦船航海ヲ爲ストキハ豫定日數以内、其ノ他ノ場合ニ於テハ一箇月分以内ノ手當ヲ前金渡スルコトヲ得

第五章 扶助金

第六十九條 志願兵ノ家族ニハ扶助金一箇月八十五錢ヲ給ス但シ召集中ノ下士卒ノ家族ニハ之ヲ給セス

第七十條 左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ扶助金ヲ停止ス

一 志願兵歸休ヲ命セラレタルトキハ其ノ翌月ヨリ

二 志願兵所在不明ト爲リタル後又ハ檀ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ラ歸著ノ期ニ後レタル後二箇月ヲ過キタルトキハ其ノ翌月ヨリ所在判明又ハ復歸ノ前月迄

三 志願兵禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ翌月ヨリ刑期滿限ノ前月迄

四 志願兵ノ家族在不明ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ所在判明ノ前月迄

所在不明ノ志願兵所在判明シタルトキハ其ノ不明ト爲リタル原因正當ノ事由アル場合ニ限リ停止中ノ扶助金ヲ給ス

第七十一條 扶助金ハ毎年九月及三月ノ二期ニ分チ之ヲ支給ス

第六章 被服

第七十二條 下士卒ニハ第十三表ニ依リ被服物品ヲ交付ス但シ召集中ノ下士卒ニ交付スヘキ定數ハ第十三表ノ範圍内ニ於テ海軍大臣之ヲ定ム

第七十三條 嚴寒ノ地方ニ在ル下士卒又ハ同地方ニ航海スル艦船乗組ノ下士卒ニハ防寒服ヲ交付スルコトヲ得

第七十四條 下士卒ニ交付スル被服物品ハ交換期限及交換定數ヲ定メテ之ヲ交換ス其ノ期限及ヒ定數ハ海軍大臣之ヲ定ム但シ夏服略帽、麻襪、襟紐、襟飾、帽覆、袴鈞、靴、靴下、手袋、折メス紐、絹足袋、正服帽徽章、臂章、腹

卷及防寒服ハ之ヲ選付セシメス

第七十五條 下士卒豫備役、後備役、免官若ハ免役ト爲リ又ハ歸休ヲ命セラレタルトキハ被服物品ヲ給ス其ノ定數ハ海軍大臣之ヲ定ム但シ徵兵ニシテ入團ノ際傷疾又ハ疾病ノ爲現役ヲ給セラレタルトキハ之ヲ給セス

第七十六條 下士卒召集ヲ解カレタルトキハ適宜被服物品ヲ給スルコトヲ得前條但書ノ場合ニ於テ必要アルトキ亦同シ

第七十七條 下士卒死亡シタルトキハ葬儀ニ必要ナル被服物品ヲ給ス其ノ定數ハ海軍大臣之ヲ定ム

第七十八條 記章佩用ノ資格ヲ有スル下士卒ニハ其ノ記章ヲ給ス

第七十九條 左ノ各號ノ一二當ル場合ニ於テ必

要アルトキハ適宜被服物品ヲ給スルコトヲ得一難破船乗組ノ者又ハ漂流人ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

二局外中立ノ際交戰國ノ軍務ニ從事スル者ニシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者其ノ他避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

三外國ニ於ケル内亂又ハ事變ノ際避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

第七章 糧食

第八十條 左ノ各號ノ一二當ル者ニハ第十四表ノ量額ヲ最上限トシ糧食ヲ給ス

一營舎、學校、練習所及病院ニ屯在又ハ宿直スル准士官以上及候補生

二艦船乗組又ハ公務旅行ニ因ル艦船便覽ノ生徒、學生、下士卒及艦營備人

三營舎、學校、練習所及病院ニ屯在スル生徒、下士卒及艦營備人

四陸上勤務外宿中ノ下士卒

五臺灣ニ在勤スル准士官以上、候補生及軍屬六公務ニ原因シ海軍病院入院中ノ准士官以上候補生、軍屬及職工人夫

七海軍病院入院中ノ生徒、學生、下士卒及艦營備人

八在監ノ囚人及刑事被告人

九海軍官衛及艦船ニ於ケル拘禁又ハ護送中ノ者

第八十一條 左ノ各號ノ一二當ルトキハ前條ニ

準シ糧食ヲ給スルコトヲ得

一第六十五條ニ依リ食卓手當ヲ給スヘキ者ニ糧食ヲ給スルノ必要アルトキ

二海軍大臣ニ於テ演習ノ際職工人夫其ノ他ノ者ニ糧食ヲ給スルノ必要アリト認メタルトキ

三難破船救助ノ場合ニ於テ旅費ノ給與ヲ受ケサル者ニ糧食ヲ給スルノ必要アルトキ

四難破船乗組ノ者又ハ漂流人ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

五局外中立ノ際交戰國ノ軍務ニ從事スル者ニシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者其ノ他避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

六外國ニ於ケル内亂又ハ事變ノ際避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

七海軍大臣ニ於テ海軍病院收療中ノ外國軍人ニ糧食ヲ給スルノ必要アリト認メタルトキ

八下士卒海軍病院入院中豫備役、後備役、免

官若ハ免役ト爲リ又ハ召集ヲ解カレ退院スルコト能ハサルトキ

第八十二條 糧食ハ第十四表ニ掲クル品種又ハ量額ヲ給スルコト能ハサル場合ニ於テハ適宜品種又ハ量額ヲ定メテ之ヲ給スルコトヲ得

第八十三條 公務旅行又ハ私事ニ因リ艦船、營舎、學校、練習所又ハ病院ニ在ラサル者ニハ糧食ヲ給セス但シ生徒下士卒及ヒ艦營備人ニシテ夏季冬季ノ休暇及褒賞休暇ニ依ル上陸外出中ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條 陸上勤務外宿中ノ下士卒公務旅行又ハ依願歸郷中ハ糧食ヲ給セス

第八十五條 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニハ其ノ症狀ニ應シ糧食ノ幾分ヲ滋養食品ニ換ヘ之ヲ給スルコトヲ得

第八十六條 糧食ヲ給スルニ當リ其ノ口數十人以上ナルトキハ供食總數ノ十分ノ一二相當スル量額ヲ減シ減量食數ニ應シ食料ヲ給シ適宜食品ヲ買辦セシムルコトヲ得

第八十七條 左ノ各號ノ一二當ルトキハ糧食ヲ食料ニ換ヘ食數ニ應シ之ヲ給スルコトヲ得

一 營舎又ハ練習所ニ屯在スル准士官以上及候補生各別ニ炊爨スルトキ

二 生徒、下士卒及艦營備人ニ夏季冬季ノ休暇及褒賞休暇ヲ與フルトキ

三 現品ヲ以テ糧食ヲ給シ難キトキ

第八十八條 頭ニ依リ艦船便乘又ハ入院治療ヲ許可シタル者、旅費ノ給與ヲ受ケ艦船ニ乗組ミタル者其ノ他自ラ食事ヲ調辨スルコト能ハサル爲特ニ糧食ヲ給スルノ必要アリト海軍大

臣ニ於テ認メタル者ニハ糧食ヲ給スルコトヲ得

前項ニ依リ糧食ヲ給シタルトキハ其ノ食料ヲ辨價セシム

第八十九條 第八十六條乃至第八十八條ノ食料ハ前三年度間ノ糧食平均價格ニ依リ海軍大臣之ヲ定ム但シ第八十六條ニ依リ驅逐艦、水雷艇ニ於テ給スル食料及第八十七條第三號ニ依リ水雷艇ニ於テ給スル食料ハ平均價格ノ三割増以內ニ於テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 第六十八條ノ規定ハ本章ノ食料ニ之ヲ準用ス

第八章 治療

第九十一條 左ノ各號ノ一二當ルトキハ其ノ治療ニ要スル費用ヲ官費支辨トス

一 生徒、學生及下士卒并公務ニ原因シ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル准士官以上、候補生、軍屬及職工人夫ヲ海軍病院ニ收療シ又ハ所左ノ病院若ハ醫師ニ依リテ治療スルトキ

二 治療所ノ設備アル艦團其ノ他各部ニ於テ該艦團其ノ他各部ニ在ル軍人軍屬及拘禁中ノ常人并公務ニ原因シ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル職工人夫ヲ收療スルトキ

三 外國又ハ臺灣ニ於テ艦船乗組ノ軍人軍屬ヲ所在ノ病院又ハ醫師ニ依リテ治療スルトキ

四 護送中ノ囚人又ハ刑事被告人ヲ所在ノ病院又ハ醫師ニ依リテ治療スルトキ

第九十二條 左ノ各號ノ一二當ルトキハ其ノ治療ニ要スル費用ヲ官費支辨トス

療ニ要スル費用ヲ官費ニ支辨ト爲スコトヲ得  
 一 難破船乗組ノ者又ハ漂流人ヲ艦船ニ收療ス  
 ルトキ

二 局外中立ノ際交戰國ノ軍務ニ從事スル者ニ  
 シテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者其ノ  
 他避難者ヲ艦船ニ收療スルトキ

三 外國ニ於ケル内亂又ハ事變ノ際避難者ヲ艦  
 船ニ收療スルトキ

四 海軍大臣ニ於テ海軍病院ニ收療スル外國軍  
 人治療費ヲ官費支辨ト爲スノ必要アリト認  
 メタルトキ

五 下士卒豫備役、後備役、免官若ハ免役ト爲  
 リ又ハ召集ヲ解カレタル際傷痍又ハ疾病ノ  
 爲歸郷スルコト能ハサルトキ

六 備入地外ニ於テ艦船乗組ノ艦營備人ヲ海軍

病院ニ收療シ又ハ所在ノ病院若クハ醫師ニ  
 依托シテ治療スルトキ

第九十三條 海軍病院又ハ治療所ノ設備アル艦  
 團其ノ他各部ニ於テ前二條ニ該當セサル者ヲ  
 收療シタルトキハ其ノ費用ヲ辨償セシム其ノ  
 定額ハ海軍大臣之ヲ定ム

第九章 埋葬

第九十四條 生徒、學生若ハ下士卒死亡シ又ハ  
 艦船乗組ノ艦營備人備入地外ニ於テ死亡シタ  
 ルトキハ生徒、學生及下士卒ニ在リテハ二十三  
 圓、卒及艦營備人ニ在リテハ十八圓ヲ最上限  
 トシ官費ヲ以テ之ヲ埋葬ス但シ遺族又ハ故舊  
 ニシテ死體ノ引渡ヲ請フ者アルトキハ本條ノ  
 金額以內ヲ給ス

前項ノ死亡者ニシテ外國若ハ臺灣ニ於テ官費

ヲ以テ其ノ死體ヲ埋葬スルトキ又ハ傳染病ニ  
 罹リタルモノナルトキハ前項ノ制限ニ拘ラス  
 特ニ實費支辨ト爲スコトヲ得

第九十五條 艦船乗組ノ准士官以上、候補生及  
 文官外國又ハ臺灣航海中死亡シ其ノ地ニ於テ  
 死體ヲ埋葬スルノ必要アルトキハ官ニ於テ之  
 ヲ行ヒ其ノ費用ヲ實費支辨ト爲スコトヲ得

第九十六條 下士卒入院中豫備役、後備役、免  
 官若ハ免役ト爲リ又ハ召集ヲ解カレ退院前死  
 亡シ死體引取人ナキトキハ第九十四條ノ規定  
 ヲ準用ス

附則

第九十七條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ  
 之ヲ施行ス

第九十八條 監獄書記及監獄看守長ニシテ本令

施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサル者ハ現ニ受  
 クル俸給額相當ノ等級俸ヲ受クルモノトス

第九十九條 本令施行ノ際一日二十錢ノ手當ヲ  
 受クル生徒ニハ在校中仍同金額ヲ給ス

第一百條 本令施行前徵募セシ志願兵ニ歸休ヲ命  
 シタルトキハ其ノ現役滿期又ハ再服役ニ就キ  
 タル月迄扶助金ヲ給ス

本令施行ノ際現ニ一箇月一圓七十五錢ノ扶助  
 金ヲ受クル志願兵ノ家族ニハ其ノ現役滿期又  
 ハ再服役ニ就キタル月迄仍同金額ヲ給ス

第一百一條 海軍軍人俸給令、外國駐在海軍武官  
 手當金規則、臺灣島及澎湖島駐在海軍々人軍  
 屬給與規則、海軍生徒學生手當金規則、海軍下  
 士卒手當金規則、海軍監獄看守海軍警查被服  
 料給與令、海軍被服條例、海軍糧食條例、明

治二十三年勅令第十五號、同勅令第百五十號、  
 明治二十四年勅令第百三十二號、明治二十五年  
 勅令第七十四號、明治二十六年勅令第二百  
 七號、明治二十七年勅令第七十八號、明治二  
 十八年勅令第五十一號、明治二十九年勅令第  
 二十三號、明治三十年勅令第五十一號、同勅  
 令第百三十號、同勅令第百三十一號、同勅令  
 第三百六十八號、明治三十二年勅令第二號、同  
 勅令第三百三十七號及明治三十六年勅令第六  
 號ハ之ヲ廢止ス

第一表乃至第十四表ハ略ス  
 三十七年勅令第百八十三號附則ニ曰ク第  
 七十二條ニ依リ下士卒ニ交付スヘキ被服  
 物品ニ付テハ當分ノ内舊第十三表ニ依ル  
 コトヲ得ト

○海軍准士官下士任用進級條例

明治二十九年九月初令第三百一號公布  
 明治三十六年二月勅令第百十五號改正

第一條 海軍准士官ハ海軍一等下士ヨリ任用ス  
 第二條 海軍下士ハ三等ヲ初任トシ左ノ區別ニ  
 從ヒ任用ス  
 一 三等兵曹ハ一等水兵ヨリ任用ス  
 二 三等信號兵曹ハ一等信號兵ヨリ任用ス  
 三 三等船匠手ハ一等木工ヨリ任用ス  
 四 三等軍樂手ハ一等軍樂生ヨリ任用ス  
 五 三等機關兵曹ハ一等機關兵ヨリ任用ス  
 六 三等鍛冶手ハ一等鍛冶ヨリ任用ス  
 七 三等看護手ハ一等看護ヨリ任用ス  
 八 三等厨宰ハ一等主厨ヨリ任用ス  
 三等筆記ノ任用ハ明治二十九年勅令第百四十

六號及ヒ第二百四十四號ニ依ル

第三條 年齢二十年未滿ノ者ハ海軍下士ニ任用  
 スルコトヲ得ス

第四條 海軍准士官下士ノ任用進級ハ總テ拔擢  
 チ以テシ級ヲ逐ヒ歴進セシム直シ缺員ナキト  
 キハ任用進級ナ行ハス

第五條 海軍准士官下士ハ任用進級試験ニ合格  
 シタル者ニアラサレハ任用進級セシムルコト  
 ナ得ス但シ特殊ノ技能ヲ有スル者ニ限り其ノ  
 試験ヲ用ヒスシテ任用進級セシムルコトヲ得  
 戦時若クハ事變ニ際シテハ前項ノ試験ヲ行ハ  
 スシテ任用進級セシムルコトヲ得  
 任用進級試験ニ關スル規定ハ海軍大臣之ヲ定

第六條 任用進級試験ハ第七條ニ掲クル實役停

年最下期限ヲ超エタル者ニアラサレハ受クル  
 コトヲ得ス

第七條 實役停年最下期限ヲ定ムルコト左ノ如  
 シ

一 一等卒ヨリ三等下士ニ任スルハ海上勤務一  
 箇年若クハ陸上勤務一箇年四箇月  
 二 三等下士ヨリ其ノ上級ノ官ニ進ムハ海上勤  
 務一箇年若クハ陸上勤務一箇年四箇月  
 三 二等下士ヨリ其ノ上級ノ官ニ進ムハ海上勤  
 務一箇年若クハ陸上勤務二箇年  
 四 一等下士ヨリ准士官ニ任スルハ海上勤務二  
 箇年若クハ陸上勤務二箇年八箇月  
 第八條 實役停年ハ海上勤務若クハ陸上勤務ヲ  
 以テ算ス  
 海上勤務ヲ陸上勤務ニ改算スルニハ海上勤務



日數ニ其ノ三分ノ一ヲ加ヘ陸上勤務ヲ海上勤務ニ改算スルニハ陸上勤務日數ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減ス

第九條 海上勤務トハ艦船ニ乗組ミ服務スルヲ謂フ其ノ艦船ノ種類ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十條 海上勤務ノ者ニシテ公務ニ原因セサル傷疾疾病ニ依リ陸上若クハ病院船ニ在ル間ノ日數ハ海上勤務ニ算入スルコトヲ得ス

第十一條 逃亡、收禁、處刑及自己ノ願ニ依リ歸省中ノ日數并ニ正當ノ理由ナクシテ敵ノ捕虜トナリタル間ノ日數ハ實役停年ニ算入スルコトヲ得ス但シ收禁後無罪ノ宣告ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 戰時ニ在テハ實役停年最下期限ヲ其ノ半ニ減スルコトヲ得

第十三條 將校及其ノ相當官ハ各其ノ職權ニ依リ部下ヲ拔擢スルノ權ヲ有ス但シ直屬長官ノル者ハ其ノ監督ノ下ニ在テ之ヲ行フ

第十四條 下士ノ任用進級ハ在籍鎮守府司令長官之ヲ行ヒ其ノ艦隊司令長官ニ屬スル者ハ艦隊司令長、要港部司令官ニ屬スル者ハ要港部司令官之ヲ行フ

一等下士ヨリ准士官ニ任スルハ海軍大臣之ヲ行フ  
任用進級取扱ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十五條 前諸條ハ現役者ニノミ適用ス

第十六條 戰時若クハ事變ニ際シ現役海軍准士官下士ニ缺員ヲ生シタル場合ニ於テ現役海軍下士若クハ一等卒ヨリ任用進級セシメ其ノ補

充テ爲ス能ハサルトキハ前諸條ニ準據シ召集中ノ豫備役後備役海軍下士及一等卒ヲ任用進級セシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ召集中ノ勤務日數ヲ現役中ノ勤務日數ニ通算ス

第十七條 戰時若クハ事變ニ際シ勳績アル者又ハ多年現役ニ服シ任用進級資格ヲ備ヘ且拔群ノ勤務顯著ノ成績若クハ俊秀ノ伎倆アル者ニシテ現役ヲ退キタルトキハ其ノ際特ニ任用進級セシムルコトヲ得但シ恩給ヲ受クル資格ニ在テハ前官等若クハ前職ニ依ル

第十八條 豫備役後備役海軍下士若クハ一等卒ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集中ニ勳績アリタル者召集ヲ解キタルトキハ其ノ際特ニ任用進級セシムルコトヲ得但シ恩給ヲ受クル資

格ニ在テハ勲官等ニ依ルコトヲ得ス

第十九條 左ノ場合ニ在テハ第十四條ニ依ルノ外他ノ定規ニ關セス任用進級セシムルコトヲ得

一 敵前ニ在テ殊勳ヲ奏セシトキ  
二 戰時ニ在テ人員多ク缺乏シ叙任ノ規定ヲ履ム能ハサルトキ

附則

第二十條 明治二十三年勅令第百五十二號海軍下士任用進級條例及明治二十七年勅令第百九十九號海軍豫備後備武官進級任用條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

編者曰ク該條例ハ公布ノ後三十三年勅令第百六十四號及ヒ三十六年勅令第百五號ニテ改正セラレタルモノニシテ悉ク之

ヲ修正シ其條ノ全文例ヲ掲ケテ

○海軍筆記任用令

明治二十九年四月勅令第四百四十六號公布  
明治三十六年五月勅令第九十二號改正

第一條

海軍筆記ハ身體検査及ヒ學術試験ヲ行  
ヒ合格シタル者及海軍筆記適任證書ヲ有スル  
現役卒ニ就キ鎮守府司令長官之ヲ任用ス其ノ  
初任ハ三等筆記トス  
身體検査及學術試験ニ關スル規定ハ海軍大臣  
之ヲ定ム

第二條

左ニ掲ケル諸項ノ一ニ該ル者ハ海軍筆  
記ニ任用スルコトヲ得ス  
一 年齢二十年未滿及ヒ三十三年以上ノ者  
二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者  
三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復権ヲ得

サル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ  
終ヘサル者

第四條

豫備役ニ在ル海軍下士、豫備役後備役  
ニ在ル海軍卒ハ本令ニ依リ海軍筆記ニ任用ス  
ルコトヲ得

第五條

前項ニ依リ任用セラレタル者ノ服役期限ニ關  
シテハ更ニ海軍下士卒服役條例ヲ適用ス  
編者曰ク本令ハ公布ノ後三十一年勅令第  
百二十五號及ヒ三十六年勅令第九十二號  
ヲ以テ改正セラレタルニ依リ今之ヲ修正  
シテ其全文ヲ現ハス

○海軍筆記任用試験規則

明治二十九年四月海軍省令第十號公布  
明治三十六年五月令第九十二號改正

第一條

海軍筆記任用試験ヲ行ハントスルトキ  
ハ鎮守府ハ之ヲ官報及新聞紙ニ掲載シテ公告  
ス

第二條

海軍筆記ヲ志願スル者ハ前條ノ公告ニ  
從ヒ願書第一號ニ履歷書第二號并ニ戶籍吏ノ作り  
タル戶籍謄本ヲ添ヘ鎮守府ニ差出スヘシ

第三條

試験ハ分テ身體検査及ヒ學術試験ノ二  
トス學術試験ハ身體検査ニ合格シタル者ニア  
ラサレハ行ハス

第四條

學術試験科目ハ左ノ如シ  
讀書漢文歴史類 作文通俗文 算術四則但算  
書法算行

第五條

試験委員ハ鎮守府司令長官之ヲ命ス

第六條

削除  
第一號書式 用紙美濃紙ニツ折一通

海軍筆記任用試験願

氏 名

何年何月何日生  
至何年何月何日

私儀海軍筆記任用試験相受度履歷書相添此段  
奉願候也

年月日

本籍

現住所

氏名

印

何鎮守府

御中

第二號書式 用紙美濃紙二ツ折一通

履歷書

何府縣華士族平民

戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍

氏名

何年何月何日生  
年幾月何年何箇月

一本籍(國都市區町村番地ヲ詳記シ寄留ノ者  
ハ寄留地ノ住所ヲモ詳記スヘシ)

一現住地(右同)

一豫備役後備役海軍下士卒ナレハ海軍奉職中  
ノ事歴

一修學

一職業技藝等

一官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事

一賞罰

一破産若クハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處  
分ヲ受ケス(身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ  
受ケント雖モ辨價ヲ完了セリ)  
前書相違無之候也

何府縣何國何郡市區何町村

年月日 市區町村長(本籍ノ市  
區町村長)氏名印

○海軍主計官練習所條例

明治三十二年五月勅令第百九十三號公布  
明治三十六年五月勅令第百九十三號改正

第一條 海軍主計官練習所ハ少主計候補生ヲシ  
テ海軍主計官ニ必要ナル職務ヲ練習セシメ兼  
子テ筆記厨宰及一二等主厨并筆記ト爲スハキ  
卒ヲシテ實務ヲ練習セシムル所トス  
前項ノ外必要ニ依リ主計官及上等筆記ヲシテ  
其ノ職務ヲ練習セシムルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ練習スル准士官以上及候補

生ヲ學生ト稱シ下士卒ヲ練習生ト稱ス

第三條 海軍主計官練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

監事

教官

第四條 所長ハ海軍省經理局長ニ隸シ所務ヲ總

理ス

第五條 監事ハ所長ノ命ヲ承ケ學生及練習生ヲ

監督ス

第六條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ

擔任ス

第七條 海軍主計官練習所ニ准士官、下士及書

記ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第八條 練習生ハ左ノ三種ニ區別ス

一 甲種練習生

二 乙種練習生

三 丙種練習生

第八條ノ二 甲種練習生ハ筆記、厨宰及一二等

主厨ニシテ左ノ各號ニ適合シ練習生タラムコ

ト志願スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 身體強健ニシテ品行方正ナル者

二 海軍出身以來滿二年ヲ經過シタル者

三 卒業後三年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服ス

ヘキコトヲ誓約スル者

四 採用試験ニ合格シタル者又ハ乙種練習生修

業證書ヲ有スル者

第八條ノ三 乙種練習生ハ筆記、厨宰及一二等

主厨ニシテ左ノ各號ニ適合シ練習生タランコ

ト志願スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

第二條 前條ニ依リ練習スル准士官以上及候補

生ヲ學生ト稱シ下士卒ヲ練習生ト稱ス

第三條 海軍主計官練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

監事

教官

第四條 所長ハ海軍省經理局長ニ隸シ所務ヲ總

理ス

第五條 監事ハ所長ノ命ヲ承ケ學生及練習生ヲ

監督ス

第六條 教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ

擔任ス

第七條 海軍主計官練習所ニ准士官、下士及書

記ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第八條 練習生ハ左ノ三種ニ區別ス

一 甲種練習生

二 乙種練習生

三 丙種練習生

第八條ノ二 甲種練習生ハ筆記、厨宰及一二等

主厨ニシテ左ノ各號ニ適合シ練習生タラムコ

ト志願スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 身體強健ニシテ品行方正ナル者

二 海軍出身以來滿二年ヲ經過シタル者

三 卒業後三年以上現役ニ服スヘキ者又ハ服ス

ヘキコトヲ誓約スル者

四 採用試験ニ合格シタル者又ハ乙種練習生修

業證書ヲ有スル者

第八條ノ三 乙種練習生ハ筆記、厨宰及一二等

主厨ニシテ左ノ各號ニ適合シ練習生タランコ

ト志願スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 身體強健ニシテ品行方正ナル者  
 二 練習生タルヘキ學力及技能ヲ有スト認メタル者

第八條ノ四 丙種練習生ハ一二等卒ニシテ左ノ各號ニ適合シ筆記タラムコトヲ志願スル者ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

一 身體強健ニシテ品行方正ナル者  
 二 練習中服役滿期トナルモ再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

三 採用試験ニ合格シタル者

第九條 甲種練習生卒業後滿四年ヲ經過シ復習ヲ爲サムトスル者アルトキハ更ニ第八條ノ二ニ依リ選抜スルコトヲ得

第十條 學生卒業シタルトキハ之ニ卒業證書ヲ授與ス

甲種練習生卒業シタルトキハ之ニ掌記證狀ヲ授與ス

乙種練習生卒業シタルトキハ之ニ修業證書ヲ授與ス

丙種練習生卒業シタルトキハ之ヲ筆記適任證書ヲ授與ス

第十一條 掌記證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ二等ニ分ツ

第十二條 掌記證狀ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ附與ス

第十三條 掌記證狀ノ有効期限ハ五箇年トス其ノ期滿ソレハ臂章ヲ除去ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテ其ノ有効期限ヲ延ハスコトヲ得

第十四條 學生及ヒ練習生ノ採用其ノ他ニ關スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム

附則

本令施行前ニ卒業シタル練習生ニモ掌記證狀ヲ授與スルコトヲ得

編者曰ク該條例ハ公布ノ後三十三年勅令第二百三十三號三十四年勅令第六十一號及ビ三十六年勅令第九十三號等ニテ改正セラレタルニ因リ悉ク之ヲ修正シ以テ其全文ヲ掲載ス

○海軍經理部條例

明治三十六年十一月勅令第百七十四號

第一條 各軍港ニ海軍經理部ヲ置ク

海軍經理部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 海軍經理部ハ鎮守府ニ屬シ會計經理、造兵造船ノ材料物件ニアラサル通常物品ノ購買供給、鎮守府所管一般及其ノ所屬艦船團並

軍港境域内ニ在ル其ノ他ノ諸官衙ノ會計事務ノ監督、管區内ニ在ル艦船團其他ノ各部諸官衙ノ金櫃物件及帳簿ノ監査ヲ掌リ第一課第二

課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム  
 海軍經理部ニ衣糧科ヲ置キ衣服糧食ノ準備保存供給ニ關スルコトヲ掌ラシム

海軍經理部ニ建築科ヲ置キ官有財産、建築及土木ニ關スルコトヲ掌ラシム

第三條 海軍經理部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

第一課長

第二課長

課員

衣糧科長

衣糧科員

建築科長

建築科科員

第四條 海軍經理部長ハ鎮守府司令官ニ隸シ部  
務ヲ掌理ス但會計事務ノ監督及金櫃物件帳簿  
ノ監査ニ就テハ海軍大臣ニ直隸ス

第五條 課科長ハ部長ノ命ヲ承ケ各其ノ課科ノ  
事務ヲ掌ル

課科員ハ其ノ所屬課科長ノ命ヲ承ケ服務ス

第六條 前諸條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同  
相當官准士官下士卒及書記技手ヲ置キ各上官  
ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十六年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

○防禦海面令

明治三十七年一月勅令第十一號

第一條 海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ區域ヲ  
限リテ本令ニ依ル防禦海面ヲ指定スルコトヲ  
得其ノ指定及之カ解除ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第二條 緊急ノ必要アルトキハ鎮守府司令官  
要港部司令官ニ於テ前條ノ指定ヲ爲スコトヲ  
得此ノ場合ニ於テ其ノ指定及之カ解除ハ鎮守  
府司令官、要港部司令官之ヲ告示ス

第三條 防禦海面ニ於テハ日没ヨリ日出迄陸海  
軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航  
ヲ禁ス

第四條 防禦海面ニ屬スル軍港及ヒ要港ノ區域  
内ニ於テハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船  
舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第五條 防禦海面ヲ出入若ハ通航シ又ハ之ニ碇  
泊スル船舶ハ其ノ一切ノ行動ニ付所管鎮守府

司令長官、要港部司令官ノ指示ニ遵フヘシ

第六條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ必要  
ト認ムルトキハ防禦海面ニ於ケル漁獵、採藻  
其ノ他軍事上障害トナルヘキ行為ヲ禁止シ又  
ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ適當  
ト認メタル船舶ニ對シ殊ニ本令ノ禁止又ハ制  
限ノ全部又ハ一部ヲ解クコトヲ得

第八條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違  
背シタル船舶ニ對シテハ航路ヲ指定シテ防禦  
海面外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ遵ハサルモノニ對シテハ必要ニ  
應シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第九條 第三條乃至第五條ノ規定ニ違背シタル  
トキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執レル者ヲ一

年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第六條ノ禁止又ハ制限ニ違背シタル者  
ハ六月以下ノ重禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

追 加

勅令第二百十二號

明治三十七年九月二十八日

徵兵令中左ノ通改正ス

第四條中「後備兵役ハ」ノ下ニ「陸軍ハ十箇年海軍ハ」ヲ加フ

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在リテハ十二箇年四箇月海軍ニ在リテハ一箇年ニシテ其ノ年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員ニ服ス

第六條第二項中「後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者」ヲ「陸軍ニ在リテハ後備兵役又ハ召集セラレタル補充兵ニシテ其ノ役ヲ終リタル者海軍ニ在リテハ後備兵役ヲ終リタル者」ニ改ム  
第十七條第一項第二項中「第一補充兵」ヲ「陸軍

補充兵」ニ改メ第三項ヲ削ル

第二十四條中「第一補充兵」ヲ「陸軍補充兵」ニ改ム

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ於ケル第一補充兵及第二補充兵ハ前後ノ服役ヲ通算シテ十二箇年四箇月ニ滿ツル迄補充兵役ニ服セシム  
本令施行ノ際第一國民兵役ニ在ル陸軍出身者ニシテ服役尙五箇年ニ滿タサル者ハ五箇年ニ滿ツル迄後備兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ後備兵役ニ、第一補充兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ補充兵役ニ服セシム

勅令第二百十三號

明治三十七年九月二十八日

陸軍服役條例中左ノ通改正ス

第四十一條中「上等計手四十五歳」ヲ削ル  
 第四十六條中「上等計手」ヲ削ル  
 第四十八條第二項中「及豫備役後備役計手ヨリ上等計手ニ進級シタル者」ヲ削ル  
 第四十九條ノ二中「十二年四箇月」ヲ「十七年四箇月」ニ改ム  
 第五十四條ニ左ノ一項ヲ加フ  
 志願ニ依ラズシテ兵卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ノ現役服役期限ハ前項ニ依ラス入隊ノ月ヨリ三箇年トス  
 第五十五條第二號中「都督部」ヲ削ル  
 第六十五條乃至第六十七條、第七十二條、第九十一條及第九十六條中「十二年四箇月」ヲ「十七年四箇月」ニ改ム  
 第七十七條中「第二補充兵役」ヲ「補充兵役」ニ改ム

年四箇月」ヲ「十二年四箇月」ニ改ム  
 第八十八條中「十二年四箇月」ヲ「十七年四箇月」ニ改ム  
 第九十三條中「五箇年間」ヲ「十箇年間」ニ改ム  
 第九十四條中「十七年四箇月」ニ改ム  
 第九十五條中「第一補充兵第二補充兵」ヲ「補充兵」ニ改ム  
 第九十六條中「第一補充兵」ヲ「召集セラレタル者」ニ改ム  
 第九十七條中「其ノ他ノ者」ニ改ム  
 第九十八條、第九十九條、第一百零一條及第一百零二條ノ二中「第一補充兵」ヲ「補充兵」ニ改ム  
 第一百零八條中「及屯田各兵科下士卒」ヲ削ル  
 第一百零九條中「五箇年」ヲ「十箇年」ニ改ム  
 第一百一十條中「第一補充兵」ニ改ム  
 第一百一十一條中「第一補充兵」ニ改ム

第七十六條第一項中「十二箇年」ヲ「十七箇年」ニ改ム左ノ但書ヲ加フ  
 但シ志願ニ依ラスシテ兵卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ノ後備役服役期限ハ同年次ニ於ケル兵卒ト同一トス  
 附則  
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治三十六勅令第八十四號附則第五項、第六項及第八項ニ該當スル者ノ後備役服役期限ハ前服役ヲ通算シテ十七年四箇月ニ滿ツル迄トス  
 勅令第二百十四號  
 明治三十七年九月二十八日  
 陸軍一年志願兵條例中左ノ通改正ス  
 第八條中「五箇年」ヲ「十箇年」ニ改ム  
 附則  
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕第一國民兵役ニ在ル者ニシテ後備役ニ編入セラレタル者ノ服役ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 勅令第二百十五號  
 明治三十七年九月二十八日  
 明治三十七年勅令第二百十二號附則第三項ニ該當スル者ハ別ニ命ナクシテ第一國民兵役ニ編入ノ際ニ於ケル各兵科、部、官等級又ハ之ニ相當スル各兵科、部、官等級ノ下士兵卒タルモノトス  
 朕國民軍ノ給與ニ關スル件ヲ裁可ス  
 茲ニ之ヲ公布セシム  
 勅令第二百十六號  
 明治三十七年九月二十八日  
 戰時又ハ事變ニ際シ國民兵役ニ在リテハ召集セラレタル者及志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ノ給與ハ後備役ニ在ル者召集中ノ給與ニ同シ

明治三十七年十月十四日再版印刷  
全三十七年十月廿一日再版發行

海軍軍人必携

著作  
所有權

定價金五十錢

著作 著者 後藤 本馬

發行兼印刷者 東京市日本橋區通一丁目拾七番地 青木恒三郎

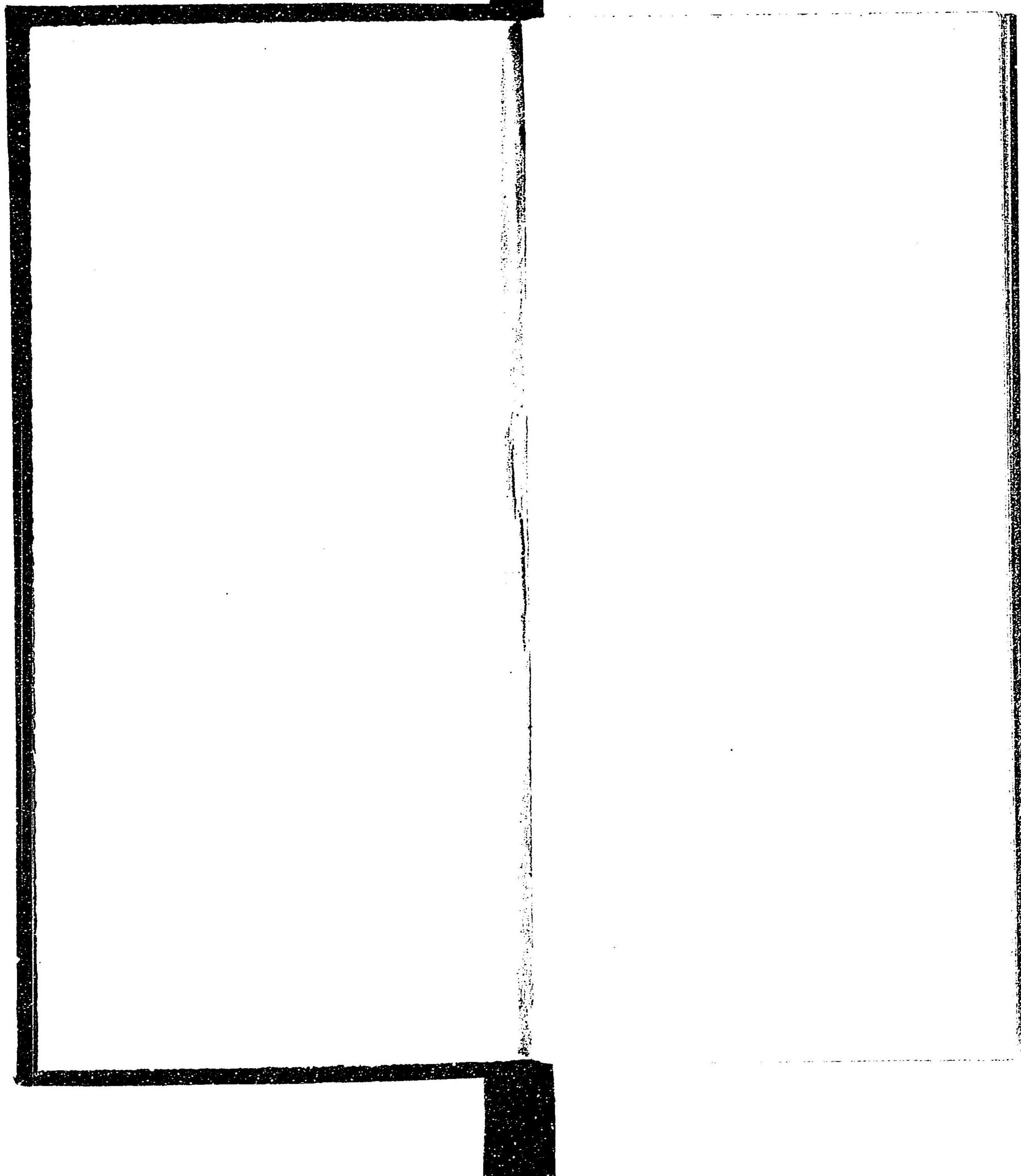
印刷所 大阪西區新町北通一丁目六十五番邸電話西七八貳 嵩山堂印刷部

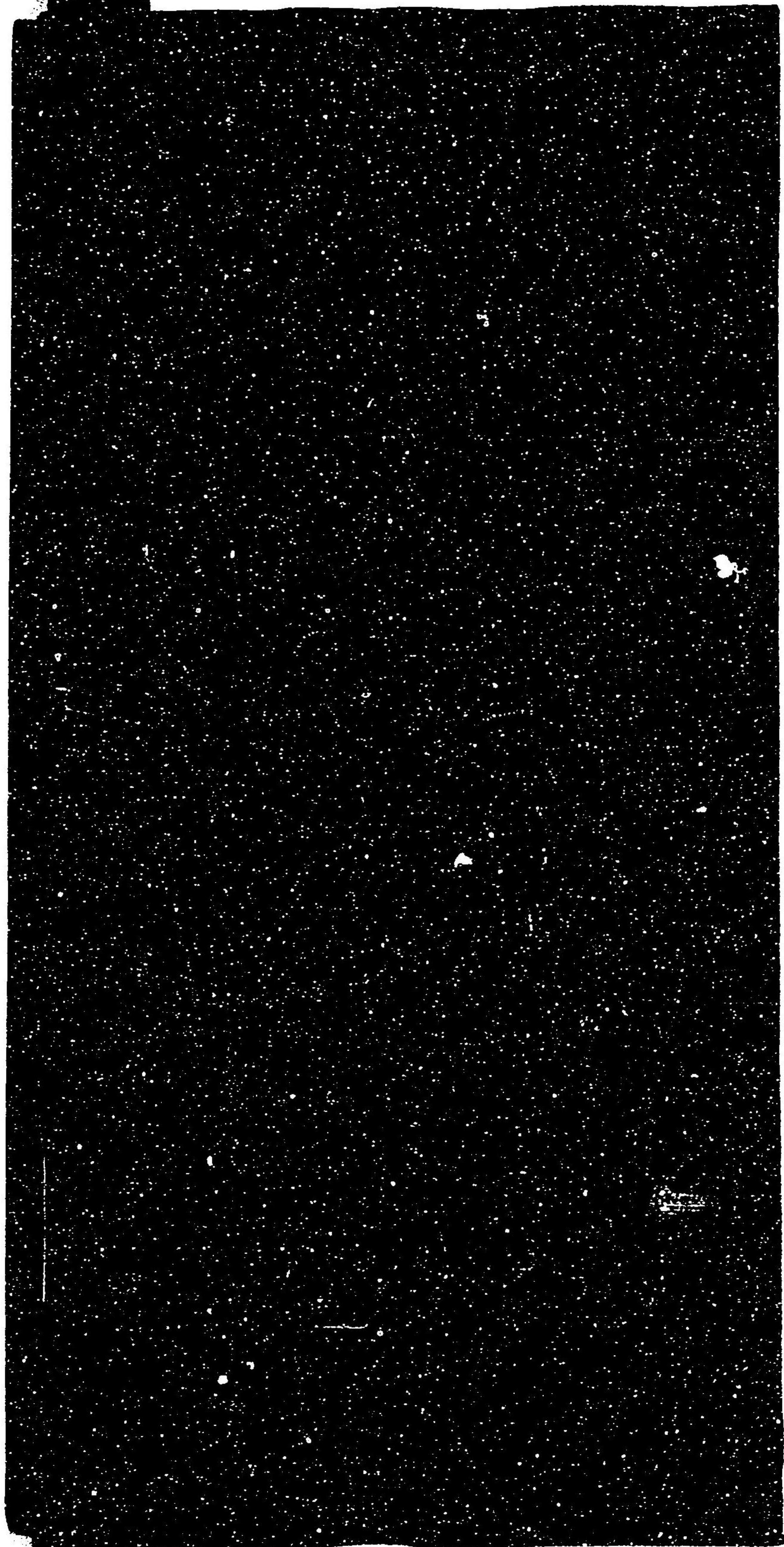
發行所 大阪市東區心齋橋筋博勞町角電話東貳五〇番 青木嵩山堂

發行所 東京市日本橋區通一丁目角電話陸本局七八九番 青木嵩山堂

賣捌所 伊勢四日市市整町 嵩山堂支店







052746-000-0

特66-208

日本海軍軍人必携

後藤 本馬/著

M37

BFH-0236



特

2



